

博士後期課程

シラバス

(令和5年度)

2023

日本大学大学院総合社会情報研究科

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

・日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

・多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

・社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

・世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

・論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

・問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

・挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

・コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

・リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

・省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced	
		1	2	3	4
自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。
		A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
	自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
		A-4：問題発見・解決力	事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。
	自ら道をひらく	A-5：挑戦力	新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
		A-6：コミュニケーション力	親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
		A-7：リーダーシップ・協働力	集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
		A-8：省察力	自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

— 目 次 —

総合社会情報専攻

現代政治学特殊研究	神井 弘之	2
国際政治論特殊研究	信夫 隆司	5
危機管理論特殊研究	川中 敬一	8
日本政治史論特殊研究	瀧川 修吾	11
国際メディア論特殊研究	安江 伸夫	14
国際メディア論特殊研究	川又 祐	17
開発政策論特殊研究	市岡 卓	20
日中比較社会論特殊研究	高綱 博文	23
日中比較社会論特殊研究	松重 充浩	26
経済理論特殊研究	後藤 康雄	29
国際経済政策論特殊研究	陸 亦群	32
国際経営論特殊研究	階戸 照雄	35
流通経営論特殊研究	加藤 孝治	38
ファミリービジネス論特殊研究	階戸 照雄	41
比較文学特殊研究	秋草俊一郎	44
翻訳論特殊研究	秋草俊一郎	47
日本文化特殊研究	井上 健	50
アジア文化特殊研究	清水 享	53
言語教育学特殊研究	保坂 敏子	56
言語学特殊研究	川嶋 正士	59
異文化間コミュニケーション論特殊研究	西田 司	62
第二言語習得論特殊研究	小柳かおる	65
言語教育方法論特殊研究	島田めぐみ	68
英語圏文化特殊研究	小澤 英実	71
社会哲学特殊研究	石浜 弘道	74
宗教哲学特殊研究	石浜 弘道	77
生命倫理特殊研究	橋本 和法	80
近現代哲学特殊研究	岡山 敬二	83
社会思想史特殊研究	石浜 弘道	86
教育思想史特殊研究	柴山 英樹	89
比較心理学特殊研究	眞邊 一近	92
産業・組織心理学特殊研究	田中堅一郎	95
行動分析学特殊研究	眞邊 一近	98
教育学特殊研究	北野 秋男	101
教育認識論特殊研究	北野 秋男	104
健康科学特殊研究	泉 龍太郎	107

総合社会情報専攻

(シラバス)

科目名	現代政治論特殊研究	担当者	カミイ ヒロユキ 神井 弘之	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	人口減少と価値観・利害関係の複雑化・多様化が進む我が国において、大量の情報が行き交うなかで、日々の政治現象について、体系的・客観的な評価・分析を行い、合理的で自律的な個人として政治的な判断を下すこと、その判断に基づいて、自らの所属する組織・コミュニティの意思決定に貢献することは、困難な課題となっています。 本講座では、現代の政治課題に関する基礎的な知識に加えて、政治理論など政治学に関する知識を獲得し、具体的な政治現象について体系的・客観的な評価・分析を行う技術を修得することにより、学修者が、合理的で自律的な個人として、また、所属する組織・コミュニティのリーダーとして、的確な政治判断を行うとともに、将来を見通した行動指針を提示する能力を身につけることを目的とします。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 学修者が、合理的・自律的な個人として、的確な政治判断を下すことが出来るよう、また、自らの所属する組織・コミュニティのリーダーとして、将来を見通して、課題への対処方針を打ち出すことが出来るよう、①現代の政治課題に関する知識、政治理論など政治学に関する知識を獲得し、②最近の我が国の具体的な政治現象について、体系的、かつ、客観的な評価・分析を行い、その結果を踏まえて、将来を見通した政治判断、行動指針の提示を行う技能を修得し、③常にグローバルな視座、歴史を俯瞰する視座から、政治現象の評価・分析、行動指針の検討等に臨む態度を身につけることを目標とします。 【行動目標（SBOs）】 ①（知識・想起・解釈）我が国における最近の政治課題から、官僚制、中央地方関係などの統治のしくみ、政党や利益団体、メディアなど民主政を支えるしくみ、政治現象を分析するための政治理論などを理解し、論理的に説明できる。 ②（知識・問題解決／技能）政治課題及び政治学に関する知見を活用して、我が国における具体的な政治現象を評価・分析することにより、合理的な個人として、的確な政治判断を下すとともに、その判断のプロセスと根拠について体系的に説明することができる。 ③（技能／態度）価値観・利害関係が多様化・複雑化し、大量の情報が行き交うなかで、具体的な政治現象について、体系的、かつ、客観的に評価・分析を行い、将来を見通して、自らの行動、所属する組織・コミュニティの行動を企図する際に、常にグローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を考慮することができる。【一般目標（GIO）】		
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioを利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。 【学修方略（LS）と学修時間】 ①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める（自習）【SBO①②】【15時間/レポート1本】 ②レポート課題に則して情報を収集・分析する（自習）【SBO②③】【15時間/レポート1本】 ③課題レポートの初稿を作成する（レポート作成）【SBO②③】【15時間/レポート1本】 ④manaba folioを利用したレポート添削で教員と意見交換を行う（ディベート）【SBO①②③】【15時間/レポート1本】		
スケジュール	【前期】レポート課題1は7月末に草稿提出、レポート課題2は8月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 【後期】レポート課題1は11月中旬に草稿提出、レポート課題2は12月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 ※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、複雑化する現代の政治現象を客観的、体系的に評価・分析する技能を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題1・2、後期レポート課題1・2に、それぞれ20%を配分します。
	観察記録	20 %	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応（例えば、加筆、修正のコメントに対する対応）を評価します。1つのレポート課題に、5%を配分します。
履修者への要望	本講座では、現代の我が国における政治現象を体系的・客観的に評価・分析できるよう、政治課題・政治学に関連する基礎的な知識を修得することを主な目的にしています。過去の政治現象をエピソードとして知ることには止まらず、自らが日々直面する具体的な政治現象について、的確な政治判断を下し、行動するために、政治学の知識を用いて、現状を批判的に評価・分析すること、その評価・分析を論理的に説明することを意識していただくことが必要と考えます。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、馬淵勝著 教材名： 『補訂版 政治学』（有斐閣、2011 年） ISBN978-4-641-05377-9 3,400 円＋税
	我が国における最近の政治課題から、官僚制、中央地方関係などの統治のしくみ、政党や利益団体、メディアなど民主政を支えるしくみ、政治現象を分析するための政治理論などを、体系的に解説した書籍です。政治について、主権者である国民(本人)が、政府(代理人)を雇って、自らの利益の実現(共通の目的)を図るしくみというに注目して整理しています。
参考図書	久米郁男著『原因を推論する 政策分析方法論のすゝめ』（有斐閣、2018 年） ISBN978-4-641-14907-6 1,800 円＋税 川出良枝・谷口将紀『政治学 第2版』（東京大学出版会、2022 年） ISBN978-4-13-032235-5 2,200 円＋税
履修上のポイント	基本教材1では、我が国の政治課題に関する情報と政治理論や分析のモデルなど政治学の知見が、幅広く、網羅的に記されています。まずは、基本教材1で政治学をめぐる全体像の把握に努めてください。
レポート課題1	我が国の内閣制度において、過去に首相の政治的リーダーシップを制約して来た要因と、近年、その制約要因に生じている変化を、3,000 字程度でまとめてください。この際、必ず、議院内閣制と大統領制の比較について記述したうえで、わが国において「大統領制の首相」の実現を目指すことへの学修者独自の評価について考察し、言及してください。 留意点： 基本教材1の記述を基に記述をまとめることが基本となりますが、単なる引用に終始することなく、自分なりの考察を加えることが重要です。なお、本講座の全てのレポート課題に共通して、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題2	我が国におけるマスメディアの世論への影響について、3,000 字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず、「議題設定機能」「フレーミング効果」「プライミング効果」「アナウンスメント効果」について触れてください。 留意点： 基本教材1の記述を基に記述をまとめることが基本となりますが、単なる引用に終始することなく、自分なりの考察を加えることが重要です。

基 本 教 材 2 (1)・(2)	
教材(1)の概要	著者名： 待鳥聡史著 教材名： 『政治改革再考 変貌を遂げた国家の軌跡』（新潮社、2020 年） ISBN978-4-10-603854-9 1,400 円＋税
	選挙制度改革、中央省庁再編、中央銀行改革、司法制度改革、地方分権改革など、1980 年代末から 2010 年代にかけて実行された、広範で大規模な政治改革について、その理念、内容、改革の帰結について記した書籍です。
教材(2)の概要	著者名： 佐々木毅編著 教材名： 『民主政とポピュリズム ヨーロッパ・アメリカ・日本の比較政治学』（筑摩選書、2018 年） ISBN 978-4-480-01668-3 1,500 円＋税
	欧州や米国、日本における近年の内政・外交の政治現象について、ポピュリズムの台頭との関係から読み解き、これからの民主政のあり方について展望した書籍です。
参考図書	竹中治堅著『首相支配-日本政治の変貌』（中公新書、2006 年） ISBN978-4-12-101845-8 990 円（税込） 待鳥聡史著『代議制民主主義 「民意」と「政治家」を問い直す』（中公新書、2015 年） ISBN978-4-12-102347-6 924 円（税込）
履修上のポイント	基本教材2（1）は、過去に政治改革の取組みが、現在の我が国の政治現象に大きな影響を及ぼしていることを考察するために重要な情報を体系的に提供しています。また、基本教材2（2）は、欧州・米国との比較から、我が国の民主政の課題について考察することを可能にしています。これらの教材を丹念に読み込むことで、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を身につけることが可能になり、今後の政治判断の方向性について、有益な示唆を得ることができるものと考えます。 レポート課題をまとめる際に、基本教材1で学んだ政治学に関する知識を活用するとともに、前期の参考図書である久米（2018）を参照していただくことで、論理的に評価・分析を行うことが可能になると考えます。
レポート課題1	基本教材2（1）で示された内閣機能強化について、改革の背景、改革案形成の経緯、改革の効果と課題について、3,000 字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず「選挙制度改革」、「土着化」、「小さな政府」に触れてください。 留意点： 基本教材2（1）の記述を基に記述をまとめることが基本となりますが、単なる引用に終始することなく、自分なりの考察を加えることが重要です。
レポート課題2	基本教材2（1）で示された選挙制度改革について、改革の背景、改革案形成の経緯、改革の効果と課題について、3,000 字程度でまとめてください。この際、基本教材2（2）で示された民主政に関する論点を踏まえて、我が国における選挙制度改革とポピュリズムの関係性について学修者が考察した内容について、必ず言及してください。 留意点： 基本教材2（1）及び（2）の記述を基に記述をまとめることが基本となりますが、単なる引用に終始することなく、自分なりの考察を加えることが重要です。

基本教材 1 (1)・(2)

第 1 回	基本教材 1 の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修①(「七人の侍」の政治学)
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修②(政策の対立軸・政治と経済・自由と自由主義)
第 4 回	基本教材 1 に基づく学修③(福祉国家・国家と権力・市民社会と国民国家)
第 5 回	基本教材 1 に基づく学修④(国内社会と国際関係・国際関係における安全保障／富の配分)
第 6 回	基本教材 1 に基づく学修⑤(議会・執政部・官僚制)
第 7 回	基本教材 1 に基づく学修⑥(中央地方関係・国際制度)
第 8 回	基本教材 1 に基づく学修⑦(政策過程・対外政策の形成・制度と政策)
第 9 回	基本教材 1 に基づく学修⑧(デモクラシー・投票行動・政治の心理・世論とメディア)
第 10 回	基本教材 1 に基づく学修⑨(選挙と政治参加・利益団体と政治・政党)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

基本教材 2 (1)・(2)

第 1 回	基本教材 2 (1)・(2) の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 2 (1) に基づく学修①(政治改革への視点・政治改革の全体像)
第 3 回	基本教材 2 (1) に基づく学修②(選挙制度改革・行政改革)
第 4 回	基本教材 2 (1) に基づく学修③(日本銀行・大蔵省改革)
第 5 回	基本教材 2 (1) に基づく学修④(司法制度改革・地方分権改革)
第 6 回	基本教材 2 (1) に基づく学修⑤(改革は終わったのか)
第 7 回	基本教材 2 (2) に基づく学修①(ヨーロッパ／第 1 章～第 6 章)
第 8 回	基本教材 2 (2) に基づく学修②(アメリカ／第 7 章)
第 9 回	基本教材 2 (2) に基づく学修③(日本／第 8 章～第 10 章)
第 10 回	基本教材 2 (2) に基づく学修④(現代民主政の変容を読み解くために)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

科目名	国際政治論特殊研究	担当者	シノブ 信夫 タカシ 隆司	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義は、国際政治における具体的な事象について、実証的に明らかにする意義を学ぶことを目的とする。具体的には、日米関係を対象として、以下のふたつの問題を取り上げる。 ひとつは、日米間で交わされた密約についてである。日米密約の存在については、これまでも議論されてきたものの、外交文書を基に、実証的に明らかにすることが困難であった。しかし、近年における外交記録の公開によって、密約の存在が明らかにされている。 もうひとつは、通常的外交チャンネルとは別に、いわゆる密使外交とはいかなるものであるかを理解することである。具体的には沖縄返還交渉における密使の役割について学修する。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 国際政治における具体的な事例を通して、問題の掘り下げ方、資料収集・分析の仕方を学ぶとともに、国際政治を理解するために一次資料の重要性を学修する。 【行動目標（SBOs）】 ・ 一次資料の収集の仕方、ならびに、資料の読解について基本的な知識を習得し、学位論文の作成にも役立てるようにする（技能・想起）。 ・ 一次資料を批判的に読みこなすことによって、国際政治事象の深奥を読み解くことができる能力を身につける（知識・解釈）。 ・ 具体的な事例を通して、問題点・考察すべき点を展開できる（問題解決）。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 レポートの作成1本につき、最低45時間を要する。具体的には、基本教材の理解（10時間）、レポート課題に関する参考文献の理解（10時間）、レポートの初校作成（15時間）、レポートの加筆・修正（10時間）である。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio・メール・Zoomなどを利用し、教員と院生との間で、双方向による指導をおこなうこととする。		
スケジュール	(1) 最終レポートの提出は、学年暦で定められた期限によること。 (2) レポート初校の提出は、前期では 7月中旬、後期では 11月中旬までとする。その過程で、必要に応じ、質疑応答をおこなう。 (3) 初校レポートに修正を施し、訂正を加えたうえで、期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	・ レポート課題に沿って、レポートが作成されていること。 ・ レポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。 ・ レポートとしての形式を備えていること。
	観察記録	30 %	・ 教員とのやりとりが十分におこなわれていること。 ・ 初校へのアドバイスが最終稿に反映されていること。
履修者への要望	この講義では、とくに、一次資料の重要性を学んでもらいたいと思います。とりあげるのは、日米密約、ならびに、密使外交です。 2010年に外務省による密約調査がおこなわれて以降、日米密約に関する研究は、それまで推測の域を出なかったものから、外交文書の分析をとおして、実証的に明らかにできるようになりました。もちろん、それにはアメリカ側の公文書の発掘も寄与してきました。 われわれが普段利用する書籍、学術論文、新聞記事等は、すべて二次資料です。それらの二次資料に記述されている内容の裏付けとなるのが一次資料です。一次資料は文書の形式によるものだけではありません。たとえば、インタビューや証言といった口頭の記録も重要になります。 博士後期課程の最大の目標は、学位論文を仕上げることです。その際、かならず一次資料の問題が出てきます。その重要性をこの講義をとおして学んでいただければと思います。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 信夫隆司 教材名： 『日米安保条約と事前協議制度』、弘文堂、2014 年。 ISBN9784335460333 3,800 円＋税
	本書は、1958 年から 1960 年迄の日米安保条約の改定交渉、ならびに、1969 年の沖縄返還交渉を対象とし、「核持ち込み」および「戦闘作戦行動のための基地使用」に関する事前協議制度を中心に、日米の交渉方針、交渉の実態と結果を詳細に分析したものである。
参考図書	太田昌克 『日米“核”同盟—原爆、核の傘、フクシマ』、岩波新書、2014 年。 ISBN9784004314981 880 円＋税
履修上のポイント	(1) 1960 年に改定された日米安保条約の交渉において、旧安保条約の何が問題とされていたのかを理解する。 (2) 現行の日米安保条約において、事前協議制度とはいかなるものかを理解する。 (3) 核持ち込み密約について理解する。 (4) 戦闘作戦行動（朝鮮議事録）について理解する。 (5) 沖縄返還交渉における核持ち込み問題を理解する。
レポート課題 1	旧安保条約と現行の安保条約の違いを明らかにしながら、事前協議制度とはいかなるものであるかを論じるとともに、この問題について私見を述べなさい（4,000 字程度） 留意点： 事前協議制度とは果たして実効性のあるものであるかを考察すること。
レポート課題 2	第二章から第四章までのうち、関心のあるテーマを選択し、分析するとともに、私見を述べなさい（4,000 字程度）。 留意点： どのテーマを選択してもよいが、なぜそのテーマを選択したかを明記すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 後藤乾一 教材名： 『「沖縄核密約」を背負って—若泉敬の生涯』、岩波書店、2010 年。 ISBN9784000224031 3,600 円＋税
	本書は、1969 年の沖縄返還交渉において、当時の佐藤栄作総理の密使として活躍した若泉敬・元京都産業大学教授の業績をまとめたものである。沖縄への核持ち込み問題、ならびに、当時の日米繊維交渉における若泉とキッシンジャー大統領補佐官との交渉の様子が記されている。
参考図書	信夫隆司 『若泉敬と日米密約—沖縄返還と繊維交渉をめぐる密使外交』、日本評論社、2012 年。 ISBN 9784535586178 4,700 円＋税
履修上のポイント	(1) 若泉敬とはいかなる人物であったのかを理解する。 (2) 1967 年の佐藤・ジョンソン会談において、若泉敬は密使としていかなる役割を果たしたのかを理解する。 (3) 1969 年の佐藤・ニクソン会談において、若泉敬は密使としていかなる役割を果たしたのかを理解する。
レポート課題 1	1967 年の佐藤・ジョンソン会談において、若泉敬が密使として果たした役割について論じなさい（4,000 字程度） 留意点： 共同声明の文言がどのようなになったのかに留意すること。
レポート課題 2	1969 年の佐藤・ニクソン会談において、若泉敬が密使として果たした役割について論じなさい（4,000 字程度）。 留意点： 共同声明の文言および核持ち込み密約の内容を把握すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修（序章）
第 2 回	教材の学修（第一章 安保改定交渉の開始）
第 3 回	教材の学修（第一章 安保改定交渉の開始）
第 4 回	教材の学修（第二章 核持ち込み密約の謎）
第 5 回	教材の学修（第二章 核持ち込み密約の謎）
第 6 回	教材の学修（第三章 朝鮮議事録の怪）
第 7 回	教材の学修（第四章 沖縄返還交渉の実相）
第 8 回	教材の学修（第四章 沖縄返還交渉の実相）
第 9 回	教材の学修（終章）
第 10 回	レポート課題 1、2 の初校提出
第 11 回	添削指導に基づき、関連文献のリサーチ
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修（第一章 越前の片田舎から世界へ）
第 2 回	教材の学修（第一章 越前の片田舎から世界へ）
第 3 回	教材の学修（第二章 一九六〇年代日米関係の激流）
第 4 回	教材の学修（第二章 一九六〇年代日米関係の激流）
第 5 回	教材の学修（第三章 内閣総理大臣特使として）
第 6 回	教材の学修（第三章 内閣総理大臣特使として）
第 7 回	教材の学修（第四章 著述への決意）
第 8 回	教材の学修（第四章 著述への決意）
第 9 回	教材の学修（第五章 余命尽きるとも）
第 10 回	教材の学修（第五章 余命尽きるとも）
第 11 回	レポート課題 1、2 の初校提出
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

科目名	危機管理論特殊研究	担当者	カワナカ ケイイチ 川 中 敬 一	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、自らの関心事象の歴史的淵源及び経緯を知ることにより、当該事象の推移の方向性を測る尺度を修得することを目的とする。 ① 世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条等の現状及び相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。 ② 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的情報に基づく論理的・批判的な考察を通じ、課題に対し具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 ③ 学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学習に活かすことができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 意志決定者が、適切な情勢判断を実施するために、関心事象の歴史的分析方法を理解し、当該事象の推移の方向性を測る尺度を構築する能力を修得する。 【行動目標（SB0s）】 ① 学修者が、米国及び中国の政治・経済・文化の統合的理念を説明することができる。（知識） ② 上記統合的理念達成過程における軍事の定位・機能を関連づけられる。（知識） ③ ①及び②により得た尺度に基づく現実の事象の意義を評価できる。（技能） ④ ①～③により修得した尺度を常時点検し、精度向上に努めることができる。（態度）		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 ① 指定図書及び参考図書の読書と課題答申草案を作成する。 ② manaba folio のコレクション利用によるインタラクティブな個別指導を受ける。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ① リポート作成を通じた米中両国の統合的理念の整理及び現象評価尺度の構築。 基本教材及び参考資料読書：15 時間（リポート 1 編当たり） 自己の評価尺度構築：15 時間（リポート 1 編当たり） ② 自己が構築した尺度の適用による付与された現象の意義を評価。 付与現象の意義評価：10 時間（リポート 1 編当たり） ③ 個別指導を通じた自己構築尺度の精度向上努力。 尺度再構築・精度向上：5 時間（リポート 1 編当たり） ④ 上記合計で 1 リポート当たり 45 時間を要す。		
スケジュール	前 期	初稿提出期限：7 月 30 日 21:00 最終提出期限：最終稿の提出期限は学事暦に従う。	
	後 期	初稿提出期限：11 月 25 日 21:00 最終提出期限：最終稿の提出期限は学事暦に従う。	
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	80 %	① SB0①及び②を精度に関わらず明確に構築できているか。 ② 結論と結論導出過程が明確に接続しているか。 ③ 引用・参照を適切かつ正確に記述したか。
	観察記録	20 %	① 不明点を早期かつ率直に質問したか。 ② 指導に対する真摯な受容と積極的な再検討をしたか。 ③ 指定図書及び参考図書以外の資料も自発的に駆使したか。
履修者への要望	① 国際政治関連を学ぶ学生は無論、経営・経済を学ぶ学生の履修を歓迎します。経営・経済と国際的枠組みとは無縁ではないことを知っていただきたいと思います。 ② 基本教材と参考図書のみでは、課題に答申しきれないかもしれません。その際は、担当教員に必要な資料を問い合わせることを推奨します。 ③ 「講義概要」では記述しきれない細部については、履修後直ちに各学生に伝達します。 ④ リポートは、読書と並行しながら作成することを推奨します。疑問が湧いたり、行き詰まった都度、担当教員を存分に利用してください。 ⑤ 履修登録と同時に、担当教員に履修した旨を連絡してください。 kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 麻田貞雄 教材名： 『マハン海上権力論集』（講談社、2010年）ISBN:978-4-06-292027/920 円
	① 米国の海外進出の理論的基盤であり、後年における日本やアジア地域との確執の萌芽を生み出したマハンによる海洋戦略思想と米国の発展方向を包括的に理解する上での必読書です。 ② 米国建国以来の海外利権と、アジア（特に日本・中国）観を理解する上での必読書です。
参考図書	① 渡辺惣樹『日本開国』（草思社、2016年）/978-4-7942-2204-6/880 円 ② 松岡完等『冷戦史』（同文館出版社、2003年）/978-4-4495-46331-1/3, 190 円 ③ 未里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』（丸善プラネット、2013年）/978-8-4863-45173-5/1, 600 円 ④ アーネスト・メイ『歴史の教訓』（岩波書店、2004年）/978-4-0060-0120-9/1, 430 円 ⑤ 渡辺惣樹『アメリカの対日政策を読み解く』（草思社、2016年）/978-4-7942-2193-3/1, 980 円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ① 米国の建国理念が、国家建設過程において、いかなる変容を遂げたか。 ② マニフェスト・デスティニーという概念が、米国対外市場の各現象にどのように作用したのか。 ③ ①と②の延長で、米国の不変的な対中国・日本観は、どのようなものか。 ④ ①～③で得られる米国の不変構造の今日的意義は、どのようなものか。
レポート課題 1	「米国の対中姿勢における変動の原因を米国の伝統的アジア観を基軸にして考察せよ」 (4,000～5,000 字) 留意点： アジアにおける米国の究極的利益は何かを中心に考察してください。
レポート課題 2	「第 2 次世界大戦で日米が衝突した遠因を米国の歴史的アジア観を基軸にして考察せよ」 (4,000～5,000 字) 留意点： 中国をめぐる日米の利権争奪という側面から考察してください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 岡本隆司 教材名： 『中国の論理』（中央公論新社、2016年）/978-4-12-102392-6/902 円
	欧米世界とは異なる価値観・秩序観に立脚した悠長の歴史を歩んできた“中華”世界特有の中国と台湾という隣国の不変部分と可変部分とを理解する上で極めて有用な良書である。特に、中華世界の指導者たちの理念と思考方式を理解する上での必読書である。
参考図書	① 岡本隆司『歴史で読む中国の不可解』（日本経済新聞出版社、2018年）/978-4-5322-6378-4/ 935 円 ② 丸川哲史『魯迅と毛沢東』（以文社、2010年）/978-4-7531-0278-5/2, 800 円 ③ 海洋政策研究財団『中国の海洋進出』（成山堂書店、2013年）/977-8-4425-53151-6/2, 400 円 ※ 中古のみ入手可能。第 4 章「海洋をめぐる中国の戦略的構造」：担当教員執筆 ④ 田越英『図解 現代中国の軌跡 中国国防』（科学出版社東京、2018年）/978-4-907051-42-6/ 4, 180 円 ⑤ 楊鳳春『図解 現代中国の軌跡 中国政治』（科学出版社東京、2018年）/978-4-907051-43-3/ 4, 180 円 ⑥ 小野寺史郎『中国ナショナリズム』（中央公論新社、2017年）/978-4-1210-2437-4/946 円 ⑦ 北村稔『現代中国を形成した二大政党』（ウェッジ、2011年）/978-4-8631-0088-6/1, 760 円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ① 近代中国の各政権の理念における連続性と不連続性は何か。 ② 中華世界の指導者の不変的な国内統治観と対外姿勢とは、それぞれどのようなものか。 ③ ①と②の延長にある近代中国革命の本質と、それが現在の国内外政治へ及ぼしている影響。 ④ ①～③で得られる中華世界を基軸とした国際社会構造における日本の定位を考察する。
レポート課題 1	「領土問題に関わる中国共産党と中国国民党の主張における相違点と共通点の淵源を考察せよ」 (3,000～5,000 字) 留意点： 近代史における“天下”概念と台湾問題に留意して考察してください。
レポート課題 2	「日中海洋紛争における日本、中国及び米国にとっての意義を考察せよ」(3,000～5,000 字) 留意点： 領土問題において中国が妥協可能とみなすか否かを基軸に考察してください。

基本教材 1

第 1 回	課題の意図を熟考する。教材の「解説」に基づく学修①（マハン海権思想の背景・全体像）を実施する。
第 2 回	教材の「海上権力の歴史に及ぼした影響」に基づく学修②（シーパワーの要旨）を実施する。
第 3 回	教材の「海上権力の歴史に及ぼした影響」に基づく学修③（シーパワーの要旨）を実施する。
第 4 回	教材の「合衆国海外に目を転ず」に基づく学修④（19 世紀末の米国の情勢）を実施する。
第 5 回	教材の「合衆国海外に目を転ず」に基づく学修⑤（19 世紀末の米国の情勢）を実施する。
第 6 回	教材の「ハワイとわが海上権力の将来」に基づく学修⑥（米国の海外侵略の原型）を実施する。
第 7 回	教材の「20 世紀への展望」に基づく学修⑦（米国の選民思想）を実施する。
第 8 回	教材の「海戦軍事充実論」に基づく学修⑧（米国政治における海軍の地位）を実施する。
第 9 回	教材の「アジアの問題」に基づく学修⑨（米国の対アジア観）を実施する。
第 10 回	教材の「アジア状況の国際政治に及ぼす影響」⑩（マハンの日本・中国観）を実施する。
第 11 回	リポート課題 1 及び 2 の考察結果を初稿として提出する。
第 12 回	リポート課題 1 に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考し、最終稿を作成する。
第 13 回	リポート課題 2 に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考し、最終稿を作成する。
第 14 回	リポート課題 1 及び 2 の再考結果と各課題の意図との整合性を確認する。
第 15 回	リポート課題 1 及び 2 の最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	課題の意図を熟考する。教材の「Ⅰ 史学」に基づく学修①（中国における儒教の影響）を実施する。
第 2 回	教材の「Ⅰ 史学」に基づく学修②（中国人の歴史観）を実施する。
第 3 回	教材の「Ⅱ 社会と政治」に基づく学修③（中華の伝統的エリート）を実施する。
第 4 回	教材の「Ⅲ 世界観と世界秩序」に基づく学修④（天下の意味）を実施する。
第 5 回	教材の「Ⅲ 世界観と世界秩序」に基づく学修⑤（天下の意味）を実施する。
第 6 回	教材の「Ⅳ 近代の到来」に基づく学修⑥（西洋の衝撃の定位）を実施する。
第 7 回	教材の「Ⅳ 近代の到来」に基づく学修⑦（変革の胎動と梁啓超）を実施する。
第 8 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑧（あとをつぐもの）を実施する。
第 9 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑨（毛沢東）を実施する。
第 10 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑩（改革開放の歴史的位置）を実施する。
第 11 回	教材を基軸としたリポート課題 1 作成のための構想を策定する。
第 12 回	教材を基軸としたリポート課題 2 作成のための構想を策定する。
第 13 回	リポート課題 1 及び 2 の初稿を提出する。
第 14 回	提出した初稿に対する教員からの指導の意図を理解し、それを勘案した最終稿を作成する。
第 15 回	リポート課題 1 及び 2 の最終稿を提出する。

科目名	日本政治史論特殊研究	担当者	タキガワ シュウゴ 瀧川 修 吾	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	「温故而知新，可以為師矣」というように、過去の歴史的事実から、向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは、政治史という学問の最大の使命であろう。政権の在り方や、制度の不備、格差や貧困といった俄には解決しがたい問題に起因する内政上の不満を、外交や軍事に対する人々の関心を掻きたてることで、巧みに逸らす政治手法は、他国との関係を大前提とするグローバル社会にあって、あらゆる民主主義国家とその国民が対決し、克服していかなければならない脅威といえる。本講義では、広く歴史とは何かについて学んだ上で、この厄介な問題につき、幕末から明治にかけての日本で登場した征韓論を素材に、皆さんと一緒に考えることで、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観のほか、世界の現状を理解し説明する力、論理的・批判的思考力、問題発見・解決力、挑戦力、省察力などを最上級レベルで修得することを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 日本政治史や思想史の専門書を熟読し、内容を深く理解する洞察力や省察力を養い、その成果を纏め、独自の観点から論評・解説する論理的・批判的思考力を修得する。 【行動目標（SBOs）】 1．E. H. Carr の著作を精読し、各自の歴史観を再確認し、そこで学んだ理論の妥当性につき、日本史上の歴史的事実を事例にして考察を加えてみる。 2．社会科学における言葉の定義の重要性につき、「征韓論」を事例に理解する。さらに徳川幕藩体制下の対馬藩が直面した危機について理解する。 3．総じて、教養を身につけるために学ぶ通史とは異なり、いわば歴史を通じてものごとを深く考える楽しみに接し、自己の眼前に展開する諸問題につき、歴史的に思考する能力を養う。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 履修者の皆さんが、これまでどの程度、歴史を学んできたかで、学修方法も再考を余儀なくされるものと予想される。よって「基本教材1」の「Ⅰ歴史家と事実」をある程度読み進めた段階で、一度、皆さんからメール等で連絡をもらい、当方が皆さんの習熟度や理解度を把握することとしたい。その上で必要に応じて参考図書を紹介したり、レポートの難易度や分量を加減したりするなど、調整し、皆さんそれぞれの状況に応じた到達目標が実現されるような指導をおこなう。本を熟読する際は、重要と思われる箇所に下線を引いたり、調べたことや批判、感想などを書き加えたりして、汚しながら読む（「眉批」を付ける）ことを推奨する。概ね、自主研究に20時間、レポート作成に10時間、教員とのディベートに15時間を目安とする。 テキストないし指示された参考書を熟読してもらおう（概ね新書1冊と学術論文2本）。学修時間は個人差が生じざるを得ないが、質問や用語の調査なども入れて45時間超を想定している。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ZoomやMeet、メールや添付ファイル、manaba forio を活用し、双方向性を重視した指導をおこなう。		
スケジュール	「基本教材1」から出題した課題は、6月末までを目安に学習を終え、「レポート課題1」は7月15日を、「レポート課題2」は8月15日を、それぞれ初稿の提出締切日とする（以下全て、可能であれば、締切日以前の提出を奨励する）。最終稿は9月15日を提出期限とする。 「基本教材2」から出題した課題は、10月末までを目安に学習を終え、「レポート課題1」は11月15日を、「レポート課題2」は12月15日を、それぞれ初稿の提出締切日とする。最終稿は1月11日を提出期限とする。 ※以上はあくまで目安であり、受講者各自の状況により柔軟に対応する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材から一定の知識を修得し、それらを客観的かつ論理的に纏めることができているか。また、学んだ知識を批評したり、援用したりするなど主体的に活用することができているか。
	観察記録	30 %	当方がおこなった指導や指摘を、適切にレポートへ反映することができたか。レポートの提出期限の遵守等、コミュニケーション上のルールを守ることができたか。
履修者への要望	関連科目を大学院博士前期（修士）課程で受講していなくても及第できるように、丁寧な指導を心掛けたい。逆に私の担当科目をすでに履修した者には、適宜別の課題を用意する。質問してくれたことに対して減点をするようなことは一切ないので、積極的かつ気軽に質問をして頂きたい。なお、皆さんが効率よく学修を開始するためには、当方にもしかるべき準備が必要となる。よって、 <u>履修登録をすると同時に、その旨を担当教員にメール（takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp）で報告すること</u> を履修の条件としたい（その後、履修取消しをした場合もご一報頂きたい）。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： E. H. カーク著・清水幾太郎訳 教材名： 『歴史とは何か』（岩波書店，1962 年，原著は出版） ISBN：4-00-413001-8（820 円＋税）
	本書は，E. H. Carr が 1961 年にケンブリッジ大学でおこなった講演をもとに編まれたもので，歴史を研究する者にとっては必読文献といっても過言ではない。本書の出版からすでに半世紀が経過したが，ここで提示されている議題の数々がその重要性を失うことは，この世に人間や社会が存在する限り，決してないであろう。
参考図書	原著 “What is history” は，幸いインターネット上でも閲覧できるので，訳本と併読することを推奨したい。もちろん Amazon 等で，ペンギンブックスなどのペーパーバックを購入するのも良い（千数百円程度）。
履修上のポイント	同書では，劈頭に掲げられていた命題が先々まで深い意味をもっていたり，再び別の視点で論じられたりといったケースがあるので，論点をノートに書き出して読み進めると良いであろう（本に線を引いたり，眉批を直接書き込むのも良い）。呉々も，新書をたった一冊読むだけなどと侮らず，その分，しっかりと基本教材を「精読」してもらいたい。読み進める中で，知らない人名や事件等が出てきたら，最低限，電子辞書やインターネットなどを用いて調べるようにすること。
レポート課題 1	歴史とは「歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり，現在と過去との絶え間ない対話」であるという Carr の主張は，いったいどのような意味か。現今を生きる自分自身の体験や経験を踏まえて論じなさい。 留意点： Carr の所論と皆さんの意見等とが混在しないように，正しい「引用」と「援用」の技法を駆使してレポートを作成すること（換言すれば，要旨を纏めるだけでは不十分です）。
レポート課題 2	Carr が述べる「歴史における必然」と「歴史における偶然」とはどのような問題か。要領よく論点を纏めると共に，適当な日本史上の歴史的事実を随意に用いて説明を試みなさい。 留意点： レポートの構成や用いる事例などが決まった段階で，一度当方に相談の連絡をくれた方が効率的と史料される。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 瀧川修吾 教材名： 『征韓論の登場』（櫻門書房，2014 年） ISBN：978-4-901250-46-7（2,500 円＋税）
	本書は，「征韓」論が幕末から明治の政治空間にどのようにして登場したかを，政治史・思想史的なアプローチで探求した専門書である。いわゆる博士論文を刊行したものであるため，章・節の設け方や脚注の付け方等々，皆さんがレポートや修士論文を作成するにあたって書式の見本となれば幸甚である。入手が困難な場合は， takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp まで御一報下さい。
参考図書	当該科目を専攻していない履修者からすれば，本書一冊を読破するだけでも骨が折れると思われるので，別段，指示はしない。とはいえ「レポート課題 1・2」に取り組むにあたっては別途，参考文献が必要となるので，具体的なテーマが定まったところで，適宜紹介する。
履修上のポイント	同書は専門書であるため，日本史の学術論文を初めて読むという履修者には，おそらく読みづらいものと思われる。まずは根気強く，導入部にあたる序章を読んでみてもらいたい。「レポート課題 1」については，比較する事例に関する参考文献を探す必要があるため，序章を読み終えた時点で一度連絡をもらいたい。「レポート課題 2」については，最低限「第三章 アジア雄飛論の諸相」を読んでもらい，その上で当方と相談し，具体的にどのようなアジア雄飛論をレポートでの分析対象とするのかを決めてもらいたい。
レポート課題 1	幕末から明治にかけての「征韓」論が備えていた論理的構造について纏めた上で，これに類する古今東西の政治手法の事例を挙げ，両者を比較しなさい。 留意点： 比較する事例は日本以外でも構わないし，最近の事象でも構わない。
レポート課題 2	幕末から明治にかけて百出したアジア雄飛論の中から興味のあるものを選択し，これについて論じなさい。 留意点： 選択するアジア雄飛論は，「基本教材 2」に登場しないものでも構わない。自らの博士論文に活かせるようなテーマがあれば，積極的に相談して頂きたい。

基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第 2 回	基本教材 1 の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第 3 回	基本教材 1 「Ⅰ 歴史家と事実」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 4 回	基本教材 1 「Ⅱ 社会と個人」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 5 回	基本教材 1 「Ⅲ 歴史と科学と道徳」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 6 回	基本教材 1 「Ⅳ 歴史における因果関係」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 7 回	基本教材 1 「Ⅴ 進歩としての歴史」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 8 回	基本教材 1 「Ⅵ 広がる地平線」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 9 回	基本教材 1 を読み直して整理しつつ、レポート課題 1・レポート課題 2 の作成に必要な文献を収集する
第 10 回	基本教材 1 を読み直して整理しつつ、レポート課題 1・レポート課題 2 の作成に必要な文献を収集する
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第 2 回	基本教材 2 の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第 3 回	基本教材 2 「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 4 回	基本教材 2 「第 1 章 ロシアによる対馬占拠事件」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 5 回	基本教材 2 「第 2 章 対馬藩の征韓論に関する比較考察」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 6 回	基本教材 2 「第 3 章 アジア雄飛論の諸相」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 7 回	基本教材 2 「第 4 章 山田方谷とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 8 回	基本教材 2 「第 5 章 勝海舟とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 9 回	基本教材 2 「第 6 章 アジア雄飛論と征韓論の因果関係」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 10 回	基本教材 2 を読み直して整理しつつ、レポート課題 1・レポート課題 2 の作成に必要な文献を収集する
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	国際メディア論特殊研究 (旧カリ：国際情報論特殊研究)	担当者	ヤスエ 安江 ノブオ 伸夫	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	民主主義を否定する権威主義国家が台頭する背景と、メディアの果たすべき役割についての知識を修得すること（一般目標(GIO)）により、以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 民主化が実現し持続する条件についての知識を修得する。メディアや民衆が果たすべき役割を知り、異なる価値観の社会と共存できる人間力を創造する。権力構造とメディアの変容を軸に、冷戦後に旧社会主義国を中心に起きた権威主義の台頭と、戦後日本の民主主義定着を俯瞰する。 【行動目標（SBOs）】 ① 民主主義とは常に問題点を指摘し、修正できる仕組みであることが説明できる。（知識・想起） ② 民主化しない中国、民主的に強権指導者が選ばれた旧ソ連・東欧、民主化から無秩序が生まれた中東などの国家群。これらに関係づけ説明できる。（知識・解釈） ③ 米国と中国が対立する大きな国際的背景を説明出来る。（知識・問題解決） ④ ネットやSNSの普及が、感情的な極論対立と分断を招いていることを知る。（知識・問題解決） ⑤ 日本の国際報道が米国の発信する情報に大きく影響を受けていることを知る。（知識・解釈） ⑥ 世界を魅了させる狙いで中国が組織的な世論誘導を行う力を「シャープ・パワー」と呼ぶ。言論弾圧で批判を集める中国が民主化できない国々を束ねていることを知る。（知識・想起） ⑦ 日本でも今後、権威主義的な政治の傾向が強まると言われる。すでに自民党政府を批判する、リベラル派の言論は社会からバッシングにあう。この状況説明に応用できる。（知識・問題解決） ⑧ 民主化や言論の自由が実現するために必要な条件を法則化し測定できる。すなわち民主化には、格差の縮小、社会分断の融和、教育・司法・警察の整備、報道言論の自由などが必要だ。（技能） ⑨ 政治体制やメディア環境の異なる国や社会との意思疎通に必要な態度が身につく。（態度）		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 1 単位（課題レポート1 本分）につき最低 45 時間の学修時間を要する。 ・基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20 時間 ・レポート執筆：10 時間 ・レポートの推敲、教員の添削指導：15 時間 1 科目 4 単位に対し、45 時間×4 の時間が必要ということになる。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・基本教材及び参考図書等を熟読する（自習）【SBO①&②】 ・課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する（自主研究）【SBO②&③】 ・抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる（レポート作成）【SBO②&③&④】 ・上記の過程で、manaba folio の掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。（ディベート）【SBO②&③&④&⑤】		
スケジュール	前期【教材1】：「初稿」提出：レポート課題1は第11回（8月初め）、課題2は第13回（8月中旬）。「最終稿」は課題1、課題2のいずれも「学事暦で定められた期限」までに提出する。 後期【教材2】：「初稿」提出：レポート課題1は第11回（12月初め）、課題2は第13回（12月中旬）。「最終稿」は課題1、課題2のいずれも「学事暦で定められた期限」までに提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や、ご自身の研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20 %	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	米国のトランプ政権登場、コロナ禍、ウクライナ戦争の開始で情勢が急速に変化する中、権威主義に関する研究書も毎年多数出版され一つの分析が翌年には若干古くなるような状態だ。課題図書も現状分析に終始し、理論で検証されるに至っていない。履修者にはそのことを踏まえ、自ら考えて欲しい。情報は比較することが望ましい。新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を3紙読む。庶民の世論を知る上で、ワイドショーや週刊誌にも注目する。日本が海外からどう見られているかを知るため、ニューヨーク・タイムズ（ネット版）の日本に関する記事を読むことをすすめる。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： ラリー・ダイヤモンド（市原 麻衣子 監訳） 教材名： 『侵食される民主主義：内部からの崩壊と専制国家の攻撃（上下）』（勁草書房、2022 年）
	原著はトランプ政権が中国と対立し始めた 2019 年出版だ。冷戦後の世界は民主主義に収斂すると考えられていた。しかし著者は早期から「民主主義が世界的に後退している」と指摘してきた。中国やロシアは逆コースを行っただけではなく、権力の周辺には腐敗がはびこる。開放的な西側に対して、シャープ・パワーと呼ばれる情報工作で介入する。受けて立つ西側は民主主義を活かしきれず脆弱だ。権力者によるポピュリズムのうねりが起きメディアは党派分裂する。
参考図書	▼イワン・クラステフ、ステイーヴン・ホームズ（立石洋子 訳）『模倣の罠 自由主義の没落』（中央公論新社、2021 年） 民主主義の揺らぎの理由を「模倣」を軸に論じた。ロシアは選挙制度で民主化を「模倣」したものの西側からの二等国扱いに幻滅し、プーチン氏の登場を歓迎した。中国は市場経済だけを「模倣」し急成長した。米国は中国などが西側の「模倣」だけで「利益」にタダ乗りしたと反発した。 ▼エリカ・フランツ（上谷直克ほか訳）『権威主義 独裁政治の歴史と変貌』（白水社、2021 年）。 権威主義や独裁政治が醸成されていく経緯、ポピュリズム政治家の働きを整理している。
履修上のポイント	ウクライナ侵攻の背景には西側がロシアを理解していなかったことがある。中国との衝突への備えとともに対立の構図を知る。民主化・自由化から逆行したロシア、東欧、中国の背景。西側では極論対立や権力者をチェックする議会やメディアの弱体化で民主主義が機能しないことを知る。
レポート課題 1	中国やロシアを取り巻く西側での議論に留意しながら全体を要約する（5000 字程度）。留意点：民主化には格差縮小、分断の融和、教育・司法・警察の整備、言論の自由などが条件になる。彼らにはこの条件が備わっていなかった。一方、日本や米国ではこの条件・環境が悪化しつつある。
レポート課題 2	我々は普遍的価値が中国やロシアに脅かされると認識する。彼らは米国好みの色に染められ包囲され発展を阻止されることを恐れる。互いに疑心暗鬼になっている。解決策を論じる（5000 字程度）。留意点：中国やロシア、そして西側の双方の行動の良し悪しにとらわれず論じる。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： ジョン・ダワー（三浦陽一 監訳） 教材名： 『戦争の文化（上・下）』（岩波書店、2021 年）
	キーワードは「加害行為を正当化する戦争の文化」だ。真珠湾攻撃、原爆投下、911 テロ、イラク戦争という日本と米国の戦争経験を比較し検証した。思い込み。犯罪かそれに等しい残虐。文化的優越性を柱にした。日本では成功したが中東では失敗した「民主化」の条件に付いても分析した。原著は反テロ戦争の開始から暗礁に至る 10 年をかけて執筆された。そしてトランプ政権で中国との対立が激化する 2021 年に日本で翻訳出版された。
参考図書	▼ジョン・ダワー（三浦陽一 訳、高杉忠明 訳）『増補版 敗北を抱きしめて（上・下）』（岩波書店、2012 年） 占領下の日本を米国は民主化させた。だが天皇制を尊重した制度設計、日本政府への GHQ の指示系統、サブカルチャーを使った世論誘導など周到な事前計画があった。日本は憎んだはずの米国のインパクトを克服し受容した。しかしこの日本での成功体験は米国の中東の民主化に対する過信に繋がった。この論考の反省に立つてジョン・ダワーは『戦争の文化』を書いた。 ▼フランシス・フクヤマ、マチルデ・ファスティング（山田文訳）『「歴史の終わり」の後で』（中央公論新社、2022 年） 「世界は民主主義に収斂する」「民主化と経済発展は関係がある」と最初に論じたのはフランシス・フクヤマ『歴史の終わり（1992 年）』だった。『「歴史の終わり」の後で』は期待外れを釈明した。
履修上のポイント	「基本教材 1」とは逆の立場で、ジョン・ダワーは米国が自国の勝利を正当化してきた「戦争」や「挑戦」に疑問を呈している。「都合の良い思考」「内部の異論を排除」「外部の批判を受け付けない」「敵の動機や能力を過小評価する」「文化的・人種の偏見」などを上げる。今日、中国に挑戦する米国に日本は同盟国として共同対処しようとしている。その意味を考える。
レポート課題 1	全体を要約する。（5000 字程度）。留意点：日本は米国中心の秩序の中で世界を認識していることを踏まえるとともに、「白人対非白人」の戦いに日本はどこまで付き添えるか考えたい。
レポート課題 2	力で現状変更を図る中国の行動を私たちは厳しく批判するとともに、彼らとの万が一の戦いに備えなければならない。しかし相手との対話や国内での議論が欠落すれば戦前の日本と同じ轍を踏む。日本国内では分断が起きていて外務大臣の訪中に右派議員からストップがかかる。中国を擁護すれば反日スパイだと批判される。どうすべきかを論述する。留意点：良し悪しにとらわれず客観的に。

基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

科目名	国際メディア論特殊研究 (旧カリ：国際情報論特殊研究)	担当者	カワマタ ヒロシ 川 又 祐	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、財政学の源流の一つであるイギリス財政思想とドイツ財政思想を中心に、財政思想の生成・発展に関する歴史を習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 イギリス財政思想とドイツ財政思想の比較を通じて、両者の相違点を理解する。 【行動目標（SBOs）】 ①学修者が財政思想に関する知識を列挙し、それぞれの知識を関係づけて理解する（知識） ②個々の財政思想家について調べた知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり、自ら使うことができる技能に高める（技能） ③財政理論と現実社会の背景にある考え方を応用的に適用することで、財政の諸課題に対応できる配慮ある行動となる（態度）		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 ① 基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する（自習・レポート作成，SBO①②）【15時間／レポート1本】 ② 次に、学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿を作成する（自習・レポート作成，SBO①②）【15時間／レポート1本】 ③ そして、より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する（自主研究・レポート作成・ディベート，SBO②③④）【15時間／レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、図書館の公開原典資料などにもアクセスしていく必要がある。学術書や論文などの幅広い情報源を活用することが望まれる。 教材精読のみであれば数日もあれば読めるものであるが、内容を理解し、具体的な考察を自らやってみることで身につくものであり、その 3～5 倍の時間は取って、しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。		
スケジュール	①提出期限までに何度かmanaba folioを使って、考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初稿を提出すること。 ②受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioを使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③最終稿の提出期限は学事暦に従う。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	①教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20%	①最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ②途中稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点項目）
履修者への要望	英語、ドイツ語の辞書を常に携帯し、英語やドイツ語の原典に日頃から接していることが望ましい。また、レポートの作成に当たっては、後期課程にふさわしい腰の据わったものを作成してほしい。 履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員（川又）に連絡すること。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 池田浩太郎・大川政三 教材名： 『近世財政思想の生成 重商主義と官房学』千倉書房 1982 年 ISBN：978-4-8051-0440-8 税込み 3850 円
	本書は、重商主義、官房学を中心として、その代表者たち（ペティー、ヴォーバン、ゼッケンドルフ、ホルニク、ユスティ、ゾネンフェルス、ダブナント、J. ステュアート）の原典を講読することで彼らのおかれた時代背景、彼らに課された課題を明らかにする。
参考図書	ペティ『租税貢納論』（大内兵衛 松川七郎訳）岩波文庫 1975 年 大倉正雄『イギリス財政思想史 重商主義期の戦争・国家・経済』日本経済評論社 2000 年 J. ステュアート『経済の原理』（小林昇監訳 飯塚正朝ほか訳）名古屋大学出版会 1998 年 川又祐ほか『新・財政字入門』八千代出版 2022 年
履修上のポイント	現代の財政は財政民主主義を理念としている。財政民主主義とこれらの思想家たちの考えを常に対比することで、イギリスとドイツ（オーストリアを含むドイツ語圏）の歴史の理解が深まる。
レポート課題 1	イギリス財政思想史のうちペティを取り上げ、彼のおかれた時代背景と彼の業績を説明しなさい。 留意点： 他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。
レポート課題 2	イギリス財政思想史のうち J. ステュアートを取り上げ、彼のおかれた時代背景と彼の業績を説明しなさい。 留意点： 他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 田村信一・原田哲史編著 教材名： 『ドイツ経済思想史』八千代出版 2009 年 ISBN-10: 4842914688 税込み 3630 円
	本書は、官房学から始まるドイツ経済思想の通史である。官房学では、官房学の代表者ゼッケンドルフ、ユスティ、ゾネンフェルスらを取り上げられる。彼らの原典を講読することで、彼らのおかれた時代背景、彼らに課された課題を明らかにする。
参考図書	大倉正雄『イギリス財政思想史 重商主義期の戦争・国家・経済』日本経済評論社 2000 年 池田浩太郎・大川政三『近世財政思想の生成 重商主義と官房学』千倉書房 1982 年
履修上のポイント	現代の財政は財政民主主義を理念としている。財政民主主義とこれらの思想家たちの考えを常に対比することで、イギリスとドイツ（オーストリアを含むドイツ語圏）の歴史の理解が深まる。
レポート課題 1	ドイツ財政思想史のうちドイツ官房学を取り上げ、ゼッケンドルフのおかれた時代背景と彼らの業績を説明しなさい。 留意点： 他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。
レポート課題 2	ドイツ財政思想史のうちドイツ官房学を取り上げ、ユスティとゾネンフェルスのおかれた時代背景と彼らの業績を説明しなさい。 留意点： 他の思想家との比較を通じて、課題を説明すること。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（財政民主主義）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、教材に基づく学修②（租税原則）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（イギリス重商主義）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（W. ペティ）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（J. ステュアート）
第 6 回	教材 2 に基づく学修①（イギリスとドイツの財政思想の相違）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材 2 に基づく学修②（前期官房学）
第 8 回	教材 2 に基づく学修③（V. L. v. ゼッケンドルフ）
第 9 回	教材 2 に基づく学修④（後期官房学）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑤（J. H. G. v. ユスティと J. v. ゾネンフェルス）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（A. スミス及び古典派）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、教材に基づく学修②（A. ワグナー及び正統派）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（予算制度）
第 4 回	教材に基づく学修④（歳入）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（歳出）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（租税）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（直接税と間接税）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（ドメーネン）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（レガリエン）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（公需説）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	開発政策論特殊研究	担当者	イチオカ 市岡 タカシ 卓	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、一般的な国際協力論や開発論で学ぶような、国際協力・開発に関する機構、制度、各分野での動向や課題を越え、開発そのものに内在する問題に肉薄することを目的とする。すなわち、一般的な国際協力論や開発論の知識や理解を前提として、メタな視点（一步引いて遠い位置・高い位置から見る視点）から対象を見つめ直すことができるようになることを目的とする。 メタな視線を持つことは、開発が行われる社会を冷めた目で見て突き放すものではなく、その社会に寄り添い、その社会を当事者にとってより良い場所にすることにつながるものである。具体的には、本講座において、開発関係機関の役割・行動や、開発の推進側と受け入れ側とのギャップについて考えることで、メタな視点を獲得することを目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 開発論においてメタな視点を持つことの意味を理解し、メタな視点から開発に内在する問題について鋭く切り込むことができるようになる。 【行動目標（SBOs）】 ①教材・参考図書に示された事例から、開発の問題をメタな視点から見るとは具体的にどのようなことを理解する。（知識） ②開発の問題の中から「パズル」（「不可解な謎」。基本教材2の p. iv 参照。）を見つけ出す想像力を身に着ける。（技能） ③開発をめぐる常識を疑い、建設的な批判精神を持って考察する姿勢を身に着ける。（態度）		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 - 教材・参考図書を熟読し、そこで示された関連文献も参考にしつつ、レポートのドラフトを作成する。ドラフトの前にスケルトン（骨子案）を作成すると、考察を進めやすい。【15時間／レポート1本】 - さらに考察を深め、レポートの初稿案を作成し提出する。教員との意見交換を行い、さらに材料を集めたり考察を深めるべきポイントについて指摘を受ける。必要に応じ、受講者同士のディスカッションにより互いに学び合う場も設ける。【15時間／レポート1本】 - 教員からの指摘を踏まえて内容の修正・充実を図り、レポートの最終稿を完成させる。【15時間／レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - 教員と十分に意見交換をしながら進める。 - 必要に応じ、レポート案についての受講者同士のディスカッションなど協働学修を取り入れる。（アクティブラーニング） - 具体的な事実に基づく考察が不可欠であるため、教材・参考図書以外の書籍、論文、記事等についても十分に調査を行う必要がある。国際開発学会等の学会誌に掲載された論文や、ネットメディアの記事もチェックすることが求められる。		
スケジュール	①受講開始から約1か月後の時点でレポート作成の方向性が定まらない場合は、教員と意見交換を行うこと。 ②レポートの初稿提出前のスケルトンあるいはドラフトの段階で、教員と意見交換を行うことを推奨する。 ③最終稿提出までにレポート案を提出してもらい、複数回の意見交換を行っていくので、遅くとも最終稿提出期限の1か月前には初稿を提出すること。 ④最終稿提出期限は学年歴に従う。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	①教材の内容を十分に理解できているか。 ②教材以外の資料、文献等を十分に調査できているか。 ③独自の考察ができているか。 ④主張したいことを論理立てて明確に表現できているか。
	観察記録	20%	①初稿提出の期限（最終稿提出の1か月前）が守られたか（減点項目）。 ②最終稿提出までに教員と複数回のレポート案の交換ができたか。
履修者への要望	大学院での学び全体に言えることであるが、特に本講座で学修するテーマは、答のない難しいテーマである。従って、常識や既存概念にとらわれることなく、自由な発想でオリジナルな切り口を見つけ、臆することなく自在に主張を展開していただきたい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 松本悟・大芝亮編著 教材名： 『NGO から見た世界銀行 ―市民社会と国際機構のはざま―』 （ミネルヴァ書房，2013 年） ISBN:978-4-623-06503-5 3,800 円＋税
	国際開発における世界銀行の役割については様々な議論があるが、本書は、世界銀行と関わってきた NGO の視点から見た世界銀行について論じるというユニークな方法論で構成されている。このような方法論を取ることで、本書は抽象論ではなくよりリアルに世界銀行の抱える課題を浮き彫りにしている。
参考図書	松本悟『調査と権力：世界銀行と「調査の失敗」』 （東京大学出版会，2014 年） ISBN:978-4-13-040268-2 5,800 円＋税
履修上のポイント	世界銀行は国際開発に大きな役割を果たしているが、それは、様々な批判にさらされてきたように完全無欠の正義の味方ではないし、一方で、完全な悪役でもない。教材及び参考図書を参照した上で、中立的で無色透明な主体ではない世界銀行がどのような思惑をもって行動するのか、様々な関係者が世界銀行に何を求めるのか、また、それらのことが国際開発にどのような影響を及ぼすのかについて、自分でも材料を集めて調べ、考察を深めてもらいたい。
レポート課題 1	現在の世界の状況、さらに今後の見通しを踏まえ、今後の国際社会における世界銀行の役割は何かについて論じる。（5,000 字程度） 留意点： 教材を精読し、さらに、自分で教材の刊行（2013 年）以降の世界の状況変化について調べ、また、今後の変化についての見通しを立てた上で、論じる必要がある。
レポート課題 2	もしあなたが NGO を作り、世界銀行をよりよい方向に変えていく活動ができるとすれば、あなたは具体的にどのような活動をしていくかについて論じる。（5,000 字程度） 留意点： 教材では NGO の世界銀行に対する関わり方について三つの類型が示されている。これらのいずれの関わり方で臨むのかについて、まず決めてから論じる必要がある。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 佐藤仁 教材名： 『野蛮から生存の開発論：越境する援助のデザイン』 （ミネルヴァ書房，2016 年） ISBN:978-4-623-07677-2 3,000 円＋税
	開発論の分野では第一人者である筆者が、その研究歴の中で考察してきた様々なアイデアに関する論考をまとめたもの。開発に関する一般的な見方や常識を問い直すユニークな発想が豊富に盛り込まれている。筆者が開発の対象となる社会やそこにいる人々を冷めた目で見ているのではないことを理解する必要がある。
参考図書	松本悟・佐藤仁『国際協力と想像力：イメージと「現場」のせめぎあい』 （日本評論社，2021 年） ISBN:978-4-535-55975-2 2,000 円＋税
履修上のポイント	開発の現場では、開発・援助を推進する側と受け入れる側との間の認識のギャップから、様々なすれ違いが生じている。そのようなギャップやすれ違いを発見するためには、開発の問題を「メタな視点」から見る必要がある。「メタな視点」とは、一歩引いて遠い位置・高い位置から見る視点である。教材及び参考図書を精読した上で、「メタな視点」を自分なりに体得し、自分なりの「メタな視点」を持つことにトライしてもらいたい。
レポート課題 1	開発をメタな視点から見ることは、実際の国際協力において可能か、また、開発をメタな視点から見ることによって、開発の対象となる社会をより良くすることができるかについて論じる。（5,000 字程度） 留意点： 教材及び参考図書の筆者たちが論じている問題を深掘りしてもよいが、別のメタな視点を見つけ出してもよい。
レポート課題 2	あなたにとって、開発をめぐる「パズル」（「不可解な謎」。教材 p. iv 参照。）とは何かを述べる。また、その「パズル」の答えは何だと思うかについて論じる。（5,000 字程度） 留意点： 「パズル」は、開発一般に関することでも、特定の開発プロジェクトに関することでも、どちらでもよい。「パズル」の答えについては、複数の答えの可能性を論じてもよい。

基本教材 1

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（世界銀行をめぐるこれまでの議論）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（NGO の視点からみること）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（世界銀行と NGO の関係史）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（世界銀行と協働する NGO (1)）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（世界銀行と協働する NGO (2)）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（世界銀行に内から働きかける NGO (1)）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（世界銀行に内から働きかける NGO (2)）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（世界銀行に外から働きかける NGO (1)）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（世界銀行に外から働きかける NGO (2)）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（世界銀行の役割への展望）
第 11 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 13 回	レポート課題 2 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 14 回	レポート課題 1・2 について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第 15 回	レポート課題 1・2 の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

基本教材 2

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をしてから、教材に基づく学修①（開発研究への取組みのあり方）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（メタな視線）を行う
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（生活の質とは）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（貧困とは）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（事例研究の意義）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（分業が生み出すもの）
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑦（「想定外」とは）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（届かない援助）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（資源の呪い）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑩（援助の「日本モデル」）
第 11 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 13 回	レポート課題 2 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 14 回	レポート課題 1・2 について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第 15 回	レポート課題 1・2 の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

科目名	日中比較社会論特殊研究	担当者	タカツナ ヒロフミ 高 綱 博 文	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義では、上海における日本人コミュニティの150年の歴史を主要なテーマとするが、併せて日中関係への視座を構築することも目的とする。中国の改革開放の最前線として未曾有の繁栄を誇る「国際都市」上海には、戦前最も多い時には約10万人の日本人が在留した。上海「共同租界」の一角には日本人コミュニティが形成され、日本人居留民は中国人社会のただ中に生活していた。本講義は戦前における上海日本人コミュニティの形成・発展・崩壊の歴史過程を中心に講述しながら、日中関係における「敵対」・「依存」・「相互理解」の錯綜した関係を歴史具体的な事例を通じて考察する。それによって、歴史的視点とより正確な歴史像把握の方法を身につけ、問題発見・解決力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 本講義は、基本教材として内山完造『花甲録』及びホワイティング『中国人の日本観』を取り上げ、日中関係史を歴史的に理解し、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を学修する。 【行動目標（SB0s）】 日中関係の歴史について現代的な視点から考察し、日中関係の新たな未来を創造することのできる人材を育成する。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 （自主研究）教材及び参考文献の検索と熟読 （レポート作成）レポートの作成・レポート推敲 （ディベート）掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動） 学修時間：レポート課題1つにつき、凡そ45時間（教材・参考文献の学修に20時間、レポート作成に10時間、レポートの推敲と最終稿の完成に15時間） 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等） ・OERを視聴し、レポートを作成する。		
スケジュール	前期：基本教材の内山完造『花甲録』を学修し、前期レポート課題については9月の締切期日までに提出する。 後期：基本教材のホワイティング『中国人の日本観』学修し、後期レポート課題については1月の締切期日までに提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75 %	教材理解度 15%, 論旨の一貫性 15%, 要約力 15%, 表現力 15%, 解釈の妥当性 15%
	観察記録	25 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	教材を学修してレポートを作成する際には、学術論文を作成するトレーニングであるとの自覚に基づき社会科学の方法論を積極的に学修しようとする熱意を持つことを要望する。 なお、最終レポートは学事歴で定められた日まで提出して下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 内山完造 教材名： 『花甲録』（平凡社, 2011 年）ISBN:978-4-58-280807-0 3,300 円+税
	本書は戦前の上海において内山書店を経営し、また日中友好と日中文化交流のかけ橋の役割を果たした内山完造の自伝であり、そして本書は上海日本人居留民社会史の最良のテキストである。
参考図書	高綱博文『「国際都市」上海のなかの日本人』（研文出版, 2009 年）ISBN:978-4-87-636297-4 6,500 円+税
履修上のポイント	内山完造の自伝『花甲録』を、異文化社会としての中国社会と格闘した一人の日本人商人の記録として読むことができる。即ち、彼がどのように中国社会への理解を深め、多くの中国人の信頼を勝ち得て、中国でのビジネスに成功したのかについてテキストから読みとっていただきたい。
レポート課題 1	内山完造の中国社会認識とその変化について論述しなさい。 留意点： 『花甲録』を精読して先行研究とは異なる独自の論点を提示すること。
レポート課題 2	内山完造が上海で書店経営に成功した要因について考察しなさい。 留意点： 『花甲録』を精読して先行研究とは異なる独自の論点を提示すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： アレン S. ホワイティング 教材名： 『中国人の日本観』（岩波書店, 2000 年）ISBN:978-4-00-600013-4 1,365 円+税
	本書はアメリカの中国研究の碩学であるホワイティングが日中両国の多くの人々との対話を通して、中国人の日本観とそれを規定する思考様式を分析したものである。
参考図書	毛里和子『日中関係』（岩波書店, 2006 年）ISBN:978-4-00-431021-1 800 円+税 入江昭『日中関係 この百年』（岩波書店, 1995 年）ISBN:978-4-00-001712-1 2,330 円+税
履修上のポイント	本書の特徴は、日中関係を第三者の目で分析したことにある。そして、中国における広範なインタビュー及び文献調査によって中国人の日本認識をできるかぎり明確にしようとしている。第三者から見た中国人の日本イメージを批判的に検討することを通じて、各自の日中関係への視座を構築することに努めること。
レポート課題 1	テキストに描かれた中国人の日本イメージを要約し、そのイメージの形成要因について考察すること。 留意点： ホワイティングが提示している論点を日本人の眼から検証すること。
レポート課題 2	テキストの分析を踏まえて日中関係が「歴史の負の遺産」から脱却する途について考察すること。 留意点： 現実の緊張する日中関係を踏まえて考察すること。

基本教材 1

第 1 回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第 2 回	教材『花甲録』の学修
第 3 回	参考文献『「国際都市」上海のなかの日本人』の学修
第 4 回	課題 1 の資料検索と分析
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材『花甲録』の学修
第 9 回	参考文献『「国際都市」上海のなかの日本人』の学修
第 10 回	課題 2 の資料検索と分析
第 11 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	まとめのディスカッション

基本教材 2

第 1 回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第 2 回	教材『中国人の日本観』の学修
第 3 回	参考文献『日中関係』・『日中関係の 100 年』の学修
第 4 回	課題 1 の資料検索と分析
第 5 回	課題 2 の資料検索と分析
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	教材『中国人の日本観』の学修
第 11 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	まとめのディスカッション

科目名	日中比較社会論特殊研究	担当者	マツシゲ ミツヒロ 松重 充浩	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義の前期では、日本・中国・韓国・台湾の歴史認識が通時的・共時的に如何に形成・展開されたのかの把握を通じて、現代東アジア地域の安定化において避けて通れない「歴史問題」をめぐる思索と対話の前提創出に必要な知見の獲得をテーマとする。 また、後期では、近代中国東北地域の歴史と同地を巡る日中関係史を主要な対象としつつ、当該地域史・関係史を再構成する上で前提となる「問題の所在」と分析視角の把握を通じて、歴史像再構成に必要な方法論に関する知見の獲得をテーマとする。 前後期の以上の講義によって通じて、問題発見能力、史料批判能力、論理的整合性を持った立論力の修得ができるようになります。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 本講義は、「歴史認識」と近代中国東北地域社会を分析対象として取り上げ、近代東アジア史再構成の前提となる歴史的知見と、歴史像構築に必要となる史料批判と方法論を学修する。 【行動目標 (SB0s)】 ①知識・解釈：歴史認識、中国近代史、近代日中関係史の理解に必要な各種事象・用語の先行研究成果をふまえた正確な内容把握と、歴史的事実を整合的に再構成していく上で有用となる方法論の利用方法を理解する。 ②技能：「記録」から如何なる歴史的事実を摘出し得るのかという史料批判と、摘出した事実を如何に整合的に再構成していくかの立論の技能を高める。 ③態度：ある事象に対峙する際に、その実態を二項対立的に単純化して把握するのではなく、それが内包する、時空を跨ぐ多元的重層性と他事象との相互連関・相互変容の実態を追究する姿勢を持てるようになる。		
学修方略 (方法)	【学修方略 (LS) と学修時間】 - 基本教材および必要に応じて参考図書を熟読しレポート(初稿)を作成する(自習・レポート作成、SB0①②【15時間/レポート1本】) - 教員によるコメント・指導に基づき初稿を修正する(自習・レポート作成、SB0①②【15時間/レポート1本】) - インタラクティブな学習の場(ディスカッション)を通じて、最終レポートに到達する。また、必要に応じて、個別対面指導やゼミ形式での議論の機会を設ける(自主研究・レポート作成・ディベート、SB0②③④【15時間/レポート1本】) 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - レポート作成過程における受講者からの質疑は、manaba folio の全受講者用の掲示板機能(スレッド)を使って応答し、その過程を受講者全員への公開により問題意識を共有する。		
スケジュール	①前期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和5年6月末を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。 ②後期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和5年12月中旬を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材理解度 20%、論旨の整合性 15%、要約力 15%、表現力 15%、解釈の妥当性 15%
	観察記録	20 %	提出期限の厳守、教材以外の文献・資料の活用状況、レポート添削への対応
履修者への要望	- 円滑な学習遂行のため、履修登録をした院生は、速やかに担当教員(松重)に連絡すること。 (matsushige.mitsuhiro@nihon-u.ac.jp) - レポート作成に際して、参考文献(含、基本教材・参考図書)からの要約・引用を行う場合は、そのことを必ず註記で参照・引用頁数と共に明記すること。 - レポート作成は、前述した目標とは別に、博士論文作成に必要な書式等の基礎的技術修得のレッスンともなっている。また、自らの「問題の所在」と「課題の設定」をブラッシュアップするレッスンともなっており、この点の自覚を持って積極的な講義参加を求めたい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 田中仁（編） 教材名： 『21 世紀の東アジアと歴史問題：思索と対話のための政治史論』（法律文化社、2017 年）ISBN978-4-589-03840-1、3,300 円（税込）
	本書は、「第Ⅰ篇 20 世紀中国政治の軌跡」「第Ⅱ篇アジアを『想像』する」「第Ⅲ篇 韓国・台湾・中国の歴史認識」の 3 部構成からなり、日本・中国・韓国・台湾における歴史認識の実態を追究しており、東アジアに通用する「歴史の語り」を構想する上で前提となる知見を提供する。
参考図書	寺田浩明『中国法制史』（東京大学出版会、2018 年）ISBN978-4-13-032387-1、税込 4,620 円。 本書は、「歴史問題」の背景にある「法」をめぐる日中間の認識構造を、その形成機序から解明すると同時に、その差異を如何に乗り越えるのかについての方向性も提示している研究成果。
履修上のポイント	まず、グローバル大国化した中国の前提となる中国近現代史の展開が如何なる「語り」を如何なる背景の中で導出されていたのかを確認し、同時に日本におけるアジア認識の特徴についても確認して下さい。次いで、韓国、台湾、中国の歴史認識が如何なる歴史的過程に規定されつつ形成されたのかを把握した上で、東アジアにおける歴史認識をめぐる共有認識の可能性に関する考察をおこなってください。
レポート課題 1	中華民国と中華人民共和国の歴史の「語り」が如何に展開し、それらが如何なる要因により規定されるものだったのかを論述せよ。 留意点： 中国近現代史が如何なる争点をもって展開したのかを理解した上で、歴史的事実が如何なる要因をつうじて「語り」へ転化していくのかを考察して欲しい。
レポート課題 2	日本、韓国、台湾、中国の歴史認識における特徴が如何なる背景で形成されたのかをふまえた上で、東アジア諸国間で共通の歴史認識を獲得する上での課題とその克服方法について論述せよ。 留意点： 東アジア諸国における歴史認識が、それぞれ如何なる他者認識を通じて形成されているのかについて留意しつつ、その相対化の可能性を考察して欲しい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 加藤聖文・田畑光永・松重充浩（編） 教材名： 『挑戦する満洲研究：地域・民族・時間』（一般社団法人国際善隣協会発行・東方書店 [販売]、2015 年）ISBN978-4-497-21517-8、2,400 円＋税
	本書は、「第 1 部 研究の視点」「第 2 部 満洲国時代の検証」「第 3 部 周辺と満洲」の 3 部構成からなり、中国東北地域において歴史的に展開した諸主体、諸事情、諸地域の相互連関・相互変容の実相解明を通じて、当該研究における「問題の所在」と「分析視点と方法」に関する新たな研究水準を提供する。
参考図書	安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立：森林の消尽と近代空間の形成』（名古屋大学出版会、2009 年）ISBN978-4-8158-0623-1、7,400 円＋税。本書は、近代中国東北地域社会が、生態系を含む如何なる要因と構造により歴史的に形成されたかを明らかにした研究成果。
履修上のポイント	基礎教材 2 の読解にあたっては、先ず、日本、中国、ロシア、モンゴル、朝鮮における諸主体が中国東北地域や「満洲国」に対して如何なる施策や活動を展開していたのかを、分析対象が持つ歴史的意義をふまえつつ、理解してください。次いで、中国東北地域が如何なる歴史的継承性を内包していたのかを理解した上で、それが、前述した日本などの諸主体と如何なる相互連関を切り結ぶものだったのかと、その相互連関が如何なる相互変容を喚起し得るものだったのかについての考察をおこなってください。
レポート課題 1	「満洲国」に対する戦後日本人の「記憶」と「記録」のありようが、満洲国における日本人の活動・体験と如何なる連関をもって形成されているのかを論述せよ。 留意点： 満洲国における日本人の活動・体験の実態が如何なるもので、それが戦後日本社会において如何なる意味を持ったのかを考察して欲しい。
レポート課題 2	多民族居住空間であった中国東北地域において「満洲国」が持った歴史的意義を検討する上で、重要と思われる視点やテーマを、その根拠共に論述せよ。 留意点： 中国人、モンゴル人、満洲人、朝鮮人、ロシア人、日本人などが、「満洲国」において如何なる相互連関・相互変容の可能性を持ち得るものだったのかに留意して考察して欲しい。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第 2 回	基本教材 1 の「総論」の学修。
第 3 回	基本教材 1 の「第 I 編」金子論文・水羽論文の学修。
第 4 回	基本教材 1 の「第 I 編」丸山論文・吉田論文の学修。
第 5 回	基本教材 1 の「第 II 編」瀧口論文・松重論文の学修。
第 6 回	基本教材 1 の「第 II 編」劉論文・高橋論文の学修。
第 7 回	基本教材 1 の「第 III 編」柳論文の学修。
第 8 回	基本教材 1 の「第 III 編」許論文の学修。
第 9 回	基本教材 1 の「第 III 編」江論文の学修。
第 10 回	基本教材 1 の全体的把握と残された課題の確認。
第 11 回	リポート課題 1 ・リポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第 12 回	リポート課題 1 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 13 回	リポート課題 2 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 14 回	リポート課題 1 ・リポート課題 2 に関する全体的な把握を深める。
第 15 回	リポート課題 1 ・リポート課題 2 に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第 2 回	基本教材 2 の「第一部」松重論文・加藤論文の学修。
第 3 回	基本教材 2 の「第一部」塚瀬論文・菅野論文の学修。
第 4 回	基本教材 2 の「第二部」遠藤論文・白戸論文の学修。
第 5 回	基本教材 2 の「第二部」細谷論文・湯川論文の学修。
第 6 回	基本教材 2 の「第二部」大澤論文・佐藤論文の学修。
第 7 回	基本教材 2 の「第三部」鈴木論文の学修。
第 8 回	基本教材 2 の「第三部」青木論文の学修。
第 9 回	基本教材 2 の「第三部」麻田論文の学修。
第 10 回	基本教材 2 の全体的把握と残された課題の確認。
第 11 回	リポート課題 1 ・リポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第 12 回	リポート課題 1 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 13 回	リポート課題 2 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 14 回	リポート課題 1 ・リポート課題 2 に関する全体的な把握を深める。
第 15 回	リポート課題 1 ・リポート課題 2 に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

科目名	経済理論特殊研究 令和4年度以前入学生は履修できません。	担当者	ゴトウ 後藤 ヤスオ 康雄	期間	通年	単位数	4
-----	---------------------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は経済理論の体系、構造の理解と現実への応用を通じた、現代社会経済の諸課題に対する深い考察を行うことにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。 ① ミクロ経済学における、各経済主体の最適化行動として経済活動をモデル化する枠組みに沿って、経済社会の多様な側面を自ら解釈することができる ② マクロ経済学における、経済全体の動向を集計レベルでとらえた上で各経済変数間の関係を理解する枠組みに沿って、経済成長等のマクロ経済現象を考察することができる ③ 現実の経済データを統計的に解析する計量経済学の枠組みに沿って、国内外の経済現象を回帰分析等の手法によって分析し、得られた結果を自ら解釈することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 ミクロ、マクロ、セミマクロ（産業）の各視点の違いを理解し、経済現象を適切な理論モデルに基づいて考察できるようになる 【行動目標（SB0s）】 現代の標準的なミクロ、マクロ経済学の理論そのものの理解に加え、それらを援用することで現実の経済社会の課題と政策対応を考察し、評価できるようになることである。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 - 基本教材の読解だけでなく、内容に関連するトピックや材料を自身で調べることが求められる。これには基本教材の読解の4、5倍の時間を要すると考えられる。 - 経済学においては現実を見る視点が極めて重要であるため、経済に関する各種報道（新聞、雑誌、ネット記事等）や各種調査レポート（政府資料や民間調査機関の出版物）も有力な調査対象である。 - 具体的な指導形態としては、manaba folio を活用した教員と院生との間のパイラテラルな個別指導を行う。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【学修方略（LS）】 - 基本教材・参考資料等の十分な理解、関連情報の調査、整理、理解、レポート作成、教員と受講者、あるいは受講者同士のディスカッション、さらにレポート添削における教員と受講生によるディスカッションを重ねることにより、レポート原稿を最終的に完成させる。 【学修時間】 1つのレポート課題当たりにつき、完成に至るまで45時間以上の学修時間を要するものとする（以下を目安とする）。 - 基本教材・関連教材の学修：20時間程度 - レポート執筆：10時間程度 - レポート原稿のリバイス～最終原稿の作成（教員による添削指導等を含め）15時間程度		
スケジュール	課題ごとに以下の通り提出期限を設ける。やむを得ない事情により初稿期限までに提出が難しいと考えられる場合には、速やかにメール等で連絡を頂きたい。 - 前期・・・レポート課題1の初稿締切は6月末、最終原稿提出期限は前期締切日 レポート課題2の初稿締切は8月末、最終原稿提出期限は前期締切日 - 後期・・・レポート課題1の初稿締切は10月末、最終原稿提出期限は後期締切日 レポート課題2の初稿締切は12月末、最終原稿提出期限は後期締切日		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	①各教材の内容とその背後にある理論を理解・修得し それらを踏まえて記述されていること ②自身の意見や考えが読み手に伝わるように記述する努力とその成果が表れていること ③教材の内容が適切に引用されていること ④基本教材以外の資料を独自に調べ、活用していること（加点項目）
	観察記録	20 %	・最終原稿の完成に至るまでに複数回のレポート交換をしていること ・途中稿提出期限（最終提出 1 か月前）が守れているか（減点項目）
履修者への要望	- 初稿提出に関する締め切りを遵守して下さい。 - 経済理論を、リアリティを持って理解するは、時々刻々と変化する現実の経済が恰好の素材となります。経済全体や個別の経済の課題を、常に政策的な問題意識をもってながめるように心がけてもらえればと思います。例えば、日本経済新聞、週刊東洋経済、週刊エコノミストなどは幅広い現実の経済トピックを網羅している媒体です。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 加藤 雅俊 教材名： 「スタートアップの経済学 -- 新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ」 有斐閣 ISBN-13 : 978-4641166011 2860 円＋税
	ミクロ経済学の基本的な考え方である最適化、費用曲線、市場の失敗等に基づいて、「アントレプレナーシップ」や「起業」という社会的意義が大きい現実的なトピックを解説。理論モデルを提示した上でそれをサポートする実証的エビデンスが示され、経済学の枠組みに基づく考察の進め方の基本的枠組みも学べる。スタートアップの動向はひいては経済成長等を通じてマクロ経済にも影響するため、ミクロ経済的視点とマクロ経済的視点の双方から考察を拡げることが可能である。
参考図書	『中小企業のマクロ・パフォーマンスー日本経済への寄与度を解明する』（後藤康雄）
履修上のポイント	主としてミクロ的視点から経済主体の意思決定について考える。ミクロ経済学においては、各経済主体が目的関数の最適化を図ると仮定するのが標準的な枠組みである。“事業を興す”という意思決定は、個人にとっての一大事であり、かつ企業活動の端緒でもある。個人（消費者）と企業を2大プレイヤーとみなすミクロ経済学の応用として格好の題材といえる。こうした各経済主体（個人、企業）の意思決定のあり方という視点で考察を進めていくことが有効である。
レポート課題 1	わが国において起業活動が低迷を続けている背景について、経済学的な観点に立ち、また現実のデータをまじえながら整理する（5千字程度）。 留意点： 教材の関連する箇所を精読し、さらに自らわが国の現状について調べ、経済学の視点からまとめること。
レポート課題 2	わが国において起業活動を高めるために有効と考えられる方針や方策について、経済学的な観点に立ち、また国内外の現実の情報をまじえながら提案する（5千字程度）。 留意点： 教材の関連する箇所を精読し適宜参考にすることに加え、自らの意見を明確にして、政策的な視点からまとめること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 渡辺 努 教材名： 「物価とは何か」 講談社 ISBN-13 : 978-4065267141 2145 円＋税
	集計レベルの物価変動（インフレやデフレ）はマクロ経済学における極めて重要な論点のひとつである。本教材は、1990年代以降長らく続いたわが国のデフレ圧力を念頭に置きつつ、物価変動のメカニズムを理論的、実証的に考察するものである。従来、物価変動は集計レベルのマクロ的視点で考えられてきたが、近年、個々の財・サービスの価格の動向というミクロ的な視点と連携させて分析する方向が目覚ましい成果をあげている。本教材は、そうした新しい方向性にも十分目配りし、マクロ、ミクロ双方の視点から物価変動の考え方を整理し、政策のあり方など幅広い論点を網羅する。
参考図書	『世界インフレの謎』（渡辺努）
履修上のポイント	主としてマクロ的視点から、物価変動のメカニズムとそのわが国における動向について考える。マクロ経済学においては、主要な経済変数を集計レベルでとらえ、それぞれの因果関係を考慮の上、数理モデルとして表現するのが一般的な枠組みである。最終的にはこうした集計レベルに落とし込んでいくことが必須ではあるものの、その背後にあるメカニズムは、個々の経済主体の意思決定の積み上げであり、ミクロ的な最適化行動の視点もまた欠かせない。
レポート課題 1	わが国においてバブル崩壊以降（特に2000年代以降）、デフレ圧力が長らく続いた背景について、経済学的な観点に立ち、また現実のデータをまじえながら整理する（5千字程度）。 留意点： 教材の関連する箇所を精読し、さらに自らわが国の現状について調べ、経済学の視点からまとめること。
レポート課題 2	わが国における今後の物価のコントロール（制御）のあり方として有効と考えられる方針や方策について、経済学的な観点に立ち、また国内外の現実の情報をまじえながら考察する（5千字程度）。 留意点： 教材の関連する箇所を精読し適宜参考にすることに加え、自らの意見を明確にして、政策的な視点からまとめること。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をする。 教材に基づく学修①(「スタートアップの経済学」の枠組み)
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②(第 2 章)を行う
第 3 回	教材に基づく学修③(第 3 章)
第 4 回	教材に基づく学修④(第 4 章)
第 5 回	教材に基づく学修⑤(第 5 章)
第 6 回	教材に基づく学修⑥(第 6 章)
第 7 回	教材に基づく学修⑦(第 7 章)
第 8 回	教材に基づく学修⑧(第 8 章)
第 9 回	教材に基づく学修⑨(第 9 章)
第 10 回	教材に基づく学修⑩(第 10 章)
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、レポートの初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第 13 回	レポート課題 2 に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに関する全体的な認識・理解を深化させる
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 についての自身の考えを教員と共有し、最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をする。 教材に基づく学修①(「物価変動の経済学的理解」の枠組み)
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②(第 1 章)を行う
第 3 回	教材に基づく学修③(第 2 章 1、2 節)
第 4 回	教材に基づく学修④(第 2 章 3 節)
第 5 回	教材に基づく学修⑤(第 3 章 1、2 節)
第 6 回	教材に基づく学修⑥(第 3 章 3～5 節)
第 7 回	教材に基づく学修⑦(第 4 章 1、2 節)
第 8 回	教材に基づく学修⑧(第 4 章 3 節)
第 9 回	教材に基づく学修⑨(第 4 章 4、5 節)
第 10 回	教材に基づく学修⑩(第 5 章)
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、レポートの初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第 13 回	レポート課題 2 に関する教員による指摘事項に基づいて内容を再検討し、必要な修正を行う
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに関する全体的な認識・理解を深化させる
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 についての自身の考えを教員と共有し、最終レポートを提出する

科目名	国際経済政策論特殊研究	担当者	リク ユウゲン 陸 亦 群	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	1990 年代以降の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。東アジアでは、企業生産活動のグローバル化が進んだ結果、部品や中間財の貿易が増大し、域内貿易依存度は EU や NAFTA 並みの高い水準になり、新しい国際分業関係が現れている。この地域では新たなダイナミズムが形成され、EU や NAFTA の経済統合とは異なった形の「事実上の統合」が進んでいる。本講座は、国際分業構造変化や産業集積の地域経済発展との関連性に着目して、理論と実証の両面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 最新理論および実証分析手法を修得する。仮説の提起・検証のプロセスを理解する。 グローバル化時代下の経済政策が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論知識を修得し、国際経済政策問題の歴史的理論的アプローチを理解する。 【行動目標（SB0s）】 ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 経済政策と経済開発問題の推移を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）基本教材リーディング 学修時間：12 時間 （自主研究）研究論文サーベイ、参考文献の検索 学修時間：12 時間 （ディベート）オンラインディスカッション 学修時間：12 時間 （研究課題報告などの協働学習）ピア・レスポンス 学修時間：12 時間 （レポート作成）レポート作成及びレポート推敲 学修時間：12 時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 基礎理論の指導や質疑応答はオンラインディスカッションを行う。 研究課題報告についてはグループディスカッションを行う。		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事歴で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限 1 か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期にメールなどを使って連絡すること。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	研究文献サーベイ、図書資料の把握程度を重視し、問題設定、問題提起の方法、論理的展開、独創性、参考引用の適切性などを評価する。
	観察記録	20 %	ディスカッション、ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	基本教材 1 については、単に基本教材を読み、理解し、それをまとめるだけでは不十分である。先行研究サーベイを徹底し、既存理論をしっかり抑え、他者の見解を鵜呑みにするのではなく、批判的吸収の見地にたって、自分なりの考えを如何に示すか、常に「何故か」と問う姿勢が必要である。 基本教材 2 については、先行研究調査を通じて、既存理論や諸説をまとめ理解を深めると同時に、統計データの入手、データベースの構築、実証分析手法を確立していくことが重要であり、如何に自分なりの仮説を示し、それを検証するかが大切である。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 馬田啓一，木村福成編著 教材名： 『国際経済の論点』（文真堂，2012年）ISBN:978-4-83-094771-1 2,800円＋税
	本教材は、WTOと経済連携、貿易と直接投資、自由貿易と企業行動、通貨と金融危機、新興国と開発の5部から構成されている。貿易構造の多角化と東アジアの中間財供給、東アジアにおける生産・流通ネットワークの重要性、海外直接投資と空洞化の問題、アンチダンピング、欧州政府債務危機の根底にある問題、躍進する新興国と「中所得国の罠」など、国際経済環境における不確実性が高まるなか、国際経済に取り巻く様々な問題を論点に取り上げ、その現状や問題点、そして課題を考察したものである。
参考図書	若杉隆平編著『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』（文真堂，2020年） ISBN: 978-4-8309-5077-3 2,500円＋税 木村福成編著『これからの東アジア-保護主義の台頭とメガFTAs-』（文真堂，2020年） ISBN: 978-4-8309-5098-8 2,500円＋税 森下史郎，清水和巳編著『地域統合の政治経済学』（東京経済新報社，2007年） ISBN:978-4-49-231373-2 3,800円＋税
履修上のポイント	企業のグローバル化，中間財供給，工程間分業，新しい国際分業，国際経済秩序，自由貿易体制，FTA戦略といったキーワードをしっかりと理解することがグローバルな政策課題の変遷を把握することにつながる。
レポート課題1	WTO体制における広域経済連携の現状と課題について 留意点： 教材のWTOと経済連携，貿易と直接投資を理解するとともに，広域経済連携の現状を突き止め，国際経済秩序，自由貿易体制下の通商戦略展開を踏まえて課題を説明すること。
レポート課題2	日本企業のグローバル化と新たな国際分業の出現について，近年のアジアを取り巻く経済環境の変化と望ましい国際経済政策のあり方について 留意点： 中間財供給，工程間分業といったキーワードを理解し，新しい国際分業の特徴を的確に捉え，アジアの経験を踏まえて説明することが望ましい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 園部哲史，大塚啓二郎 教材名： 『産業発展のルーツと戦略-日中台の経験に学ぶ-』（知泉書館，2004年） ISBN:978-4-90-165434-0 4,500円＋税
	グローバル化時代において発展途上国の工業化や産業発展を考える際に，産業集積が持つ経済的意味を考慮することの重要性は増しており，産業集積を如何に産業の発展に結びつけるかが重要な課題となる。本書は，情報の非対称性に関する経済理論，契約や組織の理論，経済地理学や産業集積の理論，農村工業化論などの既存理論に立脚しながら，アジアの経験とりわけ日中台のいくつかの事例研究を足掛かりに，理論・実証・政策の総合的視点から産業発展のプロセスの理論化を試みたものであり，現場のミクロデータを駆使して，内生的産業発展論の視点から産業集積の発展過程を解明するとともに，空間経済学の視点から開発戦略への政策論的インプリケーションを明らかにしたものである。
参考図書	高中公男訳『グローバル・バリューチェーン-新・南北問題へのまなざし-』（日本経済新聞社，2019年）ISBN: 978-4-532-13494-5 2,500円＋税 陸亦群・前野高章・羽田翔・安田知絵『現代開発経済入門』（文真堂，2020年） ISBN:978-4-83-095082-7 2,300円＋税 本多光雄・呉逸良・陸亦群・井尻直彦・辻忠博『産業集積と新しい国際分業-グローバル化が進む中国経済の新たな分析視点-』（文真堂，2007年）ISBN:978-4-83-094582-3 2,500円＋税 若杉隆平『現代の国際貿易-ミクロデータ分析』（岩波書店，2007年） ISBN:978-4-00-022768-1 4,500円＋税
履修上のポイント	空間経済学の産業集積理論と内生的産業発展論の2つの理論をつなぐ着眼点から産業発展を動的に説明する論理を構築し，それを開発戦略への取り組みに結びつく点がポイントであり，仮説の提起，統計的検証，結論の要約といった科学的な論述スタイルは注目すべきところである。また，実証モデルや分析の枠組みに適したデータベースの構築といった計量分析手法も学習のポイントである。
レポート課題1	産業発展と産業集積に関連する基礎理論およびその分析枠組みを把握し，今なぜ産業集積か，産業集積の本質は何かを明らかにした上，東アジア的特徴を解明する。そして本教材における産業集積ないし産業発展の動態的变化に関わる捉え方の問題点を明らかにする。 留意点： 産業集積理論と内生的産業発展論を理解したうえで，産業発展の動態的变化に関わる捉え方の賛否を論じること。
レポート課題2	これまでの実証分析手法を参考にしながら，アジアにおける産業集積と経済発展との関連性について，自分なりの仮説を立て，一カ国もしくは数カ国を対象に実証モデルを構築し，それに適する統計データを収集し実証分析を行い，仮説を検証する。 留意点： 仮説の提起，データ収集，仮説検証，結果分析といった実証分析手法を構築してほしい。

基本教材 1

第 1 回	基本教材の学修：WTO と経済連携
第 2 回	基本教材の学修：貿易と直接投資
第 3 回	基本教材の学修：自由貿易と企業行動
第 4 回	課題論文の検索と分析
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修：通貨と金融危機
第 10 回	基本教材も学修：新興国と経済開発
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	基本教材の学修：産業集積理論と課題設定
第 2 回	基本教材の学修：内生的産業発展論
第 3 回	基本教材の学修：産業立地と産業発展
第 4 回	課題論文の検索と分析
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修：産業集積の比較研究
第 10 回	基本教材も学修：内生的産業発展論の構築に向けて
第 11 回	課題論文の検索，仮説提起，実証分析モデルの構築
第 12 回	レポート課題 2：データ収集，仮説検証，初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	国際経営論特殊研究	担当者	シナト 階戸 テルオ 照雄	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	今日のグローバル企業（米国，日本，欧州，アジアなど）は益々その活躍の場を世界に広めている。グローバル企業の現代的な課題と問題点を認識し，理解することにより，以下の能力を身につけることを目的とする。 I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて，自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し，独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し，ときに強い影響を与えることができる。 IV. 集団の活動において，より良い成果を上げるために，他社と協働し，作業を行うとともに，指導者として他社の力を引き出し，その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 国際企業の経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために，国際経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。 【行動目標（SBOs）】 企業を巡る国際経営論はもとより，諸理論や経営課題について把握し，その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。		
学修方法	【学修方略（LS）】 ・基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。 【学修時間】 レポート課題1つにつき，完成までに以下を目安に最低45 時間の学修時間を要するものとする。 ・教材の学修：20 時間 ・レポート執筆：10 時間 ・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15 時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・manaba folio の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 初稿締切期限：6月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：8月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 <後期> ・レポート課題1 初稿締切期限：10月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：11月末 ★最終稿提出期限=後期締切日		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容を十分理解・修得し，レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ，独創性，文章表現の妥当性，引用の適切性等）。
	平常評価	20%	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。
履修者への要望	・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・基本教材は英文オリジナルの部分と和訳であるため，原著（Gaining and Sustaining Competitive Advantage, 2 nd Edition）との併読が望ましい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： ジェイ・B・バーニー 教材名： 『企業戦略論』上・中・下 ダイヤモンド社 各 2,400 円+税 上 ISBN:978-4-47-837452-8/中 ISBN:978-4-47-837453-5/下 ISBN:978-4-47-837454-2
	本書は、「資源アプローチ」の大御所バーニー教授による大著の邦訳である。「資源アプローチ」のみならず、ポーター教授の「ポジショニングアプローチ」他、これまでの経営戦略論の流れが分かりやすく示されている。国際戦略についても、かなりのスペースが割かれており、現代の経営戦略論を理解するためには必読の書物である。
参考図書	C. バートレット, S. ゴシャール『MBAのグローバル経営』（日本能率協会マネジメントセンター, 1998 年）ISBN:978-4-82-071315-9 2,600 円+税 ビッド・J・コリス他『資源ベースの経営戦略論』（東洋経済新報社, 2004 年）ISBN:978-4-49-252151-9 3,800 円+税
履修上のポイント	1. 基本教材は本格的な戦略論の大系であり、早期に通読するとともに、各章末に参照された論文を読むことにより、最新の経営理論を理解する。 2. 参考図書の『MBAのグローバル経営』は、国際経営に関する古典ともいえる重要な研究である。基本図書の国際経営に関する研究と合わせ、深い理解が望まれる。 3. 同じく、参考図書の『資源ベースの経営戦略論』は海外 MBA コースの標準テキストであり、原文との併読が有用である。
レポート課題 1	国際戦略における持続的競争優位性について、詳述せよ。
レポート課題 2	トランスナショナル戦略について、詳述せよ。 留意点： 1社以上のグローバル企業（日本企業以外でも可）を選び、説明のこと。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 浅川和彦 教材名： 『グローバル経営入門』（日本経済新聞出版社, 2003 年）（9 刷、2016 年）ISBN:978-4-53-213260-6 2,800 円+税
	本書は、グローバル経営の観点から、さまざまな経営上の課題を取り上げ、経営戦略上の包括的な分析を加えた、従来より定評のある教科書である。本書の内容の理解を下に、グローバル企業の国際経営の課題の熟知を図る。基本書、参考図書だけではなく、できるだけ、原語で書かれた経営学に関する教科書の直接理解を図る。
参考図書	チャン・キム, レネ・モボルニュ [新版] 『ブルー・オーシャン戦略』（ダイヤモンド社, 2015 年）ISBN:978-4-47-806513-6 2,000 円+税 スザンヌ・バーガー他『グローバル企業の成功戦略』（草思社, 2006 年）ISBN:978-4-79-421525-3 2,310 円+税
履修上のポイント	1. 今日のグローバル企業（米国、日本、欧州、アジアなど）は益々その活躍の場を世界に広めている。グローバル企業の現代的な課題と問題点を認識する。 2. 経営理論の発展の過程で、参考図書にあげた『ブルー・オーシャン戦略』が、現在、世界的な注目を集めている。この最新の理論の理解と実践面での応用の可能性につき深く検討する。
レポート課題 1	日本企業のグローバル戦略の問題点につき、詳述せよ。
レポート課題 2	『ブルー・オーシャン戦略』の新規性につき、論評せよ。 留意点： 従来の経営戦略との違いを明確にすること。

基本教材 1

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第 1 章）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第 2 章、第 3 章）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（第 4 章、第 5 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（第 6 章、第 7 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（第 8 章、第 9 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（第 10 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（第 11 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（第 12 章、第 13 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（第 14 章）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（第 15 章）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（グローバル経営の考え方）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（グローバル経営の戦略論、グローバル経営戦略の諸側面）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（グローバル経営の組織論）
第 4 回	教材に基づく学修④（本社一海外子会社関係とその変遷、グローバル統合・ローカル適応の論理）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（多国籍企業の革新モデル：トランスナショナル経営論とその後）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（グローバル R&D マネジメント、グローバル戦略提携のマネジメント）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（グローバルな人的資源戦略）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（リージョナル・マネジメント、グローバル経営における文化）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（グローバル経営の課題）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	流通経営論特殊研究	担当者	カトウ 加藤 コウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は流通産業の構造，流通企業の経営問題に対する深い理解を修得することにより，以下の能力を身に付けることを目的とする。 ① 流通産業の知識の修得を通じて，社会の構造変化の実態とそれに対応する企業の活動につき，自ら学ぶ ② 流通経営の知識を持つことで，現在のネットワーク技術の革新とそれに対する企業行動を理解し，今後の産業の方向性を自ら考えることができる ③ 国内外の流通業界の動向についてより深い見地から理解し，流通研究・産業研究に対する研究視点を得るとともに，新たな学術的アプローチに向けて，自ら道をひらくことができる		
到達目標	【一般目標（GIO）】 流通企業経営に必要な企業戦略・組織運営に加え，産業構造に関する専門性を理解する 【行動目標（SBOs）】 ① 学修者が流通産業に関する知識を幅広く学び，その内容を列挙するとともに，それぞれの知識を関係づけて理解する（知識） ② 具体的な企業の経営活動に対して，学んだ知識を活かして，深く洞察することで理解を一層深め，自らの研究に使うことができる技能に高める（技能） ③ 産業構造の変化や企業活動が，理論通りに進まない状況に対し，どこにその原因があるかを配慮する（態度）		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）・学修媒体等】 - 教材精読に留まらず，内容を理解し，関連する研究領域を探索することを自らやってみることで，理解は深まる。そのため，基本教材の精読の 3～5 倍の時間を使い関連資料を探しつつ，しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。 - また，具体的な企業事例に基づく研究が必要であり，各自が教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のほか，企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文，民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。 【準備学修時間】 - 基本教材を熟読したうえで，副教材も参考にしつつ，レポートドラフトを作成する【15 時間/レポート 1 本】 - 提出レポートに対するコメントに基づき深い考察を行う必要がある。指導・考察のサイクルを複数回やり取りすることで理解が深まる。この時点で，基本教材・副教材以外の参考資料を，学修者が自ら探し出すことが求められる【15 時間/レポート 1 本】 - インタラクティブな学習の場（ディスカッション）となる「複数回の添削指導」を通じて，最終的にレポートが作成される。それまでに与えられた課題以外の追加資料との整合性，先行研究との比較を通じた自主的なインプットによる深い理解に到達することができる【15 時間/レポート 1 本】		
スケジュール	① 提出期限までに何度かレポートを使って，考え方を確認・交換する必要があるため，初回提出期限は課題提出期限 1.5 か月前までとする。（前期：7 月末、後期 11 月末） ② 受講開始後，課題へのアプローチ方法がわからず，初稿提出期限までに課題提出が難しいと考えた場合には，レポート作成に必要な質問を，メールあるいはレポート提出システム（manaba）を使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために，レポート作成前に，課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	①教材の内容を修得し，その考えを踏まえて解答されているか ②自分の独自の考えを，相手に伝わるように解答できているか ④ 教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20 %	最終提出までに複数回のレポート交換ができているか 途中稿提出期限（最終提出 1 か月前）が守れているか（減点項目）
履修者への要望	本講座の対象となる流通企業とは，小売企業にとどまらず，卸売（中間流通）企業あるいは物流企業も対象である。広く流通活動に携わる企業に基づく活動・研究として考える必要がある。 履修にあたり，流通産業の実態に関する十分な理解が必要であることは言うまでもないが，あわせて，修士レベルの経営理論の知識があることを前提とする。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： Philip Kotler, Kevin L. Keller, Alexander Chernev(著), 恩蔵直人(監修・翻訳) 教材名： 「コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント [原書 16 版]」(丸善出版, 2022 年) ISBN: 978-4621307472, 8,500 円＋税
	教材はマーケティングの定番テキストであり、マーケティング活動に留まらず、幅広く流通企業経営に必要な不可欠な問題点を取り上げ、同分野の必読書として精読することが望まれる
参考図書	① フィリップ・コトラー, ゲイリー・アームストロング, 恩蔵直人「コトラー, アームストロング, 恩蔵のマーケティング原理」(丸善出版, 2014 年)
	② Michael Levy, Barton Weitz, Dhruv Grewal “Retailing Management 11th Edition” McGraw-Hill Education (2022/3/18)
履修上のポイント	参考図書②はアメリカの流通企業経営に係るテキストで、アメリカに留まらず世界の最新の流通産業の実態に触れているものである。産業に係る研究を進めるためには、常に、最新の情報を入手する必要があることを理解してほしい。なお、レポート課題に取り組むためには、提示している教材以外に独自に書籍・論文などを探し、問題を深堀する必要がある。
レポート課題 1	流通企業の経営者に課されている意思決定上の課題は何か。あなたの考えに基づき列举して整理せよ。(5000 字程度) 留意点： 企業経営者に課される課題は多い。流通産業では、古くからある課題に加えて、最新の変化によって直面することになった課題まで幅広く難しい問題に直面している。今、何を意思決定しなくてはいけないのか、一つずつ丁寧に考察することを通じて、産業の実態を明らかにする。本講義を通じて、当初に仮説として設定した「課題」について検証することとなる。
レポート課題 2	顧客の期待に対して流通企業はどのように反応することができるか。(5000 字程度) 留意点： まず、顧客は流通企業に対して何を期待しているのだろうか、ということを考えたうえで、その期待に応えるための流通企業側のアクションを示すことが求められる。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： Philip Kotler, Kevin Lane Keller(著), 恩蔵直人監修 教材名： 「コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント [原書 16 版]」(丸善出版, 2022 年) ISBN: 978-4621307472, 8,500 円＋税
	教材はマーケティングの定番テキストであり、マーケティング活動に留まらず、幅広く流通企業経営に必要な不可欠な問題点を取り上げ、同分野の必読書として精読することが望まれる
参考図書	中野幹久「サプライチェーン・マネジメント論」(中央経済社, 2016 年)
履修上のポイント	流通企業経営における問題点を幅広く考える必要があるレポート課題に取り組むためには、提示している教材を読むだけでは不十分であり、独自に書籍・論文などを探し、問題を深堀する必要がある。追加的な参考資料については、自らの問題意識を明確にしたうえで、担当教員と相談しつつ絞り込んでいってほしい
レポート課題 1	サプライチェーンの構成要素の一員である流通企業はどのように行動すべきか (5000 字程度) 留意点： サプライチェーンは、製造業から消費者までの商品のつながりである。効率的なサプライチェーンを実現するために、各経済主体が担う役割を整理するとともに、現在、サプライチェーンにおいて起こっている変化を捉えて、望ましい流通企業の行動を示すことが求められる。
レポート課題 2	情報処理及びネットワーク技術の革新により、流通企業が活用できるツールが大きく変化している。今後の社会変化の中で流通企業はどのように対処していくべきだと考えるか、あなたの考えを示しなさい (5000 字程度) 留意点： 流通産業では最先端の情報技術の活用に取り組んでいる。インターネットを利用した製配販連携や、人工知能を利活用した販売戦略、在庫管理など、流通企業が利用するツールの変化を調べ上げたうえで、流通企業経営に重要な視点を示すことが求められる。

基本教材 1

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をする 教材に基づく学修①（21 世紀のマーケティングの定義）
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し認識を共有する 教材に基づく学修②（マーケティング戦略とマーケティング計画の立案）
第 3 回	教材に基づく学修③（情報収集と環境調査）
第 4 回	教材に基づく学修④（マーケティング・リサーチの実行と需要予測）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（顧客価値，顧客満足，顧客ロイヤルティの創造）
第 6 回	「学修の進捗状況」を教員と共有する 教材に基づく学修⑥（消費者市場の分析）
第 7 回	教材に基づく学修⑦（ビジネス市場の分析）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（市場セグメントとターゲットの明確化）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（ブランド・エクイティの創出）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（ブランド・ポジショニングの設定）
第 11 回	教材に基づく学修⑪（競争への対処）
第 12 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ，初稿を提出する
第 13 回	レポート課題 1・2 に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修⑫（製品戦略の立案）
第 2 回	教材に基づく学修⑬（サービスの設計とマネジメント）
第 3 回	教材に基づく学修⑭（価格設定戦略と価格プログラムの策定）
第 4 回	教材に基づく学修⑮（バリュー・ネットワークおよびチャネルの設計と管理）
第 5 回	教材に基づく学修⑯（小売業，卸売業，ロジスティクスとのマネジメント）
第 6 回	「学修の進捗状況」を教員と共有する 教材に基づく学修⑰（統合型マーケティング・コミュニケーションの設計とマネジメント）
第 7 回	教材に基づく学修⑱（マス・コミュニケーションのマネジメント：広告，販売促進，イベント，パブリック・リレーションズ）
第 8 回	教材に基づく学修⑲（人的コミュニケーションの管理：ダイレクト・マーケティングと人的販売）
第 9 回	教材に基づく学修⑳（新製品の開発）
第 10 回	教材に基づく学修㉑（グローバル市場への進出）
第 11 回	教材に基づく学修㉒（ホリスティック・マーケティング組織のマネジメント）
第 12 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ，初稿を提出する
第 13 回	レポート課題 1・2 に係る教員からの指摘事項を受け，それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	ファミリービジネス論 特殊研究 令和4年度以前入学生は履修できません。	担当者	シナト 階戸 テルオ 照雄	期間	通年	単位数	4
-----	---	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本科目では、ファミリー企業のビジネス・経営につき、海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて、考察してゆくことで、以下の能力を習得することを目的とする。 I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV. 団体の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 ファミリー企業経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。 【行動目標 (SB0s)】 企業を巡るファミリービジネス論は当然として、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。		
学修方法	【学修方略 (LS)】 ・基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。 【学修時間】 レポート課題1につき、完成までに以下を目安に最低45 時間の学修時間を要するものとする。 - 教材の学修：20 時間 、 レポート執筆：10 時間 、 - レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15 時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 - manaba folio の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 - 図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 初稿締切期限：6月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：8月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 <後期> ・レポート課題1 初稿締切期限：10月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：12月末 ★最終稿提出期限=後期締切日		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等）。
	平常評価	20 %	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。
履修者への要望	- 初稿の提出は締め切りを遵守すること。 - 必須ではないものの、前期課程において、ファミリービジネス関連科目の履修も望ましいのは言うまでもない。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠雄編著、階戸照雄他著 教材名： 『日本のファミリービジネス―その永続性を探る―』（中央経済社，2016 年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400 円+税
	前期は基本的なところではあるが、ファミリー企業の現状と課題につき、理解を深めることに重点を置く。このため、データ・理論面だけではなく、実際のファミリー企業像が得られるよう、具体的な企業についての知識を得るよう努める。
参考図書	ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版，1999 年） ISBN:978-4-94-774630-6 2,800 円+税 全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社，2004 年） ISBN:978-4-49-255514-9 1,800 円+税
履修上のポイント	1. まず、ファミリー企業の定義からその実態までの数々のデータを基に、理解を深める。 2. 一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。 3. 一般的な企業と比較して、ファミリー企業のファミリーガバナンスの問題点を考える。
レポート課題 1	ファミリー企業における事業承継の重要性につき述べよ。 留意点： 1 社以上の具体例を説明すること。
レポート課題 2	ファミリー企業における、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき、説明せよ。 留意点： 1 社以上の具体例を含めること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： ランデル・カーロック，ジョン・ワード（訳者）階戸照雄 教材名： 『ファミリービジネス 最良の法則』（ファーストプレス社，2015 年） ISBN:978-4-90-433681-6 3,800 円+税
	後期は、前期で習得した知識をベースにして、基本教材（『ファミリービジネス 最良の法則』）で広範囲に扱われている、ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり、深い理解が望まれる。原書の通読を期待する。
参考図書	階戸照雄、加藤孝治編著『ファミリーガバナンス』（中央経済社，2020 年） ISBN:978-4-502-34471-8 2,450 円+税
履修上のポイント	1. 欧米のファミリー企業の現状につき、知識を得る。 2. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。 3. 公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。 4. ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。
レポート課題 1	コーポレートガバナンスとの違いを明確にしつつ、ファミリーガバナンスを論述しなさい。 留意点： 1 社以上の具体例を含めること。
レポート課題 2	ファミリービジネスにおける 3 円モデルと PPP モデルを比較しながら、論述しなさい。 留意点： PPP モデルの優位性につき明示すること。

基本教材 1

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第 1 章）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第 2 章）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（第 3 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（第 4 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（第 5 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（第 6 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（第 7 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（第 8 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（第 9 章）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（終章）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学すべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜファミリービジネスは悪戦苦闘しているのか）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（ファミリー計画と事業計画の策定を同時進行させる）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（ファミリーの価値観と企業文化）
第 4 回	教材に基づく学修④（ファミリーとビジネスのビジョン：ファミリーのコミットメントを探る）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（ファミリーの戦略：ファミリーの参加に関するプランニング）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（ビジネス戦略：会社の将来の計画）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（ファミリービジネスを成功へと導くための投資）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（ファミリービジネス・ガバナンスと取締役会の役割）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（ファミリーガバナンス：ファミリー集会とファミリー協定）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（木を植える人々）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	比較文学特殊研究	担当者	アキクサ 秋 草 シュンイチロウ 俊 一 郎	期 間	通 年	単 位 数	4
-----	----------	-----	---------------------------	-----	-----	-------	---

【科目概要】

目 的	比較文学の後継ディシプリンとして注目をあびている「世界文学」について考えるうえで重要な最新の英語の学術書を前期後期一冊ずつ一年かけて精読していく。世界文学を考えるうえで概念モデルとしての「エコロジー」がどこまで有効なのか、先行するカザノヴァ・モレッティの経済モデルと比較して考えてみてほしい。 以上の書籍の通読、レポートの作成を通じて、専門的な英文読解能力、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力を身に付けることを目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 英語の学術書を精読し、内容について批判的に議論できるようになること。 英語を含む参考文献・引用・注の体裁をととのえた学術論文の執筆形式に習熟すること。 【行動目標（SBOs）】 英語の学術書を数か月で通読できる語学力の獲得。内容を適切に要約・説明しうる翻訳力の獲得。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。そのうえで面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し、ディスカッション、課題レポートについての報告をおこなうことが推奨される。		
スケジュール	前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	やや大変と思われるかもしれないが、英語で学術文献を精読できることは博士論文執筆の最低条件であるので、一年をかけて二冊の学術書を読むことで英語読解力を養成してほしい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： Ben Hutchinson, <i>Comparative Literature: A Very Short Introduction</i> , Oxford UP. 教材名： 2018. ISBN-10: 9780198807278
	著者はケント大学の教授。本書は有名なオックスフォード大学出版会の A Very Short Introduction のシリーズで、比較文学について概略を紹介したもの。世界文学や翻訳研究にも触れられている。
参考図書	パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』（藤原書店、2002） ISBN: 978-4894343139 8,800 円＋税 レベッカ・ウォルコヴィッツ『生まれつき翻訳』（松籟社、2021 年刊行予定）
履修上のポイント	比較文学という学問についての概略を学んでほしい。当然ながら引用されている文献や関連文献にもできるだけ目を通してから課題に挑戦してほしい。
レポート課題 1	<i>Comparative Literature: A Very Short Introduction</i> から三章を選んで内容を要約し、自分の意見を述べなさい（4500 字以上）。 留意点： つまりアカデミックな書評を書くというもので、当然ながら先行の書評が参考になるはずである。学術論文の体裁を守ること。三章といえども、もちろん全体を読んだうえで選ぶこと。
レポート課題 2	<i>Comparative Literature: A Very Short Introduction</i> での議論・アプローチを参考にして、自分で文学作品を一つ以上とりあげて論じなさい（6000 字以上）。 留意点： 扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： Alexander Beecroft 教材名： <i>An Ecology of World Literature</i> . Verso. 2015. ISBN-10: 1781685738
	著者はサウスカロライナ大学の准教授で、古代ギリシアと古代中国双方の専門家である。世界文学を「エコロジー（生態系）」の比喻で読み解こうとした最新の学術書。
参考図書	フランコ・モレッティ『遠読——＜世界文学システム＞への挑戦』（みすず書房、2016） ISBN-13: 978-4874246733 4,600 円＋税
履修上のポイント	世界文学を経済や歴史のシステムの観点から定義したフランコ・モレッティ『遠読』と教材を比べて読んでみる。ほかにも当然ながら引用されている文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦してほしい。
レポート課題 1	<i>An Ecology of World Literature</i> から三章を選んで内容を要約し、批判的に自分の意見を述べなさい（5000 字以上）。 留意点： つまりアカデミックな書評を書くというもので、当然ながら先行の書評が参考になるはずである。三章といえども、もちろん全体を読んだうえで選ぶこと。
レポート課題 2	<i>An Ecology of World Literature</i> での議論を参考にして、自分で文学作品を一つ以上とりあげて論じなさい（6000 字以上）。 留意点： 扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の Introduction の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 2 章～3 章の学修
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章の学修
第 5 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章の学修
第 6 回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第 7 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	リポート対象作品の選定と読解
第 11 回	リポート対象作品の先行研究のまとめ
第 12 回	リポート対象作品について教員とディスカッション
第 13 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の Introduction の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 2 章～3 章の学修
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 4 章～5 章の学修
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章の学修
第 6 回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第 7 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	リポート対象作品の選定と読解
第 11 回	リポート対象作品の先行研究のまとめ
第 12 回	リポート対象作品について教員とディスカッション
第 13 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

科目名	翻訳論特殊研究	担当者	アキクサ 秋 草 シュンイチロウ 俊 一 郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	文芸思想のひとつである翻訳研究を行う上で必要な知識をえるための文献を読む授業。前期は代表的な翻訳研究者ローレンス・ヴェヌティのモノグラフを、後期は、「新しい比較文学」を標榜する学術書を精読していく。Translation は翻訳について考える上で必要なトピックが一通り触れられており、参考になる。また、アプターの著作は概念モデルとしての「翻訳」が、さまざまな事象を考えるうえでどこまで有効なのか、手がかりになる。後期にかんしては受講者の関心、進捗状況に応じて柔軟に教材を選定することもある。 以上の書籍の通読、レポートの作成を通じて、専門的な英文読解能力、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力を身に付けることを目指す。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 英語の学術書を精読し、内容について批判的に議論できるようになること。 英語を含む参考文献・引用・注の体裁をととのえた学術論文の執筆形式に習熟すること。 【行動目標 (SBOs)】 英語の学術書を数か月で通読できる語学力の獲得。内容を適切に要約・説明しうる翻訳力の獲得。		
学修方略 (方法)	【学修方略 (LS) と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。そのうえで面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し、ディスカッション、課題レポートについての報告をおこなうことが推奨される。		
スケジュール	前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1) 初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1) 最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2) 初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2) 最終稿を提出。 後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1) 初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1) 最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2) 初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2) 最終稿を提出。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	前期はやや大変と思われるかもしれないが、英語で学術文献を精読できることは博士論文執筆の最低条件であるので、一年をかけて二冊の学術書を読むことで英語読解力を養成してほしい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： Lawrence Venuti, <i>The Translator's Invisibility: A History of Translation</i> , New 教材名： York: Routledge, 2008. ISBN-10: 0415394538
	総ページ数は 300 頁ほどの、翻訳研究にとって有意義なモノグラフ。実例も豊富で、テーマ別に議論されており、推奨できる内容である。
参考図書	マシュー・レイノルズ『翻訳——訳すことのストラテジー』秋草俊一郎訳、白水社、2019 年。2300 円＋税。ISBN-10: 4560096856 ローレンス・ヴェヌティ『翻訳のスキャンダル』秋草俊一郎・柳田麻里訳、フィルムアート社、2022 年。2,600＋税。ISBN 978-4-8459-2106-5.
履修上のポイント	当然ながら、引用されている文献、関連文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦すること。
レポート課題 1	課題図書から、任意の章を三つ、要約しなさい（各 1500 字、合計 4500 字以上）。 留意点： どの受講者がどの章を要約するかは、相談によって決定する。
レポート課題 2	課題図書での議論を参考にして、自分で文学作品・芸術作品（映像作品などふくむ）を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい（6000 字以上）。 留意点： 扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわない。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： Emily Apter, <i>Against World Literature: On the Politics of Untranslatability</i> , New 教材名： York: Verso, 2013. ISBN-10: 1844679705
	著者は「翻訳不可能性」をキーワードに、「世界文学」に対して批判的な態度をとっている。翻訳研究という立場からは、ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』のようなスタンダードな入門書とはかなり毛色が異なる内容である。
参考図書	エミリー・アプター『翻訳地帯——新しい人文学の批評パラダイムにむけて』慶應義塾大学出版会、2018 年。5500 円＋税。ISBN-10: 4766425189
履修上のポイント	当然ながら、引用されている文献、関連文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦すること。
レポート課題 1	課題図書の Part One の内容を要約しなさい（4000 字以上）。もちろん Part Two 以降も読むこと。 留意点： 受講者が複数いる場合、Part Three の要約を課すこともある。
レポート課題 2	課題図書の議論を参考にして、自分で文学作品・芸術作品（映像作品などふくむ）を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい（6000 字以上）。 留意点： 扱う作品は日本語含め、どんな作品でもかまわないが、前期とは異なるものを選ぶこと。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の Introduction
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 3 章～4 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～6 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章
第 6 回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポート対象作品の選定と読解
第 11 回	レポート対象作品の先行研究のまとめ
第 12 回	レポート対象作品について教員とディスカッション
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の Introduction
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の Part1
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の Part2
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の Part3
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の Part4
第 6 回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポート対象作品の選定と読解
第 11 回	レポート対象作品の先行研究のまとめ
第 12 回	レポート対象作品について教員とディスカッション
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本文化特殊研究	担当者	イノウエ ケン 井上 健	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	戦後日本文化における 1950 年代は、政治的には冷戦体制の国内化たる「五十五年体制」が成立し、社会・経済的には、大衆消費社会到来が高度経済成長期へと展開していく、まぎれもない過渡期であるとともに、戦後思想の出発点と称すべき 10 年間であった。本講義は、1950 年代の日本文化論の系譜をたどり、その再評価を通じて、戦後日本の基底構造にあらためて光を当てようとするものである。 丸山眞男、川島武宜、大塚久雄など戦後啓蒙の代表的担い手たちは、「西洋対日本」、「近代対前近代」という二項対立を自明の論理枠組として、到達目標としての「近代」を熱く語ることを共通の特性としていた。前期は、青木保『「日本文化論」の変容——戦後日本の文化的アイデンティティ』を基本教材として、ベネディクト『菊と刀』から、丸山、川島、大塚、加藤周一、竹内好を経て、『共同研究 転向』、橋川文三に至る、50 年代日本文化論、近代化論の系譜を、(1)戦前の思想との断絶と連続性、(2)そこにおいて、いかなる西欧がいかにモデル化されていたか、の 2 点に着目してたどる。後期は、柳父章『近代日本語の思想——翻訳文体成立事情』を参照しつつ、1950 年代日本の思想と文化と文学を、「日本文化論」と「翻訳」をキーワードとして再検証してみたい。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 資料や先行研究をしっかりと読み込み、対話し、批判的に検討し、弁証法的に総合する力を身に着ける。その結果を、一つの論として、体裁を整えつつ、まとめあげていく方法と技法に習熟する。 【行動目標 (SBOs)】 通時的視野と共時的問題意識とを有機的に結合していくことによって、思想や文化や文学を、学際的視野から柔軟にとらえていく視点と感受性、批判的思考力を獲得することを目指す。		
学修方略 (方法)	【学修方略 (LS) と学修時間】 取り上げる作品をきちんと精読してから、一次資料、二次資料の参照に進む。レポート作成にあたっては、「何を明らかにしたいのか」という命題から出発し、それに基づいた構成、章立てを考え、「何が明らかになったのか」が読む者に明確に伝わるように記述する。その間、履修者と科目担当者の間で、十分な質問やコメントのやり取りがあることが望ましい。 以下の学修時間を目安とする。学修時間は課題レポート 1 本あたりの目安時間。 教材の学習＝15 時間、レポート執筆＝15 時間 レポート推敲・取りまとめ＝15 時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を活用する。		
スケジュール	[教材 1] レポート課題(1)初稿提出締切＝6 月 15 日 レポート課題(1)最終稿提出締切＝7 月 15 日 レポート課題(2)初稿提出締切＝8 月 15 日 レポート課題(2)最終稿提出締切＝前期提出期限 [教材 2] レポート課題(1)初稿提出締切＝10 月 15 日 レポート課題(1)最終稿提出締切＝11 月 15 日 レポート課題(2)初稿提出締切＝12 月 15 日 レポート課題(2)最終稿提出締切＝後期提出期限		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	85 %	論文にふさわしい構成、記述になっているか、結論に一定程度、独自性があるか、を判断基準とする。
	観察記録	15 %	学習姿勢全般を評価の対象とする。
履修者への要望	レポート執筆は、学位取得論文の基礎工事部分にあたる。短いレポートがしっかりとまとめられなくては、学位論文執筆はとうてい覚束ない。まずは教材を、自分が主たる素材として取り上げようとする作品やテキストをしっかりと読解すること。その上で、課題、テーマを発見し、必要な調査をし、資料や先行研究と対話していく。manaba のコミュニティや掲示板など、学習ツールを積極的に活用することが望ましい。レポートの分量は特に指定しないが、4,000 字程度が一つの基準となる。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 青木保 教材名： 『「日本文化論」の変容——戦後日本の文化的アイデンティティ』(中公文庫、1999) ISBN: 978-4122033993 590 円＋税
	『「日本文化論」の変容——戦後日本の文化的アイデンティティ』は1990年刊行。ルース・ベネディクト『菊と刀』(1946)から説き起こして、戦後日本文化論の流れを、「否定的特殊性の認識」の時期(1945～54)から、「歴史的相対性の認識」(1955～63)、「肯定的特殊性の認識」(1964～83)へと続く、特殊性の認識から普遍性の認識に至る過程として取りまとめている。
参考図書	佐藤泉『一九五〇年代、批評の政治学』(中央公論新社、2018) ISBN: 978-4120050688 2000 円＋税 アンドルー・ゴードン編『歴史としての戦後日本(上)(下)』(みすず書房、2001) 上 ISBN: 978-4622036791 2900 円＋税 下 ISBN: 978-4622036807 2800 円＋税 加藤典洋『敗戦後論』(ちくま学芸文庫、2005) ISBN: 978-4480096821 1200 円＋税
履修上のポイント	基本教材は、時代区分を明確にして、日本文化をめぐる議論の推移の流れをコンパクトに整理したもの。受講者には、基本教材を参考にして、大塚久雄『近代化の人間的基础』、川島武宜『日本社会の家族的構成』、丸山眞男『現代政治の思想と行動』など、戦後日本文化論、近代化論の「古典」に自ら当たってみることが求められる。何を読むか、どんなバージョンが入手可能かについては、適宜、担当教員に相談して頂きたい。
レポート課題1	教材図書の第2～4章で言及されている、作家、思想家から一人を選んで、その代表的著作を読み、ポイントをまとめた上で、青木の提起する視座の有効性について論じなさい。 留意点 ：戦後思想の名著にいかなるものがあるのかについては、岩崎稔ほか編『戦後思想の名著50』(平凡社、2006)などが参考になる。
レポート課題2	1950年代(40年代末、60年代初を含めて考えてよい)に発表された日本文化論を2つ取り上げて、「否定的特殊性」「歴史的相対性」の視点から比較対照することによって、それぞれの有効性と固有性、および限界について論じなさい 留意点 ：1940年代の終わりに発表されたものから、1960年代初めの橋川文三あたりまでを対象に含めて差し支えない。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 柳父章 教材名： 『近代日本語の思想——翻訳文体成立事情』(法政大学出版局、2004) ISBN: 978-4588436178 2900 円＋税
	教材は、翻訳研究の泰斗の日本語論、日本語文体論、日本文化論を11編集めた論文集である。近代日本語における主語は翻訳文の影響で作られた、という持論を展開した、第1章「主語」は翻訳でつくられた、第2章「主語」はこうしてつくられた、第3章「小説における主語」が、ことに読みごたえがあるが、「文」概念の成立、文末語や「である」文の生成、漢字の造語力と漢字の意味の空無化、などを論じた他の章も、一読に十二分に値する。
参考図書	柳父章ほか編『日本の翻訳論——アンソロジーと解題』(法政大学出版局、2010) ISBN: 978-4588436161 3300 円＋税 安西徹雄『英文翻訳術』(ちくま学芸文庫、1995) ISBN: 978-4480081971 880 円＋税
履修上のポイント	基本教材は、翻訳論であり日本語論であり、また日本文化論でもある。柳父の基本的立場は、思い切って簡明にまとめれば、(1)AをBに翻訳すると、AでもBでもない、Cができあがる、(2)翻訳語はその中身が問われないことによって、かえって価値を持つ、(3)日本語文体はまさに翻訳で作られた、の3点となる。このことを念頭に置いて、基本教材を読み進めて頂きたい。
レポート課題1	柳父章の著書から2～3章を選んで、その内容を要約し、その日本語論、日本語文体論としての妥当性・有効性について、翻訳作品(可能であれば、1950年代に翻訳されたものが望ましい)から実例を引いて論じなさい。 留意点 ：1950年代は戦争・占領を経て、翻訳文学の出版が活況を呈した時期であった。カミュ、カフカ、サルトル、フォークナー、メイラーなど。
レポート課題2	柳父章の書の第9章「A+B→Cの文化論」を、前期に学習した「1950年代日本文化論」の系譜に照らしつつ、その射程の幅と有効性について論じなさい。 留意点 ：加藤周一「日本文化の雑種性」(1955)は、重要な参照軸の一つとなる。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材の概略についての説明
第 2 回	教材の学修：1～2 章
第 3 回	教材の学修：3～4 章
第 4 回	教材の学修：5～6 章
第 5 回	教材の学修：7 章
第 6 回	教材の学修：基本教材についての質疑とディスカッション
第 7 回	先行研究紹介
第 8 回	レポートの題材についての相談
第 9 回	レポートの構成、書き方について
第 10 回	レポート課題 1：初稿作成
第 11 回	レポート課題 1：添削指導
第 12 回	レポート課題 1：最終稿作成
第 13 回	レポート課題 2：初稿作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導
第 15 回	レポート課題 2：最終稿作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材の概略についての説明
第 2 回	教材の学修：1～2 章
第 3 回	教材の学修：3～4 章
第 4 回	教材の学修：5～6 章
第 5 回	教材の学修：7～8 章
第 6 回	教材の学修：9～11 章
第 7 回	教材の学修：基本教材についての質疑、ディスカッション
第 8 回	レポートで実例として取り上げる翻訳作品をめぐって
第 9 回	レポートのテーマと素材をめぐって
第 10 回	レポート課題 1：初稿作成
第 11 回	レポート課題 1：添削指導
第 12 回	レポート課題 1：最終稿作成
第 13 回	レポート課題 2：初稿作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導
第 15 回	レポート課題 2：最終稿作成

科目名	アジア文化特殊研究 (旧カリ: 東アジア文化特殊研究)	担当者	シミズ 清水 トオル 享	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------------	-----	--------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	中国における文化人類学と歴史学の研究史について学ぶ。中国の文化人類学研究は漢族および「少数民族」についてその文化や社会を多角的に研究してきた。こうした中国の文化人類学研究のその蓄積と特徴について総合的に考察する。さらに長い歴史を持つとされる中国についての歴史学的な視点を振り返り、それを整理し、把握する。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 中国における文化人類学および歴史学の研究史を把握する。中国の文化、社会、歴史のさまざまな研究の蓄積とその展開について把握・理解する。 【行動目標 (SB0s)】“知識・解釈” 本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。		
学修方略 (方法)	【学修方略 (LS) と学修時間】 テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート 1 本につき教材学修に 15 時間、レポート執筆に 15 時間、教員の添削指導を含めたりレポート添削に 15 時間をかけることを目安とする。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング→図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。		
スケジュール	前期は基本教材 1 のレポート課題 2 編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 後期は基本教材 2 のレポート課題 2 編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の 2 週間前までに提出のこと。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。
	観察記録	20%	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。
履修者への要望	履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして博士論文作成に取り組めるようにしてほしい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 瀬川昌久、西沢晴彦編訳 教材名： 『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006 年） ISBN4-89489-041-0 3,000 円＋税
	本教材は中国における文化人類学研究で重要であると考えられている論考をまとめたものである。ラドクリフ＝ブラウン、レイモンド・ファース、費孝通、マリノフスキー、フリードマン、スキナー、林耀華、エブリー、ワトソン、陳其南、ウォード、ハレルといった錚々とした先達の論考が掲載されている。
参考図書	末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995 年）ISBN978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族―ファースト・ピープルズの現在 01 東アジア』（明石書店、2005 年）ISBN4-7503-2031-5 西澤治彦・河合洋尚編『フィールドワーク 中国という現場、人類学という実践』（風響社、2017 年）ISBN978-4-89489-242-2
履修上のポイント	全体を精読し、さらに各論考を通読すること。中国における文化人類学の研究の動向や問題点を全体的に把握し、漢民族研究、「少数民族」研究などの研究史を考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題 1	漢民族についての文化人類学研究史 留意点： 中国における漢民族研究がどのように進められたか、その全体を振り返る。
レポート課題 2	「少数民族」についての文化人類学研究史 留意点： 中国における「少数民族」研究がどのように進められたか、その全体を振り返る。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 吉澤誠一郎監修、石川博樹[ほか]編著 教材名： 『論点・東洋史学』（ミネルヴァ書房、2022 年） ISBN978-4-623-09217-8 3,600 円＋税
	本教材はアジアの歴史研究の概要について広くまとめ、その論点を指摘したものである。
参考図書	礪波 護、岸本美緒、杉山正明編『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会、2006 年） ISBN978-4-8158-0527-2 年一回発行される「〇〇年の歴史学界 回顧と展望」『史学雑誌』史学会
履修上のポイント	全体を通読し、アジア史における中国歴史研究の概要を知り、その上で履修者自身の関心がある箇所、あるいは履修者自身の研究に関わる部分を精読すること。そしてできるだけ多くの参考文献を参照しつつ、履修者自身の関心がある部分、あるいは履修者自身の研究に関わるものをテーマとして設定し、その研究史をまとめること。基本教材は広くアジア史全体を概観しているが、レポートのテーマは中国史あるいは他の東アジア史および東南アジア史あるいは中央アジア史に限定する。
レポート課題 1	アジア史研究の動向と課題について(その 1) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。
レポート課題 2	アジア史研究の動向と課題について(その 2) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題 1 とは別にテーマを設定すること。

基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(序論を読み込む)
第 3 回	教材の学修(Ⅰ～Ⅱのうち、漢民族に関する部分を読み込む)
第 4 回	教材の学修(Ⅲ～Ⅳのうち、漢民族に関する部分を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(序論を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(Ⅰ～Ⅱのうち、少数民族に関する部分を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(Ⅲ～Ⅳのうち、少数民族に関する部分を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(はじめに、序説、Ⅰを読み込む)
第 3 回	教材の学修(Ⅱ～Ⅲを読み込む)
第 4 回	教材の学修(Ⅳ～Ⅴを読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(はじめに、序説、Ⅰを再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(Ⅱ～Ⅲを再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(Ⅳ～Ⅴおよび第Ⅱ部を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

科目名	言語教育学特殊研究	担当者	ホサカ トシコ 保坂 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	グローバル化が進展し、世界的な人の移動が盛んになった現在、言語教育のあり方が問い直されている。本講義ではグローバル時代の言語教育の在り方をクリティカルな視点から検討する姿勢と、文化観や価値観の異なる相手と共生するための言語教育について提案できる能力の涵養を目的とする。具体的には、日本の英語教育に対するクリティカルな論考と日本語教育に対するクリティカルなアプローチ、さらには、ヨーロッパの言語教育が目指す方向性に触れることで、現在の言語教育に関する問題意識を深め、自分自身のフィールドの問題点を見出し、授業計画が立案できるようになることを目的とする。 以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 グローバルな視座に立った言語教育やその研究に必要な専門性（知識・技能・態度）を修得する。 【行動目標（SB0s）】 ・グローバル化社会の教育に対するクリティカルな視座を理解する。 ・ヨーロッパで提唱されている市民性形成のための相互文化的能力を育む言語教育という視座を理解する。 ・それらの視座について、クリティカルに論考する。 ・自分自身の言語教育の現場について、クリティカルに検討し、改善点を考察する。 ・自分自身の教育現場に配慮して、目指すべき言語教育の方向と具体的なカリキュラム（案）・コース（案）を作成する		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）教材の熟読：15 時間 （自習研究）参考文献の検索と熟読：10 時間 （レポート作成）レポート作成・レポート推敲：15 時間 （ディベート）掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動）：5 時間 ★学修時間は課題レポート 1 本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を行う。 ・manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等） ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題 1 締切：6 月 15 日（初稿） 前期締切日（最終稿） ・レポート課題 2 締切：8 月 15 日（初稿） 前期締切日（最終稿） <後期> ・レポート課題 1 締切：10 月 15 日（初稿）後期締切日（最終稿） ・レポート課題 2 締切：12 月 15 日（初稿）後期締切日（最終稿）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、内容の妥当性・独創性、構成・文章表現の妥当性、引用文献の適切性等 ★前期レポート課題 1、2 と後期レポート課題 1 は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 ・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数（参考文献、注を除いたもの）を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 久保田竜子（著） 教材名： 『グローバル化社会と言語教育 クリティカルな視点から』 （くろしお出版，2015） ISBN:978-4874246689 2,600 円+税 本書は，多様性社会における日本の英語教育をめぐる問題と現在の日本語・日本文化教育の問題について，クリティカルな視点から分析して論じるだけでなく，言語教育の方向性についても具体的に提言を行っている。筆者は，日本の英語教育と北米の日本語教育に関わってきた北米在住の応用言語学の専門家で，英語の論文を日本語に訳したものである。複数の教育環境で，複数の言語を教えてきた知見であり，語種に関わらず，グローバル時代の言語教育を再検討する刺激となる。
参考図書	佐藤慎司・高見智子・神吉宇一・熊谷由理 編『未来を創ることばの教育をめざして 内容重視の批判的言語教育（Critical Content-Based Instruction）の理論と実践』（ココ出版，2015）ISBN 978-4-904595-69-5 3,600 円+税
履修上のポイント	多様性社会における言語教育の問題について，英語教育，あるいは，日本語教育など一つの言語の問題としてではなく，多様な言語を視野に入れた，幅広い視点から検討すること。自分が従事する言語の教育と他の言語の問題と比較しながら，視野を広げた上で，自分のフィールドの問題についての論考を深めていただきたい。また，基本教材 1 で採り上げた問題以外についても理解を深めるため，参考図書にも触れていただきたい。
レポート課題 1	基本教材 1 の中で著者が指摘した日本の英語教育や現在の日本語・日本文化教育の問題点の中から 3 つ取り上げ，それぞれ筆者の主張をまとめて，それに対する自分の考えを論じること。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 筆者のクリティカルな論考について，クリティカルに論じること。
レポート課題 2	基本教材 1 を参考に，自分が携わる言語教育のフィールド，あるいは，自分か今まで受けてきた言語教育の問題などを取り上げ，クリティカルな視点から論じること。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 基本教材の章のタイトルを参考に，問題とするテーマを絞って，論を展開すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： マイケル・バイラム（著） 細川英雄（監修） 山田悦子・古村由美子（訳） 教材名： 『相互文化的能力を育む外国語教育—グローバル時代の市民性形成をめざして—』 （大修館書店，2015） ISBN: 978-4469245967 2,800 円+税 本書は，CEFR に代表されるヨーロッパの言語教育政策を牽引してきた重鎮バイラムが 2008 年に発表した <i>From Foreign Language Education to Intercultural Citizenship: Essays and Reflections</i> の全訳である。言語教育が，文化を含め市民性の形成，社会参加などの広い枠組みでとらえなおす必要性を主張するものである。言語教育の政治性についても明快に示している。
参考図書	・細川英雄・尾辻恵美・マルチェッラ・マリオッティ（編集）『市民性形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を超えて』（くろしお出版，2016） ISBN: 978-4874247051 2,800 円+税
履修上のポイント	筆者の「外国語教育はスキルの伝授で終わってはならない」という主張の理由や背景を，参考図書も参照しながら考えること。
レポート課題 1	基本教材 2 でバイラムが主張する「相互文化的市民性」教育の概要と意義について整理したうえで，2 章，3 章で指摘されている日本の英語教育の問題について自分の考えを論じなさい。（3,000 字～4,000 字） 留意点：「相互文化的市民性」の育成を主張する背景など，誕生の背景や目的，具体的な方法など，要点をわかりやすくまとめること。
レポート課題 2	基本教材 2 の論考を基に，「相互文化的市民性」のという観点から，自分が実践している言語教育のコースなど具体的な事例を振り返り，自分の考えを論じなさい。（3,000 字～4,000 字） 留意点：基本教材 2 の示す「相互文化的市民性」の枠組に照らすこと。「相互文化的市民性」そのものについても，クリティカルな視点を持つこと。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～6 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章～8 章
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成①
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成②
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～8 章の振り返り
第 11 回	レポート課題 2：初稿の作成①
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成②
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章
第 6 回	教材の学修：基本教材 2 の 11 章～12 章
第 7 回	教材の学修：基本教材 2 の 13 章～14 章
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語学特殊研究	担当者	カワシマ マサシ 川 嶋 正士	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	大学院博士後期課程における言語学の専門的な研究を行います。 本講座では、英文法の包括的な専門書を共通の基底として、言語理論について、経験科学の範疇において、様々な側面から考察することを目的としています。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 言語理論の方法論を、英語の言語事実の研究を通じ、実践的に学修することを目標とする。 【行動目標（SB0s）】 ・英語の語法・意味について専門的知識を深める。 ・文を単位とした普遍的な言語理論に通底する統語的分析方法について理解できる。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 教材と関連文献の学修（15 時間） レポート課題初稿作成（15 時間） レポート課題最終稿の完成（15 時間）指導教員の添削や討論を含む ＊学修時間はレポート課題 1 件あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を通じて、レポート課題提出の討論などの協働学習を行う。 ・manaba folio を通じて教員とインタラクティブな学習を行う。 ・manabfolio の観察記録に基づき自身の学修を振り返る。 ・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。		
スケジュール	＜前期＞ ・ レポート課題 1 締切 6 月末（初稿）（最終稿提出期限 学事暦で定められた日） ・ レポート課題 2 締切 8 月末（初稿）（最終稿提出期限 学事暦で定められた日） ＜後期＞ ・ レポート課題 1 締切 11 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限 学事暦で定められた日） ・ レポート課題 2 締切 12 月末（初稿）（最終稿提出期限 学事暦で定められた日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式（構成、スタイルの一貫性、引用の仕方、表現の簡素さと適切さ）、 内容（論旨展開と結論の提示の明快さ、先行研究の参照度と独創性、 課題把握の適切性） ＊後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 ＊その他のレポートは、最終稿で評価する。
	観察記録	20 %	討論への貢献、指導教員の添削への対応など
履修者への要望	・ 指導教員のコメントや討論のフィードバックを反映し、レポートを完成させてください。 ・ 先行研究や引用と新規な知見は明確に区別してください。 ・ 書式は、APA もしくは MLA の最新のマニュアルに準じてください。 ・ 受講生間で積極的に情報交換や議論を行ってください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： Randolph Quark, Sidney Greenbaum, Geofferey Leech and Jan Svartvik 著 教材名： <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback : 1985 年刊行のハードカバー版をお持ちの方は、再購入には及びません) 使用教材は、英国で発展した伝統文法に立脚し、様々な言語理論の知見を取り入れ英文法の体系を包括的に記述した研究書です。現代英語の文法に関する専門的な知識が網羅されている良書です。指定された範囲以外も、興味を持った領域は、自主的に研究してください。
参考図書	Rondley Huddleston and Geofferey K. Pullum 著 <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> Cambridge University Press
履修上のポイント	教材の第 1, 2 章は、言語研究における文法の根本に関することなので、十分理解し、研究してください。
レポート課題 1	第 1 章の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（伝統文法や経験科学に基づく言語理論との対比を行ってください）。 留意点 ：英文法を通じ、言語学における文法を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせて考察してください。
レポート課題 2	第 2 章の概要をまとめ、研究対象とする項目について理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000 字～4,000 字） 留意点 ：少なくとも先行研究 1 点との対比を含めます。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： Randolph Quark, Sidney Greenbaum, Geofferey Leech and Jan Svartvik 著 教材名： <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback : 1985 年刊行のハードカバー版をお持ちの方は、再購入には及びません) 使用教材は、英国で発展した伝統文法に立脚し、様々な言語理論の知見を取り入れ英文法の体系を包括的に記述した研究書です。現代英語の文法に関する専門的な知識が網羅されている良書です。指定された範囲以外も、興味を持った領域は、自主的に研究してください。
参考図書	Rondley Huddleston and Geofferey K. Pullum 著 <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> Cambridge University Press
履修上のポイント	教材の第 10 章は、文構造の根本に関することなので、十分理解し、研究してください。
レポート課題 1	第 10 章（10. 1-10. 33）の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（伝統文法や経験科学に基づく言語理論との対比を行ってください）。 留意点 ：英文法を通じ、言語学における文法を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせて考察してください。
レポート課題 2	第 10 章（10. 34-10. 70）の概要をまとめ、研究対象とする項目について理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000 字～4,000 字） 留意点 ：少なくとも先行研究 1 点との対比を含めます。

基本教材 1

第 1 回	教材の第 1 章（1.1-1.18）を読み，言語研究と文法について考える
第 2 回	教材の第 1 章（1.19-1.42）を読み，英語の特色や変異について考える
第 3 回	教材の第 1 章を振り返り，リポート課題 1 の構想を練る
第 4 回	教材の第 1 章のうち，問題意識を持った個所を研究し，リポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	リポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	リポート課題 1 の初稿を推敲し，提出する
第 7 回	教材の第 2 章（2.1-2.24）を読み，文の要素と節構造について考える
第 8 回	教材の第 2 章（2.25-2.62）を読み，句，語類，文の基本様式について考える
第 9 回	リポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 2 章を振り返り，リポート 2 の構想を練る
第 11 回	教材の第 2 章のうち，問題意識を持った個所を研究し，リポート課題 2 について下書きする
第 12 回	リポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	リポート課題 2 の初稿を推敲し，提出する
第 14 回	第 1 章から第 2 章でリポート課題 1 と 2 について参照し，考察した個所を振り返る
第 15 回	リポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し，提出する

基本教材 2

第 1 回	教材の第 10 章（10.1-10.17）を読み，節とその機能について考える
第 2 回	教材の第 10 章（10.18-10.33）を読み，節の意味役割について考える
第 3 回	教材の第 10 章（10.1-10.33）を振り返り，問題意識を持った個所を研究する
第 4 回	教材の第 10 章（10.1-10.33）を範囲とし，リポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	リポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	リポート課題 1 の初稿を推敲し，提出する
第 7 回	教材の第 10 章（10.34-10.45）を読み，主語と動詞の一致について考える
第 8 回	教材の第 10 章（10.46-10.53）を読み，一致全般や意味制限について考える
第 9 回	リポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 10 章（10.54-10.70）を読み，各動詞の特徴について考える
第 11 回	教材の第 10 章（10.34-10.70）のうち，問題意識を持った個所を研究し，リポート課題 2 の下書きをする
第 12 回	リポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	リポート課題 2 の初稿を推敲し，提出する
第 14 回	第 10 章でリポート課題 1 と 2 について参照し，考察した個所を振り返る
第 15 回	リポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し，提出する

科目名	異文化間コミュニケーション論 特殊研究	担当者	ニシダ 西田 ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	------------------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	アメリカのコミュニケーション研究における理論研究と特定テーマ研究には、特に、日本におけるコミュニケーション研究に影響を与えるといえる。つまり、価値観と文化心理に関するコミュニケーション研究は、異文化間コミュニケーション研究の特定テーマ研究の1つであり、50数年に及ぶ研究の蓄積がある。 本講座の目的は、この蓄積された研究について学ぶことである。 この目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく、高い倫理観を習得するとともに、倫理的及び批評的な思考能力を始め、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 異文化間コミュニケーション研究における特定テーマの研究について学び、グローバル社会において文化背景の異なる人々と共生する際に必要なコミュニケーションの知識と能力に関する高度な研究の知識・解釈を深める。 【行動目標（SB0s）】 学修者は、教材及び関連する専門書を批判的に読み、特定テーマに関する40年来の研究結果を列挙し、関連付け、理解する。 研究手法と研究テーマについて、幅広い範囲の理解を深める。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 教材の熟読、OERによる自律的学修、参考論文の検索と批評的熟読、レポートの作成を実行して下さい。 学修時間については、各レポート課題の準備から完成までに、次の目安に45時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15時間、レポートの執筆：15時間、レポートの推敲最終稿の完成：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の共同学習をしてください。 ・図書館で、あるいはインターネットから、関連する図書や論文を検索・入手し、批判的に読み、レポートを作成して下さい。		
スケジュール	前期レポート課題1 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 後期レポート課題1 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	要約の正確さ、要約の構成、文章表現の妥当性、考察の独創性 引用の適切性、論旨の明確さ、注のつけ方の適切さ
	観察記録	20%	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応
履修者への要望	・要約問題については、課題の章を熟読し、定めた文字数に、バランスよくまとめて下さい。一度要約した文字数が求められている文字数よりもはるかに多くなった場合、教科書をもう一度読むのではなく、今度は自分の作った要約から、更に要約し、文字数を調整して下さい。 ・考察では、次の2点が重要になります。 1) 要約した章に用いられている専門用語を用いて、考察を展開する。 2) テーマに関する知識と経験を基に考察する。経験が無い場合、経験するとしたら、どうするかなど、考察する。 ・教科書・推薦書以外の文献からの引用することも勧めます。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： マツモト, D 教材名： 『文化と心理学：比較文化心理学』（北大路書房，2001 年） ISBN:4-7628-2220-5 2,500 円＋税
	本書は、文化と自己、感情という構成と、文化と言語、コミュニケーションという構成でもって、本書のテーマである心理とコミュニケーションについて論じています。 心理学の研究に、文化的要因を認める必要性が強調されているところから、異文化コミュニケーションの領域でもよく読まれている図書です。
参考図書	Matsumoto, D. Culture and Psychology: People around the World. Wadsworth, 2000. ISBN:0-534-35436-X 北山忍『自己と感情』（共立出版，2003 年） ISBN:4-320-02859-7 2,600 円＋税
履修上のポイント	教科書(マツモト，2001)は、参考図書であげた(Matsumoto，2000)の翻訳書です。 原書の大半が翻訳されています。50 年にわたる研究・調査に関する図書なので、類書は無く、本書を批判的に読み、この領域を理解して下さい。 心理と文化について日本語で書かれた書物は、北山(2003 年)を紹介しておきます。
レポート課題 1	要約：教科書の第 1 章～第 4 章の中から、3 つの章を選び、3,000 字で要約する。 考察：選択した章の中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約に用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：教科書の第 5 章～第 7 章を 3,000 字で要約する。 考察：3 つの章の中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約に用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 山口 勸 教材名： 『社会心理学』（東京大学出版会，2003 年） ISBN：4-13-012037-9
	アジアの観点からの社会心理学の専門書です。 「アメリカで提示された理論は、どの文化でも当てはまる」という前提にすることがあります。本書は「社会心理学で扱う社会的要因は文化と密接に関連している」という観点から、その前提を検証するユニークな 1 冊です。
参考図書	トリアンディス, H. C. 『個人主義と集団主義』（北大路書房，2003 年） ISBN:4-7628-2241-8 3,600 円＋税
履修上のポイント	個人主義と集団主義の見方は、トリアンディスを始め、グディカンスト, W. B. 山口と用いられてきた観点です。集団主義の見方については、構築の際の二元論の見方の問題があり、この講座では、個人主義について学ぶ機会にして下さい。 「甘え」「面子」といったアジアの文化・心理価値についても学ぶ機会にして下さい。
レポート課題 1	要約：教科書第 1 章～第 3 章を、3,000 字で要約する。 考察：要約の中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約に用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：教科書の第 11 章、第 13 章、第 14 章を、3,000 字で要約する。 考察：要約の中から 1 つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000 字で考察する。 留意点： 考察では、要約に用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6 章
第 12 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3 章
第 4 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 1 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 3 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 4 章
第 12 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	コヤナギ 小柳 かおる	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	第二言語習得は、日本語教育をはじめとする外国語教育に関わる研究者や教員にとって非常に重要な分野である。本講義では特に教室指導による第二言語習得（Instructed Second Language Acquisition: ISLA）という教室学習者を念頭に置いた分野の基本的な理論の枠組みや、教室指導のタイプや学習者要因（言語適性や動機づけ）が習得に及ぼす影響について調べた先行研究にあたり、研究動向を広く学ぶ。そして、それらを基に、自分の分野に理論を応用できる能力を養うことを目的とする。また、ISLA の研究を行うための分析方法を学び、自身の研究に応用できる能力を身につける。 以上の目的を達成することにより、言語教育における問題点の把握と解決策を提案する能力、論理的に考察する能力、新しい課題に挑戦する能力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 第二言語習得に関する理論を理解し、研究に応用できる能力を身につける。 習得研究に必要な研究・分析方法を理解し、応用できる能力を身につける。 【行動目標（SB）】 ・第二言語習得の基本的な理論と最新の研究動向を説明できる。 ・第二言語習得の理論を自分の研究に応用できる。 ・先行研究における未解決の問題を見つけ、新たな研究課題を導き出すことができる。 ・研究目的に沿った適切な研究方法を選択することができる。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）教材と関連文献を熟読する。15 時間 （自主研究）レポート課題のため、先行研究を検討する。10 時間 （レポート作成）レポートを執筆する。10 時間 （ディベート）他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5 時間 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5 時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio 上で、レポートのピア・リスpons等、受講者同士の協働学習を行う。 ・manaba folio を通じて、教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学習を振り返る。 ・図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。		
スケジュール	<前期> ・レポート課題1 締切：6月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） ・レポート課題2 締切：8月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） <後期> ・レポート課題1 締切：10月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） ・レポート課題2 締切：12月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式（構成、引用のし方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性）
	観察記録	20 %	ピア・リスponsへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	・教師によるフィードバック、必要に応じピア・リスponsを元にレポートを完成させることが求められる。 ・無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 小柳かおる・峯布由紀 教材名： 『認知的アプローチから見た第二言語習得』（くろしお出版，2016） ISBN： 978-4-87424-683-2 3,700 円＋税
	教室指導による第二言語習得（Instructed Second Language Acquisition：ISLA）の中心的理論である認知的アプローチによる研究動向をまとめたものである。海外で行われた日本語以外の言語の研究成果も含まれており、この分野の最新の知識を得ることができる。
参考図書	小柳かおる『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』（くろしお出版，2020） ISBN： 978-4-87424-831-7 1,800 円＋税 小柳かおる『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2021） ISBN： 978-4-88319-883-2 1,600 円＋税
履修上のポイント	この分野の研究は海外では盛んだが、残念ながら日本語教育においては、あまり研究されていない。基本教材の中に紹介されているオリジナルの論文や、もっと最新の研究論文（多くは英語）も読んでほしい。また、ISLA の研究が教育現場とどうつながるのかを考える上で『第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと』は役に立つ。また、より広く第一言語習得、第二言語習得を概観するには『日本語教師のための新しい言語習得概論』を読むとよい。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、ISLA に関する理解を深める。
レポート課題 1	基本教材の第 4 章で紹介されているような教育的介入（例 リキャスト、強要アウトプット）について一つ取り上げ、なぜそのような介入が習得に重要だと思うか、また、そのような教育的介入を今後も研究課題として追求する意義について、自身の考えや展望を述べる。（3000 字～4000 字） 留意点： 専門が日本語教育でない場合は、他の言語についてでもかまわない。
レポート課題 2	基本教材 1 の内容を参考に、テーマを選び、先行研究の問題の所在を明らかにして、自身の研究課題（research questions）を導き出す。（3000 字～4000 字） 留意点： 教育的介入のテクニックを選択し、研究の背景や先行研究の論点を論じること。必要であれば、実験の対象者、教育的介入の対象となる言語形式について論じてよい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 小柳かおる・向山陽子 教材名： 『第二言語習得の普遍性と個別性』（くろしお出版，2018） ISBN： 978-4-87424-762-4 3,500 円＋税
	第二言語習得には普遍の学習メカニズムが存在するが、一方で、学習者の言語能力の到達度には個人差が大きい。それは、学習に持ち込まれる学習者の特性（認知能力や学習意欲など）が異なるからだと考えられる。本書では、習得への影響が最も大きいとされる言語適性と動機づけの研究が紹介されている。また、習得分野の研究者が提唱するタスクベースの教授法及びタスクに関わる習得研究についても学ぶことができる。
参考図書	小柳かおる『改訂版 日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2021） ISBN： 978-4-88319-883-2 1,600 円＋税 島田めぐみ・野口裕之『日本語教育のためののはじめての統計分析』（ひつじ書房，2017） ISBN： 978-4-89476-862-8 1,600 円＋税
履修上のポイント	前期で学んだことに加え、個人差の問題や教育現場との接点になる教授法との関連を扱い、ISLA についてさらなる理解を深めることを目指している。できれば英語で書かれた国際学術誌の論文を読み、最先端の研究にも触れてほしい。参考図書の『日本語教育のためののはじめての統計分析』は量的研究の分析方法を紹介しているので、論文を読みながら参照してほしい。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、ISLA に関する理解を深める。
レポート課題 1	基本教材の第 1 章から第 3 章、さらに中でも特に興味を持ったテーマについて関連する論文を読み、認知的な学習メカニズムや言語適性としての認知的な基本的能力について、考えたことをまとめる。（3000 字～4000 字） 留意点： 専門が日本語教育でない場合は、他の言語についてでもかまわない。
レポート課題 2	ISLA の分野で関心のあるテーマを取り上げ、実験計画を立案する。研究の背景、研究課題（仮説）、参加者、研究方法などをまとめること。（3000 字～4000 字） 留意点： ISLA の分野であれば、前期に扱った授業内容（教育的介入の効果）からテーマを選択してもかまわない。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章, 第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章
第 3 回	関連論文の熟読
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 10 回	関連論文の熟読
第 11 回	問題の所在の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材の第 1 章, 第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材の第 3 章
第 3 回	関連論文の熟読
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 10 回	研究計画の立案
第 11 回	研究計画の立案
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語教育方法論特殊研究 令和4年度以前入学生は履修できません。	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	------------------------------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	2016年から2018年の間に発行された『日本語教育』に掲載された論文のうち約4割において統計手法が用いられている。自分自身の研究で統計手法を用いなくても、統計手法が用いられた先行研究を理解するために統計手法の知識は重要である。一方、SCATやM-GTAなどの質的分析法を用いた研究も盛んに行われており、これらの手法に関する知識も求められる。そこで、本科目では、言語教育学における方法論を学ぶ。前期は、統計手法について学び、さらに、実際のデータを用いて分析を行い、報告文書を書く。後期は、質的研究について学んだのち、統計手法あるいは質的分析の手法を用いた研究をデザインすることを学ぶ。 以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 言語教育学の方法論の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し、応用する力を修得する。 【行動目標（SBOs）】 - 基本的な統計手法および質的分析について説明することができる。 - 統計手法・質的分析手法を用いた研究事例を正しい理解に基づいて説明することができる。 - データを分析し、結果を正しく解釈し、報告文書を作成することができる。 - 目的に即した分析手法を選択し、その手法を用いた研究をデザインすることができる。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）動画教材を視聴し、教材と関連文献を熟読する。15時間 （自主研究）課題に関し、事例研究を実施する。10時間 （レポート作成）レポートを執筆する。10時間 （ディベート）他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - manaba folio上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 - manaba folioを通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folioを利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 - 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。		
スケジュール	<前期> - レポート課題1 締切：6月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） - レポート課題2 締切：8月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） <後期> - レポート課題1 締切：10月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日） - レポート課題2 締切：12月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	受講者に配布する評価ルーブリックに基づく。評価ルーブリックでは、レポートごとに、「考え」「つながり」「応用」の段階を設けている。また、いずれのレポートについても、論旨の明快さ、課題把握の適切性も評価の観点に加える。 ＊後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。 ＊その他のレポートは、最終稿にて評価する。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	- 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 - 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 島田めぐみ・野口裕之 教材名： 『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-89476-862-8 1,600 円+税
	日本語教育専攻の大学院生を主な対象者として書かれた統計分析の入門書である。日本語教育分野における研究例を取り上げているが、日本語教育分野に限定した内容ではない。数式を使わずに説明しているため、統計初心者にとっても理解しやすい。
参考図書	中野博幸・田中敏『フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析』（技術評論社） ISBN: 978-4-7741-5019-2 1,880 円+税 島田めぐみ・野口裕之『統計で転ばぬ先の杖』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400 円+税
履修上のポイント	・統計に馴染みのない履修者にとって書籍だけで学ぶのは難しいかもしれない。そのため、基本教材の内容を講義する動画教材数本を提供するので、必要に応じ視聴をすることを勧める。 ・レポート2では、無料で提供されている統計ソフト js-STAR を用いて、実際に計算した上で、適切に報告文書を作成する。js-STAR の使い方、結果の解釈の仕方について、動画教材を提供するので、必ず視聴してから課題に取り組んでほしい。 ・動画教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folio を通して知らせる。 ・ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をとも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題1	統計分析（相関分析以外）が用いられた研究論文を2編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。2編は、同じ手法を用いているもの、あるいは異なる手法だが同じテーマのもの、など何らかの共通項があるものを選ぶこと。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文の URL あるいは PDF ファイルも提出すること。
レポート課題2	相関分析、 t 検定、カイ二乗検定それぞれについて、統計ソフト（js-STAR）で計算し、その報告文書を書く。相関分析、 t 検定、カイ二乗検定それぞれのデータは与えられたものを用いる。 留意点： 計算に用いるデータは、manaba folio を通して提示する。また、文字数の制限は設定しないので、適切な情報量を判断すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 八木真奈美・中山亜紀子・中井好男 教材名： 『質的言語教育研究を考えよう』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-8234-1042-0 2,200 円+税
	言語教育における質的研究の手法に関する書籍である。ナラティブ・インクワイアリ、エスノグラフィ、ライフストーリー、M-GTA、ケーススタディーの5つの方法論の研究例を紹介されている。実際に筆者の経験に基づき、具体的なプロセスが示されている。
参考図書	大谷尚『質的研究の考え方—研究方法論から SCAT による分析まで』（名古屋大学出版会） ISBN: 978-4-8158-0944-7 3,500 円+税 木下康仁『定本 M-GTA—実践の理論化をめざす質的研究方法論』（医学書院） ISBN: 978-4-260-04284-0 3,200 円+税 佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践—』（新曜社） ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400 円+税
履修上のポイント	質的研究にはさまざまな方法がある。実際にその手法を用いるためには、まずは、提唱者による文献を読むことが必要である。参考図書に一部あげると、SCAT については『質的研究の考え方—研究方法論から SCAT による分析まで』、M-GTA については『定本 M-GTA—実践の理論化をめざす質的研究方法論』を読んでほしい。
レポート課題1	質的分析の手法を用いた研究論文を1編あるいは2編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文の URL あるいは PDF ファイルも提出すること。
レポート課題2	自分の興味のあるテーマを設定し、研究目的、データ収集の方法、分析の方法を含めた実験計画を立てる。統計分析を用いたものでも質的分析を用いたものでも構わない。（3,000 字～4,000 字） 留意点： 言語教育学あるいは言語学に関するテーマとすること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章～第 3 章，動画教材の視聴
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章，動画教材の視聴
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章，動画教材の視聴
第 4 回	論文の講読
第 5 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	リポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	動画教材の視聴
第 10 回	動画教材の視聴
第 11 回	データの計算
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 4 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5 章～第 7 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 8 章～補章
第 4 回	論文の講読
第 5 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	リポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	実験計画の検討
第 10 回	実験計画の検討
第 11 回	実験計画の検討
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	リポート課題 2：最終稿の作成

科目名	英語圏文化特殊研究 令和5年度入学生は履修できません。	担当者	オザワ 小澤 エイミ 英実	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	文学批評理論の体系を学び、みずからの作品研究の手法に実践的に採り入れるための授業。前期は、イギリスのゴシック文学の祖とされるメアリー・シェリー『フランケンシュタイン』をさまざまな批評理論から読み解くことで諸理論を体系的に概説した教材1を用い、一つのテキストがいかに多様な解釈に開かれているかを理解し、研究手法によって古典作品が新たな様相をとりうることを学ぶ。後期は前期に学修した内容をベースとし、1853年の発表以来、さまざまな哲学者や思想家に解説されてきたHerman Melvilleの中篇Bartleby, the Scrivenerを原文で精読し、題材に批評理論を用いた研究を行うことで、英語での読解力と批評理論の応用力を定着させる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 文学作品を理解するうえで有益な批評研究の方法をみずから用いることができるようになる。英語の小説を精読し、内容について歴史的・文化的・政治的な分析や考察を行うことができる。参考文献や引用の形式を含めた、学術論文の基本的なフォーマットを習熟する。 【行動目標（SB0s）】 古典文学を現代社会に布置することで生まれる新たな読みの可能性や批評的視座を学ぶ。みずからの問題意識を発展・深化するうえで有益な批評理論のアプローチを学ぶ。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 リポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修を要するものとする。 1) 教材の学修：20時間 2) リポート執筆：10時間 3) リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folioを利用し、教員と院生との双方向性を重視した個別指導や意見交換を実施する。 ・manaba folioの掲示場や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館、インターネット等で独自に先行研究を渉猟し、レポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題（1）の草稿……6月末 教材1のレポート課題（2）の草稿……8月末 後期：教材2のレポート課題（1）の草稿……11月15日 教材2のレポート課題（2）の草稿……12月末 最終稿の提出期限は、前期および後期の締切日とする。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	80 %	1) 教材を精読して理解し、課題に応える内容になっているか。 2) 引用の適切さ、論旨の明確さ、独創性。 3) 学術論文の体裁が整っているかの3点から評価する。
	観察記録	20 %	メール、manabaを活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	・教師からのフィードバックやピア・レスポンスをもとに段階的にレポートを完成させる。 ・引用や出典の明記など、学術論文のルールに則ること。無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 廣野由美子（著） 教材名： 『批評理論入門 『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書、2005） ISBN978-4-12-101790-1 820 円＋税
	批評理論についての概説書のなかでも、『フランケンシュタイン』をテキストに、読み方の実例を提示している点で有益な書。二部構成をとり、小説の第一部の小説技法篇と第二部の批評理論編からなる。第一部は小説にはどのようなテクニックが使われているのかを、第二部は作品を読み解くための方法論を解説している。
参考図書	メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』（小林章夫訳、光文社古典新訳文庫、2010） ISBN978-4334752163 880 円＋税
履修上のポイント	かならず参考図書と併読しながら教材 1 を読み込んでほしい。『フランケンシュタイン』の日本語訳には複数の版があり、ここでは入手しやすいものを挙げたが、原文はもちろん、ほかの翻訳でも構わない。教材 1 の各チャプターは短いため、各トピック内に登場する用語や作品、巻末の参考文献などを図書館やインターネットを通してリサーチし、学修を深めてもらいたい。
レポート課題 1	教材 1 の「Ⅰ：小説技法篇」の 15 のトピックから一つ以上を選び、みずから選んだ英語圏の文学作品（小説をはじめ詩や戯曲も含む）を、選択したトピックとの関連から論じる。（3000 字） 留意点： 教材ではそれぞれトピックや用語の説明に重点を置いているため、それをどのように作品分析に役立てるのかについては十全に掘り下げられているとはいえない。レポートでは教材の解説を出発点に、適宜テキストを引用しながら、さらに考察を深化させること。
レポート課題 2	教材 1 の「Ⅱ：批評理論篇」にある 13 の批評理論から一つを選び、みずから選んだ英語圏の文学作品（小説をはじめ詩や戯曲も含む）を、選択した批評理論を用いて分析・考察する。（3000 字） 留意点： ひとつひとつの理論の紹介は短いため、選択した理論については図書館で検索した文献を参照して補うことがのぞましい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： Herman Melville 教材名： <i>Billy Budd, Bartleby, and Other Stories</i> . Penguin Classics. 2016. ISBN-13:978-0143107606 1192 円＋税 （Paperback）
	ハーマン・メルヴィルの中短篇を集めた作品集より、彼が 1853 年に執筆した <i>Bartleby the Scrivener</i> を扱う。この中篇は、ウォール街にある法律事務所に代書人として雇われた謎めいた青年主人公をめぐる、人間の生の条件や資本主義と文学のエコノミーの問題などを照射し、さまざまな思想家や哲学者に読み解かれ、いまでも労働する現代人の心を魅了しつづけている。
参考図書	ジョルジョ・アガンベン『バートルビー 偶然性について』（高桑和巳、月曜社、2005 年） ISBN:4-901477-18-8 2400 円＋税
履修上のポイント	教材所収の作品のなかから“Bartleby the Scrivener”のみを扱うため、使用する教材はほかの入手しやすい版でも構わない。（Annotated 版がのぞましい。使用した版を学術論文のルールに則って明記すること）。参考図書には邦訳が附されているため、原文の精読理解の際の参考にしてもよい。また <i>Bartleby</i> を論じた書物は参考図書以外にも多数ある。積極的に他の文献に当たることがのぞましい。
レポート課題 1	教材を精読し、前期に学んだ小説技法の観点から、分析・考察しなさい（3000 字） 留意点： たださまざまな技法を抽出して羅列するのではなく、作品においてどのような効果をあげているか等、ひとつひとつを深く掘り下げて論じること。
レポート課題 2	教材を精読し、前期で学んだ批評理論のアプローチを用いて論じなさい（3000 字） 留意点： 必要に応じて教材執筆時の歴史状況や作者について、先行研究や他の文献資料に当たること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1、Ⅰの 1～5 を、参考図書とともに学修する
第 2 回	教材の学修：基本教材 1、Ⅰの 6～10 を、参考図書とともに学修する
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の精読 11～15 を、参考図書とともに学修する
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1、Ⅱの 1～4 を、参考図書とともに学修する
第 9 回	教材の学修：基本教材 1、Ⅱの 5～8 を、参考図書とともに学修する
第 10 回	教材の学修：基本教材 1、Ⅱの 9～13 を、参考図書とともに学修する
第 11 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 3 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 9 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 10 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 11 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	イシハマ 石 浜 ヒロミチ 弘 道	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	今日の激変する社会の構造を分析し、そのあるべき姿を探究することは私たちの喫緊の課題であろう。そこで学習者にとって今日何が現代社会の根本的な問題なのか、どうしたらそれを自分自身の力で解決することができるのか、日本人として何ができるのか。これらを社会哲学のテキストを読み解くことを通して、理論的に考察し、その社会倫理的な実践に向かう視点を養う。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 学習者が今日の社会の諸問題を哲学者の指摘を参考にしつつ深く理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に修得する。 【行動目標（SB0s）】 学習者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に記述する（知識・解釈）。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値を哲学的に深く考察し、そこから現実に行っている諸問題を列挙し、さらに解決を指摘する（知識・問題解決）。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 ・学習者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が論究する問題について、それらが具体的にどのようなものかを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う（自習）【15時間/レポート1本】。 ・さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加（自主研究）【10時間/レポート1本】。 ・1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに5時間以上（レポート作成）【10時間/レポート1本】。 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に10時間以上が目安（ディベート）【10時間/レポート1本】。 【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解読しレポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題 初稿は7月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：教材2のレポート課題 初稿は11月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題どおりのレポートとしての的確に書かれていること
	平常評価 (観察記録)	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的にに取り組むことが望ましい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 小坂国継、他編 教材名： 『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房，2012年） ISBN978-4-623-06110-5 C3010 3,500円＋税
	近現代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2冊、2006年）ISBN:4-00-431007-5 各860円＋税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社、2001年）ISBN:4-7907-0876-4、2,000円＋税 さらに哲学者について詳しく知るためには、清水書院<人と思想シリーズ>の各哲学者の入門書が適切。
履修上のポイント	テキストは内容上2部構成となっている。その1部は近現代の哲学の流れがコンパクトに紹介されているので、自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、上記の参考図書で確認することが思想内容を的確に理解するうえで望ましい。
レポート課題1	テキストの第1部から自分が興味があると思う章を選び、要約しなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること
レポート課題2	テキストの第1部から自分が興味があると思う章を選び、要約しなさい（ただし課題1と異なるもの）。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 小坂国継、他編 教材名： 『概説 現代の哲学・思想』（ミネルヴァ書房，2012年） ISBN978-4-623-06110-5 C3010 3,500円＋税
	近現代の社会思想の種々の潮流を学ぶことを通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかが概説的に述べられている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから現代社会の諸問題の哲学的な分析と解決を得ることができる。
参考図書	ロールズ『正義論』紀伊國屋書店、小松奈美子『医療倫理の扉』北樹出版、中谷常二『ビジネス倫理学』晃洋書房、小坂国継『環境倫理学ノート』ミネルヴァ書房、高橋準『ジェンダー学への道案内』北樹出版、金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、渡辺学『ユングにおける心と体験世界』春秋社、坂本百大『科学哲学』北樹出版
履修上のポイント	テキストは内容上2部構成となっているので、ここでは第2部の中で自分が選んだ課題の章とそれが属する各部を通読することで問題の立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている思想家の原典（上記参考図書）に触れることによって、課題を深く理解することが望ましい。
レポート課題1	テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。
レポート課題2	テキストの第2部から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい（ただし課題1と異なるもの）。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 図書館、新聞や雑誌、テレビ・ラジオやネット等でその問題を自ら調べ、批判的に考察することが望ましい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（生の哲学から実存主義の流れ）
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（現象学と解釈学）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（プラグマティズムとホワイトヘッドの哲学）
第 6 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（ウィトゲンシュタインと構造主義）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	近現代の社会思想の歴史的推移とその諸問題に関する哲学的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；ロールズの正義論
第 4 回	基本教材 2 の学修；医療、ビジネス、環境の倫理
第 5 回	基本教材 2 の学修；ジェンダー問題と心の科学、現代の技術論
第 6 回	上記の考察を踏まえて、今日最も重要と思う社会問題についての学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する社会上の諸問題についての哲学的観点からの考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	宗教哲学特殊研究	担当者	イシハマ 石 浜 ヒロミチ 弘 道	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	従来、宗教は私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし今日、既成宗教が過激となることで狂信や迷信に陥り、あるいは為政者の支配の道具となり暴走し悲惨な事件を起こしている。そこで本科目では宗教思想の歴史を把握すること、そして宗教の本質的な在り方、そのあるべき姿とは何かを問うことを第一の目的とし、さらにその具体的な事例としてキリスト教『聖書』に見られるイエスの足跡を解説することで、彼が伝えたかった真の宗教の世界をその原点に立ち返って考えたい。さらにその視点をもとに、今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、今日の宗教的諸問題を客観的に判断し、そのあるべき姿を社会に発信できる能力を養う。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 学習者はキリスト教を主とした宗教思想の理解を通して、既存の宗教から不可欠に生じる諸問題を正確に把握し、あるべき宗教の姿と多様な宗教それぞれの固有の存在価値を論理的に理解する。 【行動目標（SBOs）】 学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に説明できるようにする（知識・解釈）。さらに宗教本質論と同時に宗教多元論の立場をも考察し、宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実の諸問題を指摘し、さらにその解決を列挙できるようにする（知識・問題解決）。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 ・学習者は宗教の本質への考察を踏まえて、宗教の具体的な例としてのキリスト教の学修を通して宗教のあるべき姿を学ぶ（自習）【15 時間/リポート 1 本】。 ・さらにその本質の逸脱から生じる今日の諸事件（宗教過激派やカルト系宗教など）を分析することにも時間を割き、宗教の特性とその今日的意味を幅広く学ぶことに心がける（自主研究）【10 時間/リポート 1 本】。 ・1 つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 5 時間以上（リポート作成）【10 時間/リポート 1 本】。 ・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に 10 時間以上が目安（ディベート）【10 時間/リポート 1 本】。 【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しリポートを作成する。		
スケジュール	前期： 教材 1 のレポート課題 初稿は 7 月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期： 教材 2 のレポート課題 初稿は 11 月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	平常評価 （観察記録）	20%	再提出リポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的な面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえで有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： ジャン・グロンダン 教材名： 『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ、2015 年）ISBN:10-4560509999 1,296 円
	本書は宗教の本質を伝統的な理性と信仰という側面から、かつ古代ギリシャから現代までの歴史的な考察により、キリスト教的背景を持ちながらも宗教にありがちか一面的な見方を脱却し、宗教の普遍性と多元論的な見方の可能性を内容とする。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2 冊、2006 年）ISBN:4-00-431007-5 各 860 円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986 年）ISBN:4-00-000314-3 1,900 円＋税 波多野精一『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012 年）ISBN:978-4-00-331453-1 1,260 円＋税
履修上のポイント	哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。またテキストについてもできれば哲学的な背景が必要であるので、上記のような哲学史の入門書で基礎知識を得ておくとう理解が容易となる。
レポート課題 1	テキスト第 1 章から第 3 章を読み、宗教の本質とは何かを述べなさい。 留意点： 上記の参考図書（ヒック、波多野）と比較することによって、テキストの立ち位置や内容がより明確となる。
レポート課題 2	①テキスト 4, 5 章を要約し哲学と宗教の関わりを述べなさい。②またはテキスト 6, 7 章を要約し、どのように宗教が哲学に移行していったかを述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） 留意点： 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 『新約聖書・新共同訳 NI240』（日本聖書協会、2013 年） 教材名： ISBN:978-4-8202-3201-8 500 円＋税 その他の版、出版社でも可
	『聖書』はキリスト教を知る上での最良の書物であると同時に西洋思想に大きな影響を与えた基本的な文献である。そこには「福音書」という形でイエスつまりキリスト教の教祖の足跡が描かれ、彼の信仰の生き方を表す数々の言葉が述べられている。それに続く多くの書簡には使徒たちによってイエスのキリスト（救い主）としての信仰上の意味が語られている。
参考図書	波多野精一『原始キリスト教』（岩波全書、2005 年）ISBN:9784000218672 2,700 円 石浜弘道『芸術と宗教』（北樹出版、2012 年）ISBN:978-4-7793-0347-0 1,600 円＋税
履修上のポイント	『聖書』を学ぶことはキリスト教を知る上でもっとも大切なことであるが、その信仰的な内容の特殊性と普遍性を批判的に吟味することは他の諸宗教の意味を考える場合に参考となる。そのためには、宗教がしばしば陥る教条主義的な面を克服する多元論的な発想を踏まえ、かつ個々の宗教の普遍性の追求と批判的考察が必要であるという点を視野にいれ考えること。
レポート課題 1	『新約聖書』に含まれている四福音書から一つ選び、その中でイエスが語った神の愛・アガペー（裁きの義なる愛、弱者・罪人への愛、隣人愛、無制約的愛等）はどのようなものであるかを述べなさい。その際、聖書の引用には必ず章、節を明記すること。 留意点： イエスは神の愛のそれぞれを譬えを通して人々に語っている点に注意。
レポート課題 2	『新約聖書』に含まれているパウロの書簡「ローマの信徒への手紙」に述べられているキリスト教の主要なテーマであるの贖罪思想について、その内容を聖書の箇所を引用しながら説明しなさい。その際、聖書の引用には必ず章、節を明記すること。 留意点： 必要であればパウロの他の書簡等も参考にして述べると内容が深まる。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（宗教の本質とその普遍性）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「宗教の本質についての概念的考察」
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質的についての歴史的考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教と哲学との関係の考察）
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；『聖書』を通してのキリスト教に関する全般的考察
第 4 回	基本教材 2 の学修；「新約聖書・福音書」からイエスのアガペーとは何かを学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；「新約聖書・パウロ書簡」からパウロの歴史的功績を理解
第 6 回	基本教材 2 の学修；パウロ神学を中心である贖罪思想を学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連するキリスト教の歴史的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生命倫理特殊研究	担当者	ハシモト 橋本 カズノリ 和法	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	生命倫理について、氾濫する情報に惑わされず、科学的に検証されたデータを基に、現状で最も新しく、かつ信頼性の高い知見を得るためには、どのような文献を基に、どのように考えれば良いか、という方法論を身に付ける。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。 課題としては癌患者などの終末期医療における緩和医療、脳死、尊厳死における現状と倫理的な問題についてと生殖補助医療におけるその医療技術の現状と社会倫理的な問題について考察を行う。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することを修得する。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることを修得する。 【行動目標（SBOs）】 生命倫理に関する課題を取り上げ、その問題点を整理し最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見いだす方法論を身に着ける。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 学修方略（LS）： レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。 学修時間： レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学習時間を要するものとする。 ・教材の学修：20時間 ・レポート執筆：10時間 ・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピアレスポンスを含む）：15時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲課程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者の質疑に対して応答し、その過程を受講者全員に公開する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題（1）の締め切り：7月末（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限 レポート課題（2）の締め切り：8月末（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限 後期：教材2のレポート課題（1）の締め切り： 11月中旬（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限 レポート課題（2）の締め切り：12月中旬（初稿）★最終提出期限＝学事暦で定めた期限		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、記述の論理性、自分自身の専門分野との関連性を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします。 4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 注1：後期の課題については、これまで生物学・生命科学を履修していない場合は、内容が難しいと思われるため、スクーリングを受講すると同時に、不明の点はメール等で問い合わせして下さい。 注2：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 坂本百大/青木清/山田卓生編著 教材名： 『生命倫理 21 世紀のグローバル・バイオエシックス』（北樹出版、2005 年） ISBN: 978-4-77-930004-2
	バイオエシックスという学問分野は 20 世紀の後半に現れた新しい研究分野である。その誕生の動機から説き起こし、健康、病気、治療などの概念を整理して、バイオエシックスの個々の問題、生と死、エイズ問題、インフォームドコンセント、差別問題、パーソン論、世代間倫理など、初期に欧米で議論されていた諸問題を検討する。
参考図書	ピーターシンガー『生と死の倫理』（昭和堂 1998 年）ISBN: 978-4-81-229715-5
履修上のポイント	生命倫理が 1970 年代になって現れた全く新しい現代的な学問であること、そしてその時代の背景を理解すること。またそれが単に文系でも理系でも、社会系の学問でもなく、学際的な話題であること理解するのが肝要である。
レポート課題 1	生命倫理成立の思想的、社会的背景を考察する。生命倫理が古来の医の倫理と異なること、近代的なヒューマニズムの流れにあること、従って近代的な人権思想に基づくものであることに留意し、パターナリズムからオートノミーへの思想的転換の歴史的な背景も踏まえるべきである。また 1960 年代の科学的技術革新に対するテクノロジー・アセスメント運動の一環としての生命倫理の性格も十分に理解すべきである。この時期の社会状況、差別問題なども分析する必要がある。 留意点： なるべく自分自身の経験を基にすること（家族や周囲の方の事例でも可）
レポート課題 2	安楽死と脳死を巡る生命倫理上の議論を整理し批判する。カレン・クライン事件などのケーススタディをまず試み、その時代性を明確にする。また社会的、法的、倫理的問題を区別して論じる。脳死問題については、医学的問題、臓器移植との関連性を一般的に論ずるとともに、日本における対応の特殊性について、倫理的、民俗学的分析も付加する必要がある。 留意点： なるべく自分自身の経験を基にすること（家族や周囲の方の事例でも可）

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 坂井律子著 教材名： 『いのちを選ぶ社会 出生前診断のいま』（NHK 出版 2013 年） ISBN:978-4-1408-1662-6
	2013 年から「無侵襲的出生前遺伝子診断:NIPT」の臨床研究が始まり、これまでの羊水検査が行われてきた時代と比べ出生前診断を希望する夫婦が増加すると考えられる。その際に生ずる生命の選択に関する倫理的問題について論じている。
参考図書	『ヒト胚の作成・利用に係る指針の規定の現状について』 www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/life/haihu80/siryo3-2.pdf
履修上のポイント	生殖補助医療技術の発達に伴い、最近倫理的な問題が様々な面からクローズアップされてきている。生殖医療は世代の継承に関与しており、その治療結果が個体にとどまらず子孫に影響されていく特殊性を有する。生殖に関わる倫理には、生まれてくる子の同意を得ることができないことから、施術においては自己決定権だけでは行使できない状況もありうる。こうした状況の中では人権、社会的倫理、法的な観点から生殖医療行為について論ずる必要性があると考えられる。
レポート課題 1	新たな技術としての、着床前診断、配偶子提供、代理懐胎、ES 細胞、iPS 細胞からの配偶子作成のいずれかを取り上げ、対象とする疾患とその診断・治療方法の原理、を論ずること。最近の生命科学技術の進展に関連する、自分自身の担当業務、または日常生活上での出来事に関する事項でも可。
レポート課題 2	課題 1 の診断・治療等を実施する際に生ずる倫理的問題を取り上げ、その技術の限界を踏まえた上で、これらの胎児選別、親子・家族という社会の枠組みを改変させるかもしれない問題、いかに社会のコンセンサスを得るかなどを論ずること。または課題 1 で取り上げた題材における、社会的な問題でも可。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題についての理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「生命倫理」について（定義）
第 4 回	基本教材 1 の学修：課題として取り上げた題材について（個体レベル）
第 5 回	基本教材 1 の学修：課題として取り上げた題材について（集団レベル）
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	ヒトの意識変容・行動変容に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題についての理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 4 回	基本教材 2 の学修：ヒト・生命体の個体レベルでの学修
第 5 回	基本教材 2 の学修：ヒト・生命体の集団レベルでの学修
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する倫理指針および社会的な事例の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	近現代哲学特殊研究	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、現代社会の形成を促してきた近代の世界観や価値観のなりたちや、その可能性と限界を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、近現代の技術文明がもたらした様々な課題の意味を探り、これに適切に対応するために、人間や生命、自然や社会の営みのすべてを一律に、技術的に計算・予測可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる。 近代にはじまる技術文明の社会に生きている現代的状況を捉えながら、日常生活や科学知の自明な前提を超えて、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 近代以降の世界観、価値観の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観念に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。 【行動目標（SBOs）】 i. 西洋の存在論をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。（知識・解釈） ii. 西洋文明が招いた様々な問題の根拠を理解し説明することができる。（知識・想起） iii. 近現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。（知識・問題解決） iv. 近現代社会の諸問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。（技能） v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。（態度・習慣）		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 ①基本教材及び参考文献の熟読（自習）【SBO i.】：【10 時間以上／レポート 1 本】 ②レポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈（自主研究）【SBO ii.】：【10 時間以上／レポート 1 本】 ③レポートの作成（レポート作成）【SBO iii.】：【10 時間以上／レポート 1 本】 ④manaba folio を利用した複数回のレポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、レポートの推敲と最終稿の完成（ディベート）【SBO iv. & v.】：【15 時間以上／レポート 1 本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。		
スケジュール	最終稿の提出は、学事暦で定められた日を期限とする。これは、あくまで最終稿の期限であり、初稿は、その前に提出する。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。 前期（基本教材 1）：レポート課題 1（7 月 15 日）／レポート課題 2（8 月 15 日） 後期（基本教材 2）：レポート課題 2（11 月 15 日）／レポート課題 2（12 月 15 日）		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、レポート課題に沿う論述・表現であるか。
	観察記録	30 %	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。
履修者への要望	教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって始めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『ニーチェⅠ 美と永劫回帰』（平凡社ライブラリー，1997年） ISBN:978-4-582-76179-5 1,553円＋税
	プラトン以来、「存在とは何か」を問うてきた西洋哲学（形而上学）の存在論の歴史のなかにニーチェを位置づけなおし、ニーチェ哲学との対決を通して、伝統的な存在論の解体を試みる一連の講義の邦訳です。そのうち、「芸術としての力への意志」（第一講義）と「同じものの永遠なる回帰」（第二講義）の二つの講義が収録されています。ニーチェの芸術観や永遠回帰思想について存在論の歴史という観点から独自の解釈が施されてゆきます。
参考図書	木田元『ハイデガー』（岩波現代文庫，2001年）ISBN:978-4-00-600067-7 1,000円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年）ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 高田珠樹『ハイデガー 存在の歴史』（講談社学術文庫）ISBN: 978-4-06-292261-6 1,200円＋税
履修上のポイント	第一講義は、おもに、ニーチェ最晩年の遺稿『力への意志』にまとめられた断片を手がかりにして、ニーチェの哲学の再構築が試みられています。「力への意志」とその現象形態としての芸術との関係、ニーチェの芸術観が、存在論の歴史という観点から、どう解釈されてゆくのかをおさえてください。 第二講義では、ニーチェの『悦ばしき知識』と『ツァラトゥストラはこう語った』を丹念に読みと きながら、永遠回帰説に独自の解釈が施されてゆきます。とくに『ツァラトゥストラはこう語った』第三部の「幻影と謎」「恢復しつつある者」の解釈がこの講義の圧巻であり、おさえどころです。
レポート課題1	「力への意志」と芸術（美）との関係について、形而上学という点から論説してください。 留意点： ニーチェの芸術論に対して、カントの美学、ニーチェのワグナー批判、プラトンの芸術論がどう位置づけなおされるのかをおさえてください。
レポート課題2	「同じものの永遠なる回帰」と「力への意志」の関係について、存在者の全体という点から論説してください。 留意点： 本質存在と事実存在との区別がプラトン、アリストテレス以後の形而上学の歴史を規定するとはどういうことかをおさえてください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『ニーチェⅡ ヨーロッパのニヒリズム』（平凡社ライブラリー，1997年） ISBN:978-4-582-76184-9 1,553円＋税
	プラトン以来、「存在とは何か」を問うてきた西洋哲学の存在論の歴史のなかにニーチェを位置づけなおし、ニーチェ哲学との対決を通して、伝統的な存在論の解体を試みる一連の講義の邦訳です。そのうち、「認識としての力への意志」（第三講義）と「ヨーロッパのニヒリズム」（第四講義）の二つの講義が収録されています。ニーチェの真理論、ニヒリズム論について存在論の歴史という観点から独自の解釈が施されてゆきます。
参考図書	木田元『ハイデガー』（岩波現代文庫，2001年）ISBN:978-4-00-600067-7 1,000円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年）ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 高田珠樹『ハイデガー 存在の歴史』（講談社学術文庫）ISBN: 978-4-06-292261-6 1,200円＋税
履修上のポイント	第三講義では、ニーチェの真理論が論じられています。プラトン以来の伝統的な形而上学における真理観とニーチェの真理論がどういう意味で対比されているのかをおさえてください。 第四講義では、ニーチェのニヒリズム論が集中的に解釈されています。プラトン以後の西洋哲学の全体がプラトニズムすなわちニヒリズムであり、それを克服するニーチェの試みもプラトニズムの枠内にあるとはどういうことかをおさえてください。
レポート課題1	真理が一つの価値、一種の誤謬であるとはどういうことかについて、「力への意志」という点から論説してください。 留意点： 「力への意志」にのつての二つの価値の関係と相違、伝統的な真理観とニーチェの真理論との対比の意味をおさえてください。
レポート課題2	ニーチェ哲学が西洋形而上学の完成形態であるとはどういうことかについて、「ヨーロッパのニヒリズム」という点から論説してください。 留意点： プラトン以来のヨーロッパの哲学史が「存在忘却」の歴史であり、その歴史の終局にニーチェの哲学も位置づけられることの意味をおさえてください。

基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材，参考図書の関連箇所の検討
第 3 回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第 4 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の熟読
第 5 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 6 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の熟読
第 11 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 12 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材，参考図書の関連箇所の検討
第 3 回	関連する参考文献，参考資料の検索とその内容の学修
第 4 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の熟読
第 5 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 6 回	レポート課題 1：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の熟読
第 11 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 12 回	レポート課題 2：基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	社会思想史特殊研究	担当者	イシハマ 石 浜 ヒロミチ 弘 道	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	千変万化する現代社会において、ともすれば自己のアイデンティティーを失いがちな私たちの日々の営みの中で、そうした激変する社会の構造を分析し、そのあるべき社会の姿を探求することは喫緊の課題であろう。それはまた哲学が伝統的になしてきたことである。哲学はその時代時代の問題状況と取り組みつつ、人類の普遍的な在るべき姿を示してきたのである。そこで学習者にとって今日何が現代社会の哲学上の根本問題なのか、どうしたらそれを自らの力で解決できるのか、日本人として歩むべき方向をどのように指導すべきなのか。これらを社会思想史の知的営みの中から考えることができるようにする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 学習者が今日の社会の諸問題をテキストの指摘を参考にしつつ正確に理解することで、多様な国家や民族そして文化の存在価値を踏まえて共生というあるべき社会の姿を論理的に習得する。 【行動目標（SB0s）】 学習者は社会のあるべき姿を理解する過程で、まず既存の社会が抱える諸問題を客観的に述べる（知識・解釈）。そのために世界の多くの文化、民族の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実起こっている諸問題の説明し、さらに解決を指摘する（知識・問題解決）。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 ・学習者は今日の社会の諸問題に意識的に取り組み、テキストにあるように哲学者が取り上げる問題について、それらが具体的にどのようなものかを自ら調べ、さらにその問題を掘り下げ解決を目指して行動に移すことができる。たとえば、マス・メディア等でそれらの問題を把握することにもテキスト理解と同様の時間を使う（自習）【15 時間/レポート 1 本】。 ・さらに自分の近辺でも同様の問題があるかどうか調べる。可能であれば自らもその問題の解決に参加（自主研究）【10 時間/レポート 1 本】。 ・1 つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 5 時間以上（レポート作成）【10 時間/レポート 1 本】。 manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に 10 時間以上が目安（ディベート）【10 時間/レポート 1 本】。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 ・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解説しレポートを作成する。		
スケジュール	前期： 教材 1 のレポート課題 初稿は 7 月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期： 教材 2 のレポート課題 初稿は 11 月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	平常評価 （観察記録）	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	レポートの課題に関連したテキストの部分のみでなく全体を通してじっくりと読み理解すること、さらにそこで述べられている諸問題を身近な問題として具体的にに取り組むことが望ましい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 山脇直司 教材名： 『ヨーロッパ社会思想史』（東京大学出版会、1992 年） ISBN:978-4-13-012051-7-C3010 2,200 円 +税
	本書は社会思想の種々の潮流を通して、私たちの社会がこれまで何を問題とし、どのように考え、その解決に向かったかを概説的に述べている。そこでこれらを学ぶことで社会が必要としている哲学の働きを理解することができ、さらにそこから混迷する現代社会の解決に不可欠な哲学の意義を再発見することができる。
参考図書	熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2 冊、2006 年）ISBN:4-00-431007-5 各 860 円 +税 加茂直樹『社会哲学を学ぶ人のために』（世界思想社、2001 年）ISBN:4-7907-0876-4、2,000 円 +税
履修上のポイント	テキストを通読することにより、全体の流れの中で自分が選んだ課題の章とそこでの立ち位置が明確となる。さらにそこで取り上げられている諸問題について、新聞等身近なもろもろの資料から調べ、可能であればフィールドワークをすることが望ましい。
レポート課題 1	テキスト全体から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること
レポート課題 2	テキスト全体から自分が最も興味があると思う章を選び、要約しなさい(ただし課題 1 の章と重複しないこと)。また可能であれば、そこで取り上げた問題に自分がどのように具体的に関わったか、関わろうと考えているかも述べなさい。 留意点: 選んだ章から自分が力点を置きたいというところを中心に要約すること

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： I. カント 教材名： 『永遠平和のために/啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫、2006 年）ISBN:978-4-334-75108-1C0198 648 円 +税
	『永遠平和のために』においてカントは永遠平和の実現に関し、6 つの予備条項と確定条項として国家法、国際法、世界市民法において尊重されるべき原則を挙げ、今日にも通用する個人の人權や自由の尊厳、共和制、国際連合等の平和のための不可欠の条項を謳っている。 『啓蒙とは何か』「啓蒙とは何か。それは人間が、みずから招いた未成年の状態から抜け出ることだ」とカントが述べている。つまり私たちが自ら所有する理性を使う勇気をもつことが人格としての人間の在り方であり、それは今日の脆弱な側面を有する大人社会において自律的人間とはいかにあるべきかを示すものとなっている。
参考図書	小牧治『カント』（清水書院、2000 年）ISBN:978-4389410155 1,080 円 熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2 冊、2006 年）ISBN:4-00-431007-5 860 円 +税
履修上のポイント	カントのテキストは難解なものが多いが、ここに取り上げたカントの二つの論文は、一般人を対象としたもので比較的読みやすい。しかしやはり哲学書なので熟読し理解することが必要である。そのためにも上記の参考図書は役立つ。
レポート課題 1	『永遠平和のために』でカントが述べている「あるべき平和」とはどのようなものなのかを主に第 1 章を中心に述べなさい。またその内容が今日の日本の政治状況と比較して、日本はどうあるべきかについて述べなさい。 留意点: 世界の平和に日本はどのように貢献できるかという観点から考えること。
レポート課題 2	『啓蒙とは何か』でカントが述べている「啓蒙」つまり理性の自律とはどのようなことかを述べなさい。 留意点: 今日の情報過多な時代においてカントが言う「人間は自ら考えるべきである」ということが意味する批判的思考力を重視。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（社会思想の歴史を学修）
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（社会の諸問題に関する考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（諸問題に対する哲学による把握）
第 6 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（諸問題に対する哲学による解決）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	社会思想の歴史的推移とその諸問題に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；カントの社会思想に関する全般的学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；カントの教材の正確な理解
第 5 回	基本教材 2 の学修；カントの教材におけるあるべき平和のあり方
第 6 回	基本教材 2 の学修；カントの教材における啓蒙の意味
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連するカント思想の哲学史的観点からの考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育思想史特殊研究 令和4年度以前の入学生は履修できません。	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴 山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	-----------------------------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本科目では、教育という現象を相対的に捉えるために、教育思想史を手がかりとしながら、私たちに自明のものとなっている「教育」観を問い直し、人間や社会のあり方を模索しつつ新たな教育の可能性を探究していく。この学修を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。 ①仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。 ②創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 ③さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 複雑な教育現実を相対的に捉えるために、教育現実を分析する概念枠組みを歴史的に検証することや教育実践や教育的思考の意味を探究することを通じて、論理的・批判的思考力を身に付けながら、今後の教育のあり方を創造することができる。 【行動目標（SB0s）】 ・現在の教育について、過去のエデュケーションの流れを踏まえながら理解することができる（知識・解釈）。 ・課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる（技能）。 ・自ら問いを発見し、自分の考えを論理的に説明することができる（知識・問題解決）。 ・教育実践などを規定している教育思想について、反省的に考察することができる（態度）。		
学修方略 （方法）	【学修方略（LS）と学修時間】 基本教材を手がかりに関連する図書や文献を読み、探究する課題に関する理解を深めて、レポートを作成する。なお、具体的なレポートに取り組む際の注意点については、全受講生用の掲示板に掲示する。 1つのレポートにあたり、基本教材および参考文献の学修に20時間以上、学術論文の分析・考察に10時間以上、レポートの推敲と最終稿の完成（教員の添削指導を含む）に15時間以上を目安とする。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講生用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。		
スケジュール	基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。 基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。 なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。 基本教材1の課題1は7月末、課題2は8月末に初稿を提出すること。 基本教材2の課題1は11月中旬、課題2は12月中旬に初稿を提出すること。 なお、具体的な日程については、全受講生用の掲示板に掲示する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論旨の明確さ、テーマ設定、文章表現の妥当性、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	観察記録	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	課題について理解を深めて、適切にわかりやすく読者に理解してもらうことを念頭において論述すること。なお、できるだけ多くの文献資料を読んでほしい。教育思想史学会や教育哲学会、日本教育学会などが刊行している学会誌はもちろんのこと、CiNiiやGoogleScholarなども積極的に活用し、読んでほしい。また、思想家たちが書いた「原典」を読み込んで、考察を深めてほしい。 レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 今井康雄編著 教材名： 『教育思想史』（有斐閣，2009 年） ISBN:978-4-641-12384-7 2,420 円
	本教材は、古代から現代までの教育思想の展開を把握することができる。その中核となる「第2部 近代的教育思想」とその土台となる「第1部 西洋教育思想の源流」が論じられる。また、西洋の近代思想からどのような影響を受けたのかを論じた「第3部 日本の教育思想」、現在の教育思想がいかに形成されたかについて論じた「第4部 現代的教育思想」から構成されている。
参考図書	教育思想史学会編『教育思想事典 増補改訂版』（勁草書房，2017 年） ISBN:978-4-326-25122-3 8,580 円 眞壁宏幹編『西洋教育思想史 第2版』（慶応義塾大学出版会，2020 年） ISBN:978-4-7664-2658-8 4,180 円
履修上のポイント	まず、基本教材を理解した上で、巻末の参考文献として「原典に迫る」や「理解を深める」という形で紹介されている書籍や文献のいくつかを読んでみてほしい。その際には、「概念」を踏まえておく必要があり、『教育思想事典 増補改訂版』が参考となる。また、概念史や社会的文化史的コンテキストから教育思想を把握する手がかりとして、『西洋教育思想史』が参考となる。さらには、教育思想史学会の機関誌『近代教育フォーラム』では最新の研究動向を把握することができる。
レポート課題 1	『教育思想史』の第1部と第2部を読み、自分の研究関心と関連する1講（10講のなかから1講）を選び、巻末の参考文献やCiNii等で関連する論文を検索し、その内容を踏まえながら自分の意見を述べなさい。 留意点： 具体的な思想家について検討すること。また、基本教材は要点が整理されたものであるため、基本教材を参照しつつも、自分自身で関連する図書や文献を読み、自分なりに問いを立てながら考察すること。
レポート課題 2	『教育思想史』の第3部と第4部を読み、自分の研究関心と関連する1講（5講のなかから1講）を選び、巻末の参考文献やCiNii等で関連する論文を検索し、その内容を踏まえながら自分の意見を述べなさい。 留意点： 具体的な思想家について検討すること。現代的教育思想については、教育思想史学会や教育哲学会などが刊行している学会誌や関連する著作を参照するとよい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 森田尚人・森田伸子編著 教材名： 『教育思想史で読む現代教育』（勁草書房，2013） ISBN: 978-4-326-25087-5 4,180 円
	教育問題を思想的な文脈の中から捉え、現実分析のための概念枠組みそのものを歴史的に検証することが試みられている。「政治」や「道徳教育」、「教科書」や「カリキュラム」、「発達」や「注意」といった現代教育のキーワードについて、その意味内実を思想史的に解説していく。
参考図書	教育思想史学会編『教育思想事典 増補改訂版』（勁草書房，2017 年） ISBN:978-4-326-25122-3 8,580 円 眞壁宏幹編『西洋教育思想史 第2版』（慶応義塾大学出版会，2020 年） ISBN:978-4-7664-2658-8 4,180 円
履修上のポイント	各章で執筆者が異なるため、それぞれの問題意識や検討課題を理解する必要がある。また、内容を理解するためには、各章で示された引用・参考文献を読むことも必要となる。なお、人物や概念については、『教育思想事典 増補改訂版』や『西洋教育思想史』で調べてみてほしい。さらには、各執筆者による関連する著作や論文のいくつかを読むことで理解を深めることができる。
レポート課題 1	基本教材2の第1章から第9章までを読み、自分の研究関心と関連する2章を選び、それぞれの論文の特徴を考察し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点： 各章で示された引用・参考文献や各執筆者による関連する著作や論文を読み、理解を深めながら考察すること。
レポート課題 2	基本教材2の第10章から終章までを読み、自分の研究関心と関連する2章を選び、それぞれの論文の特徴を考察し、それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点： ここで論じられているテーマは、教育思想史学会や教育哲学会においても議論されてきたものもある。その場合、学会誌や関連する著作を参照するとよい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：第 1 部
第 3 回	基本教材 1 の学修：第 2 部
第 4 回	基本教材 1 の学修：関連する文献の検索と論点の整理
第 5 回	基本教材 1 の学修：関連する著作や論文の内容の検討
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 1 の学修：第 3 部
第 10 回	基本教材 1 の学修：第 4 部
第 11 回	基本教材 1 の学修：関連する文献の検索と論点の整理
第 12 回	基本教材 1 の学修：関連する著作や論文の内容の検討
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：第 1 章～第 5 章
第 3 回	基本教材 2 の学修：第 6 章～第 9 章
第 4 回	基本教材 2 の学修：関連する文献の検索と論点の整理
第 5 回	基本教材 2 の学修：関連する著作や論文の内容の検討
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 2 の学修：第 10 章～第 13 章
第 10 回	基本教材 2 の学修：第 14 章～終章
第 11 回	基本教材 2 の学修：関連する文献の検索と論点の整理
第 12 回	基本教材 2 の学修：関連する著作や論文の内容の検討
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	比較心理学特殊研究	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一 近	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	比較心理学は、動物と動物、ヒトと動物を、様々な側面（生理、発達、知覚・感覚、認知、行動など）において比較検討し、系統発生の歴史、適応的意義、および行動の発達などを明らかにしようとする分野である。動物心理学や生物心理学とも呼ばれる。近年は、ヒトの「こころ」の進化に焦点を当てた比較認知科学が盛んになってきている。 「比較心理学特殊研究」では、さまざまな動物を対象とした実験的研究を通して、ヒトと動物の共通性や相違について学び、ヒトの「こころ」の進化について考えることを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 ヒトと動物の比較研究を学ぶ中で、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観、論理的かつ批判的な思考力、問題を発見し解決策を提案する力を身につける。 【行動目標（SB0s）】 (1) 比較心理学の目的・方法論を学ぶ中で、情報収集、知識獲得の方法を修得する。（知識・問題解決、技能） (2) 実際の研究論文を読んで、その目的、方法、結果、研究の意義などが説明できるようになる。（知識・問題解決、技能）		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 15 時間、計 45 時間程度の準備学修時間を要します。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	前期：課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 10 月末と 11 月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム（manaba）に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	1) 締め切り直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にしてください。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 渡辺茂（編） 教材名： 『心の比較認知科学』（ミネルバ書房, 2000 年） ISBN:4-623-03179-9 2,857 円 + 税 著者名： 眞邊一近 教材名： 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社、2020 年第 2 刷版） ISBN: 978-4-7819-1441-1 2,600 円+税
	第 1 図書、はヒトの心を動物研究から論ずることの意義と、ヒトの認知および言語の進化の道筋について論じた書である。第 2 図書は、比較心理学的研究で用いられる行動実験の基礎である学習について概説した書である。
参考図書	渡辺茂『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』（共立出版, 1997 年） ISBN:978-4-32-002857-9 2,400 円 + 税
履修上のポイント	前期は、比較心理学の考え方とその研究対象および研究方法についての学修を主眼とします。
レポート課題 1	基本教材 1-1 の第 1 章（心の相対主義）と第 4 章（概念から理論へ）を要約し、自身が考えたことを述べよ。 留意点： 字数配分は要約を 75%、コメントを 25%程度でまとめる。
レポート課題 2	基本教材 1-2 の 2 章（2.11）、3 章（3.14）、4 章（4.14）に紹介されている動物精神物理学研究について研究方法が分かるように要約せよ。 留意点： 各章の内容は動画で配信するので参考にしてください。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 眞邊一近 教材名： 『聴覚行動実験』（資料：manaba で配信） 著者名： Manabe, K., & Dooling, R. J. (2020). 教材名： A psychophysical approach to measuring the threshold for acoustic stimulation in zebrafish (<i>Danio rerio</i>). <i>The Journal of the Acoustical Society of America</i> , 147(2), 1059-1065. 著者名： Watanabe, S., Sakamoto, J., & Wakita, M. (1995). 教材名： Pigeons' discrimination of paintings by Monet and Picasso. <i>Journal of the Experimental Analysis of Behavior</i> , 63(2), 165-174.
	後期の第 1 教材と第 2 教材は、動物の聴覚研究についてのレビューと研究論文である。第 3 教材は、ハトがモネとピカソの絵を弁別できることを示した研究論文である（各教材は、PDF ファイルでダウンロード可能）。
参考図書	渡辺茂『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』（共立出版, 1997 年） ISBN:978-4-32-002857-9 2,400 円 + 税
履修上のポイント	後期は、比較研究の具体的な研究について学修します。
レポート課題 1	第 1 教材で示されている動物の聴覚研究の方法について概説した後、第 2 教材の実験について目的・方法・結果についてまとめよ。 留意点： 第 2 教材については、日本語の解説と実験動画を配信するので、参考にしてください。
レポート課題 2	第 3 教材は、参考図書『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』の著者の論文である。ハトがモネとピカソの絵を弁別できることをどのように実証したのか？その方法を概説し、この研究の意義について自身が考えたことを述べよ。 留意点： 目的・方法・結果が分かるようにまとめてください。参考図書も参考にしてください。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1-1 の学修：第 1 章について学修
第 3 回	基本教材 1-1 の学修：第 4 章について学修
第 4 回	基本教材 1-2 の学修：第 1 章から第 4 章まで動画を視聴し学修
第 5 回	基本教材 1-2 の学修：第 1 章から第 2 章の該当箇所を学修
第 6 回	基本教材 1-2 の学修：第 3 章から第 4 章の該当箇所を学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題の構成、内容についての立案検討
第 9 回	レポート課題 1: 初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1: 添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2 : 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 : 添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 : 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2-1 の学修：解説を読んで動物の聴覚研究の研究方法について理解する
第 3 回	基本教材 2-2 の学修：実験の手続き・方法を解読する
第 4 回	基本教材 2-3 の学修：実験の目的・方法・結果を理解する
第 5 回	基本教材 2-3 の学修：論文の考察を読んでこの研究の意義について考える
第 6 回	参考図書に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題の構成、内容についての立案検討
第 9 回	レポート課題 1: 初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1: 添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2 : 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 : 添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 : 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	産業・組織心理学特殊研究	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	まず、職場のリーダーシップを自己概念の視点からとらえ直す。次に、職場のパフォーマンスを阻害し悪化させる行動を組織における反社会的行動について考える。本講義では、これらの行動の概要、規定要因、研究の最新動向の3点を中心に考察することを目的とする。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 問題発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、悲観的な思考ができる。 リーダーシップ・協働力：集団の中で連携しながら、協働者の力を引き出し、支援できる。 【行動目標（SB0s）】 ・組織市民行動の概要を理解し、組織における重要性を理解することができる。 ・組織における反社会的行動の概要を理解し、それが組織にどのような影響を与えるのか理解することができる。 ・本講義で得られた知見と、自分が経験したり見聞きした職場での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。 ・組織市民行動に関する学術文献を検索し、自分の興味に近い学術論文を読んで、レポートに纏めることができる。 ・組織における反社会行動に関する学術文献を検索し、自分の興味に近い学術論文を読んで、レポートに纏めることができる。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに20時間以上、学術論文の読み込みに10時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに15時間以上を目安とする。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 ・オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題1の草稿は7月末、課題2は8月末を目処に提出できるように学習をすすめる。いずれの課題も9月中旬の課題提出締切日までに最終稿を提出する。 後期：教材2のレポート課題1の草稿は11月中旬、課題2は12月中旬を目処に提出できるように学習を進める。いずれの課題も2024年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	79 %	・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、（原則的に）0点となります。 ・教材の引き写しは評価の対象外とします。
	観察記録	21 %	・最終提出までにレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。
履修者への要望	・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに提示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 ・基本教材1および2のレポート課題（2）については、英語の翻訳能力を評価するわけではありませんが、日本語としてあまりに不自然なレポートは評価が低くなることは承知しておいてください。くれぐれも、かつて大学入試の受験英語でやった愚直な翻訳のような文章にはしないで下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 田中堅一郎 教材名： 『自己概念から考えるリーダーシップ リーダーの多面的自己概念と発達に関する心理学的研究』（風間書房，2021 年） ISBN:978-4-7599-2395-7 5,000 円+税
	本書は、リーダーの自己概念とリーダー発達の視点から行われたリーダーシップ研究について心理学を中心に紹介し、著者が行なったリーダーの自己概念とリーダー発達についての研究を紹介したものである。序章、8 章とエピローグから構成されており、各章のタイトルは以下の通り；1 章「これまでのリーダーシップ論には何が足りなかったのか」、2 章「リーダー発達の視点からリーダーシップを考える」、3 章「リーダーの自己概念とリーダー発達」、4 章「実証研究 1：的確なリーダー行動に自己概念はどう影響するか」、5 章「実証研究 2：どうすれば多様な自己概念を獲得できるか」、6 章「実証研究 3：自己複雑性は変革型リーダーシップを促すか」、7 章「リーダー発達研究の今後の展開」、8 章「リーダー発達研究から学ぶべきこと」。
参考図書	金井壽宏『仕事で「一皮むける」 関経連「一皮むけた経験」に学ぶ』光文社 2002 年 ISBN: 4-334-03170-6 740 円+税 金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所 2002 年 ISBN: 4-569-61941-X 780 円+税 坂田桐子（編）『社会心理学におけるリーダーシップ研究のパースペクティブⅡ』ナカニシヤ出版 2017 年 ISBN:978-4-7795-1215-5 4,500 円+税
履修上のポイント	本文だけでなく引用文献のリストにどのような論文があるかチェックしてもらいたい。心理学用語がわからない場合は、参考文献に示された辞典を引いて調べること。
レポート課題 1	基本教材 1 について、2 章から 8 章の各章を要約し、全体についてのコメントを述べること。 留意点： 各章を平均 800 字を目安に要約し、全体についてのコメントを 400 字程度で行うこと（合計 6,000 字で収めること）。
レポート課題 2	基本教材 1 の 2 章から 8 章の文中に引用されている文献のうち、自分の研究テーマと関連あるかもしくは興味関心のあるものを 2 編選び、各々の論文の内容を 3,000 字～4,000 字でまとめること。 留意点： 学術論文データベース（例えば EBSCO, Science Direct, J-Stage）を用いると、効率よく論文を探すことができる。ただし、データベースに登録されていない論文もある。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 田中堅一郎（著） 教材名： 『荒廃する職場/反逆する従業員 職場における従業員の反社会的行動についての心理学的研究』（ナカニシヤ出版，2008 年） ISBN:978-4-77-950281-1 7,500 円+税
	本書は、組織における反社会的行動と職場いじめを中心に最新の研究を紹介し、著者自らが行った実証的研究を紹介したものである。序論から 9 章と補遺、付録から構成されている。内容は、理論編と実証編に分けられ、各章のタイトルは「序論」「組織における反社会的行動研究のこれまで」「荒廃する職場の犠牲者（その 1）」「荒廃する職場の犠牲者（その 2）」「組織報復行動についての研究」「組織における反社会的行動の実態を探る」「組織における反社会的行動の測定尺度作成とその規定要因を探る」「再び組織における反社会的行動の規定要因を探る」「職場の迫害に関する研究」「荒廃する職場と反逆する従業員をどうするか」「補遺」「あとがき」となっている。
参考図書	経営行動科学学会（編）『経営行動科学ハンドブック』中央経済社 2011 年 ISBN:978-4-50-268750-1 9,200 円+税 古畑和孝・岡 隆（編）『社会心理学小辞典 増補版』有斐閣 2002 年 ISBN:978-4-64-100218-0 2,300 円+税
履修上のポイント	本文だけでなく引用文献のリストにどのような論文があるかチェックしてもらいたい。心理学用語がわからない場合は、参考文献に示された辞典を引いて調べること。
レポート課題 1	基本教材 2 の 1 章から 8 章の各章および補遺を要約し、全体についてのコメントを述べること。 留意点： 各章を 600～800 字を目安に要約し、全体のコメントを 400 字程度を目安に、合計 5,400 字～7,000 字でまとめること。
レポート課題 2	基本教材 2 の文中に引用されている論文について、自分の研究テーマと最も近い話題と思われるものを 2 編選び、各々の論文内容と自分の研究テーマとの関連性を（日本語で）3,000 字～4,000 字でまとめること。 留意点： 学術論文データベース（例えば、EBSCO-host, Science Direct, J-Stage）を用いると、効率よく論文を探すことができる。ただし、データベースに登録されていない論文もある。

基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	これまでのリーダーシップ研究と新たな研究基軸（序論，第 1 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	リーダー発達から考えるリーダーシップ（第 2 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	リーダーの自己概念とリーダー発達（第 3 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	リーダーの自己概念が及ぼすリーダー行動（第 4 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	どうすれば多様な自己概念を獲得できるか（第 5 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	リーダーの自己複雑性は変革型リーダーシップを促進するか（第 6 章）
第 7 回	教材に基づく学修(7)	リーダー発達研究の今後の展開（第 7 章，第 8 章）
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	演習課題(1)	自分の研究テーマと基本教材 1 との関連を考え，引用文献リストの中から関連性の高い論文を検索する。
第 11 回	演習課題(2)	検索された論文のうち，最も関心のある論文を 2 編選択する。
第 12 回	演習課題(3)	選択された論文（1）を要約する
第 13 回	演習課題(4)	選択された論文（2）を要約する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	組織における反社会的行動を全体的に理解する（第 1 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	荒廃する職場の犠牲者（第 2 章，第 3 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	組織報復行動（第 4 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	組織における反社会的行動の実態（第 5 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	組織における反社会的行動の測定尺度作成とその規定要因（第 6 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	組織における反社会的行動の規定要因（第 7 章）
第 7 回	教材に基づく学修(7)	職場の迫害，職場いじめ（第 8 章）
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	演習課題(1)	自分の研究テーマと基本教材 2 との関連を考え，引用文献リストの中から関連性の高い論文を検索する。
第 11 回	演習課題(2)	検索された論文のうち，最も関心のある論文を 2 編選択する。
第 12 回	演習課題(3)	選択された論文（1）を要約する
第 13 回	演習課題(4)	選択された論文（2）を要約する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	行動分析学特殊研究	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	ヒトの行動は、実体験による学習、観察による学習および教示による学習により変容します。この教示による学習による行動変容は、言語的に記述された行動随伴性に従う行動という意味で、ルール支配行動とも呼ばれ、ヒトに特有で効率的な学習を可能にしています。一方、誤ったルールの提示により誤った行動が形成・維持される場合もあります。行動分析学特殊研究では、自身の誤った言語的ルールにより形成された病理である鬱の形成メカニズムの基礎として注目されている「刺激等価性」の理解を目的とします。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 1) 「ルール支配行動」について説明できる。 2) 「刺激等価性」について説明できる。 3) 鬱のメカニズムとしての「刺激等価性」と「ルール支配行動」について説明できる。 【行動目標 (SBGs)】 1) ルール支配行動の定義の習得 2) 刺激等価性の定義の習得 3) ルール支配行動の臨床的意義についての理解 4) 刺激等価性研究の発展史の理解 5) 刺激等価性研究における基礎と応用の関連の理解 6) 刺激等価性の臨床への展開の理解		
学修方略 (方法)	【学修方略 (LS) と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材と参考書を読み、草稿を仕上げ提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。刺激等価性とルール支配行動の学習等において、資料収集・テキストの学習に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba-folio を使用したレポートの遂行作業に 15 時間、計 45 時間程度の準備学修時間を要します。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	前期：ルール支配行動の定義と研究史 1) ルール支配行動の定義の理解 2) ルール支配行動の臨床的意義の理解 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：刺激等価性研究とルール支配行動研究の現在における意義 1) 刺激等価性の基礎研究と応用研究の理解 2) ルール支配行動の基礎研究と応用研究の理解 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 11 月末と 12 月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	リポート	75%	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) リポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「リポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	1) 締め切り直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	行動分析学の基礎から臨床応用へのつながりを学び、応用においても基礎の学習が必要であることを理解するようにしてください。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 眞邊一近 教材名： 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社，2019年） ISBN:978-4-78191441-1 2,860 円
	行動分析学の基礎となる学習心理学の概説と、ルール支配行動による言語の病理について日本語で解説したテキストである。
参考図書	ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』（二瓶社，1999年）ISBN:978-4-93-119968-2 4,000 円+税 アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，1992年） ISBN: 978-4-93-119915-6
履修上のポイント	ルール支配行動の定義と臨床的意義を学ぶことを主眼として下さい。
レポート課題 1	行動変容を引き起こす3種の「学習」についてまとめよ。 留意点 ：テキストに掲載されている内容に基づいて，行動変容を引き起こす3種の「経験」についての概説を書いて下さい。
レポート課題 2	3種のルール支配行動とは何かについてまとめよ。 留意点 ：テキストに掲載されている内容に基づいて，ルール支配行動の定義についての概説を書いて下さい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 武藤 崇 教材名： 『アクセプタンス&コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』（ブレーン出版（株），2006年） ISBN:978-4-89-242836-4 3,500 円+税
	本書は，刺激等価性研究やルール支配行動研究から発展した関係フレーム理論に基づいて開発されたアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）についての解説書である。
参考図書	原井宏明『対人援助職のための認知・行動療法：マニュアルから抜け出したい臨床家の道具箱』（金剛出版，2010）ISBN-13 ： 978-477241165 3,500 円+税
履修上のポイント	臨床での実践が、基礎研究に基づいていることを学ぶことを主眼としてください。
レポート課題 1	刺激等価性について概説せよ。 留意点 ：応用行動分析学は，基礎研究から得られた知見の上に成り立っています。基礎研究の重要性が分かるようにまとめて下さい。基礎研究についてまとめた以下の論文が参考になります。 山崎由美子．（1999）．動物における刺激等価性．動物心理学研究，49(2)，107-137. https://www.jstage.jst.go.jp/article/janip1990/49/2/49_2_107/_pdf/-char/ja
レポート課題 2	アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）への展開について概説せよ。 留意点 ：関係フレーム理論におけるルール支配行動や刺激等価性の位置づけについて概説して下さい。

基本教材 1

第 1 回	行動分析学の基礎の学修
第 2 回	行動変容を引き起こす 3 種の「経験」の学修
第 3 回	言語行動（マンド、タクト、イントラバーバル、エコーイックなど）の学修
第 4 回	ルール支配行動（トラッキング、反トラッキング）の学修
第 5 回	ルール支配行動（プライアンス、反プライアンス）の学修
第 6 回	ルール支配行動（オーギュメンティング）の学修
第 7 回	言行一致訓練の意義についての学修
第 8 回	ルール支配行動の臨床的意義についての学修
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	刺激等価性の定義の理解
第 2 回	刺激等価性研究の基礎研究（動物研究等）の学修
第 3 回	刺激等価性研究の応用研究（特殊教育等）の学修
第 4 回	関係フレーム理論における「相互的内包」、「複合的内包」、「刺激機能の変換」の学修
第 5 回	関係フレーム理論における「関係」の学修
第 6 回	アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）の学修
第 7 回	関係フレーム理論とルール支配行動研究および刺激等価性研究の関連性についての学修
第 8 回	行動分析学の基礎研究と応用研究の連関の理解
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育学特殊研究	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。 I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。 II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。 【行動目標（SBGs）】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、レポートの作成、掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士が、草稿段階で相互にレポートを点検し、推敲する協働活動を行う）、レポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論など行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。		
スケジュール	提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終的な締め切り日は、学事暦で定められた日とする。通年30コマ分（半期15コマ分）の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。
	観察記録	20%	Zoomへの参加やメールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。
履修者への要望	指定した参考図書は「学力」や「学力テスト政策」に言及した研究である。一読してもらいたい。レポートは、タイトルを付けて章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。Zoomでの面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、Zoomでの面接も行う。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 北野秋男・下司 晶・小笠原喜康『現代学力テスト批判―実態調査・思想・認識論からのアプローチ』東信堂（2018 年）2,700 円 教材名： 北野秋男・上野昌之編著『ニッポン、クライシス―マイノリティを排除しない社会へ』学事出版（2020 年）3,000 円
	『現代学力テスト批判』は、現代の学力テスト政策を批判的に検討し、本来のあるべき「学力」や「学力テスト」のあり方を検証したものである。文部省「全国学力・学習状況調査」の問題点と「地方学力テスト」の歴史的構造を述べる内容である。『ニッポン、クライシス』は、学力格差に見られる新自由主義的な教育改革のあり様の背景や特徴を解説したものである。
参考図書	佐藤 仁・北野秋男編著『世界のテスト・ガバナンス―日本の学力テストの行く末を探る―』東信堂（2021 年）、川口俊明『全国学力テストはなぜ失敗したのか』岩波書店（2020 年）、志水宏吉『全国学力テスト』岩波ブックレット（2009 年）
履修上のポイント	本書は、現代のわが国の学力テスト政策の問題点を国と地方自治体に区分して論じたものである。学力テスト政策は、「学力向上策」における有効なツールとして、世界的な潮流となっているが、同時に、その問題点や課題も多い。わが国の場合は、2007 年から「全国・学力学習状況調査」が実施されたが、その調査方法や問題構成、情報公開の仕方、テスト結果の利活用などが問題視され、専門家の間でも議論になっている。学力のあり方を新自由主義的な側面からも検討する必要がある、その政策内容は日本社会のあり様を考える上でも喫緊の課題でもある。
レポート課題 1	テキストの『現代学力テスト批判』の「第 1 部」（1 章～3 章）を読んで、わが国の国と地方自治体における学力テスト政策を批判的に検証する。また、合わせて、その歴史的な構造も理解すること。 留意点： 国と地方の学力テスト政策の特徴と問題点を指摘すること。
レポート課題 2	テキストの『ニッポン、クライシス』の「第 1 章」を読んで、現代の学力格差に代表される格差社会の台頭と新自由主義の関連性を指摘すること。 留意点： 「新自由主義」の世界的な潮流を確認した上で、日本の「新自由主義」を検討すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 佐藤 仁・北野秋男編著『世界のテスト・ガバナンス―日本の学力テストの行く末を 教材名： 探る―』東信堂（2021 年）3,200 円
	本書は、世界のテスト・ガバナンスの傾向と課題を国別に検証したものである。米国型の「ハイスティクス・テスト」を規準に、どのような学力テスト政策において効果や有効性が見られるかを、比較教育学的な視点から考察している。対象となった国は、日本・米国以外に豪州・カナダ・ドイツ・韓国・ノルウェーである。日本以外の国を取り上げて、比較考察すること。
参考図書	北野秋男他編著『アメリカ教育改革の最前線』学術出版（2012 年）、北野秋男編著『現代アメリカの教育アセスメント行政の展開』東信堂（2009 年）、大桃敏行他『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007 年）
履修上のポイント	本書は、比較教育学的な視点から世界のテスト政策を比較検証しているが、とりわけアメリカの教育改革と学力テスト政策の関係性を考察することが重要である。アメリカの学力テストを「ハイスティクス・テスト」と位置づければ、日本は「ロー・ステイクス」の国となる。まずは、日米の両国の学力テストのあり方の違い、及び特徴と問題点を指摘すること。次に、日米の学力テストのあり方をカナダ・豪州・ドイツ・韓国・ノルウェーなどの国と比較検証すること。以上の作業によって、世界の学力テストの潮流や特徴をグローバルな視点から理解できることになる。
レポート課題 1	佐藤・北野編著『世界のテスト・ガバナンス』の第 1 部（2 章～4 章）を読んで、アメリカの「ハイスティクス・テスト」の特徴や問題点を論じること。 留意点： なぜ、アメリカは「ハイスティクス・テスト」を導入しているのか。その理由を考える。
レポート課題 2	佐藤・北野編著『世界のテスト・ガバナンス』の日米以外の国（第 5 章から第 10 章まで）を一つ選んで、その学力テスト政策の特徴や問題点を論じること。 留意点： 日米の学力テスト政策との差異や類似点を確認しつつ、論じること。

基本教材 1

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	Zoom による授業内容の解説と質問。メール (ak0924@minuet.plala.or.jp) にて参加申し込みをして下さい。招待メールを送ります。
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 1 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 2 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 5 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 3 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 6 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 7 回	manaba を通じて、草稿レポートの提出・添削、
第 8 回	manaba を通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 9 回	manaba を通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「序章」の重要事項の説明と質疑応答
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『ニッポン、クライシス』の「第 1 章」の欧米の新自由主義の説明と質疑応答
第 11 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 1 章」の日本の新自由主義の説明と質疑応答
第 12 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 13 回	manaba を通じての草稿レポートの提出・添削、
第 14 回	manaba を通じての修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じてレポートの最終稿の提出

基本教材 2

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「序章」の重要事項の説明と質疑応答
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第 2 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第 3 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 5 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第 4 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 6 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 7 回	manaba を通じて、草稿レポートの提出・添削
第 8 回	manaba を通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 9 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第 5・6 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第 7・8 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 11 回	manaba を通じて、テキスト『世界のテスト・ガバナンス』の「第 9・10 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 12 回	manaba を通じて、コラムの「英国・ニュージーランド・アフリカ」の重要事項の説明と質疑応答
第 13 回	manaba を通じての草稿レポートの提出・添削
第 14 回	manaba を通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じて、レポートの最終稿の提出

科目名	教育認識論特殊研究	担当者	キタノ アキオ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講義は、社会科学的研究を進める上で、教育における認識論という基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学び、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。 ①経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。 ②想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。 ③さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。 ④集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。 【行動目標（SBGs）】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、レポートの作成、掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士が、草稿段階で相互にレポートを点検し、推敲する協働活動を行う）、レポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考えや意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論など行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。		
スケジュール	提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終的な締め切り日は、学事暦で定められた日とする。通年30コマ分（半期15コマ分）の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。
	観察記録	20%	Zoomへの参加やメールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮する。
履修者への要望	指定した参考図書は「社会科学」における「認識論」という基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学ぶことを意図したものである。レポートは、タイトルを付けて章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。Zoomを用いて授業内容の概要を説明する。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 野村 康『社会科学の考え方ー認識論、リサーチ・デザイン、手法ー』名古屋大学出版会（2022 年）3,600 円 教材名： 版会（2022 年）3,600 円
	社会科学において研究を進めていく上での研究方法の内容や技法を理解することは重要である。とりわけ、教育における「認識論」という基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学ぶことは必修の事柄でもある。「認識論」とは、世の中や社会をどのように認識することができるかに関する考え方であり、いくつかの認識論的立場をふまえて具体的な研究へと進むことが求められる。第 1 部は「認識論」の基本的な考え方について、第 2 部は社会科学の具体的な方法論について学ぶ。
参考図書	北野秋男・下司 晶・小笠原喜康『現代学力テスト批判ー実態調査・思想・認識論からのアプローチー』東信堂（2018 年）、小笠原喜康『学力問題のウソ：なぜ日本の学力は低いのか』PHP（2008 年）、中井孝章『学校教育の認識論的転回』溪水社（2004 年）
履修上のポイント	本書は、社会科学において研究を進めていく上での「認識論」という基本的・根源的問題について、その考え方や方法論を学ぶことを意図したものである。社会科学の研究方法を考える際には、どのように人間社会を認識するか、あるいは認識できると考えているかを再確認することは重要なテーマである。「認識論」の基本的立場や考え方を理解した後は、「認識論」的な研究を進めていく上では社会科学のリサーチ方法としてのリサーチ・デザインや手法を学ぶことも自己の研究における深化と発展には不可欠なものとなる。自己の研究手法の再確認にも役立つものとなる。
レポート課題 1	テキスト『社会科学の考え方』の「第 1 部」（社会科学の認識論）「第 1 章」（認識論）を読んで、「認識論」の基本的立場や考え方を説明する。特に、「実証主義」「批判的实在論」「解釈主義」のパラダイムについて区分して説明すること。最後に、「主観性」と「客観性」にも言及すること。 留意点： 最初に「存在論」と「認識論」の違いや関係について考察すること。
レポート課題 2	テキスト『社会科学の考え方』の「第 2 部」（社会科学のリサーチ・デザイン）における「事例研究」「実験」「横断的・縦断的研究」「インタビュー」「エスノグラフィー」「調査票調査」「言説分析」の中のいずれか一つを選び、自己の研究内容や方法論も念頭に置きながら、その方法論の重要ポイントを述べること。 留意点： 「第 2 部」の第 2 章から第 8 章までの中から一つ選び、説明すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 北野秋男・下司 晶・小笠原喜康『現代学力テスト批判ー実態調査・思想・認識論から教材名： らのアプローチー』東信堂（2018 年）2,700 円
	本書は、現代の学力テスト政策をより根源的な認識論の視点からテスト問題のあり方を批判的に考察したものである。特に、第 2 部は教育思想・哲学を専門とする著者が原理的・理論的に学力論を分析し、「状況的学習論」や「言語論的転回」以後の知識論を取り上げたものである。第 3 部は、「認識論」の観点からテスト問題のあり方を批判的に考察したものである。
参考図書	小笠原喜康『学力問題のウソ：なぜ日本の学力は低いのか』PHP（2008 年）、中井孝章『学校教育の認識論的転回』溪水社（2004 年）
履修上のポイント	本書は、現代の学力テスト政策を 3 人の著者が各自の専門的な立場から批判的にアプローチしたものである。とりわけ、第 2 部は教育思想・哲学を専門とする著者が明治からの日本の学力論のあり方を原理的・理論的に分析した上で、「状況的学習論」や「言語論的転回」以後の知識論を取り上げたものである。第 3 部は、「知識は学力ではない」とする認識論的なアプローチから現代の学力テスト問題を具体的に分析し、その問題点を考察したものである。著者の学力観を理解し、「学力のあり方」を考えることが課題である。
レポート課題 1	テキスト『現代学力テスト批判』の第 2 部（4 章～6 章）を読んで、わが国の学力テスト社会の形成の歴史と「状況的学習論」や「言語論的転回」以後の知識論の内容を述べる。 留意点： 特に、テキストの第 4 章と第 5 章を中心にまとめること。
レポート課題 2	テキスト『現代学力テスト批判』の第 3 部（7 章～9 章）を読んで、「認識論」の観点から学力テスト問題のあり方を批判的に考察すること。また、知識中心の学力テスト社会の行く末を考察する。 留意点： なぜ、量的な知識を測る学力テストは問題なのか。著者の主張を的確に指摘すること。

基本教材 1

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	Zoom による授業内容の解説と質問。各自の研究内容と方法論についての検討と課題の関連性。 メール (ak0924@minuet.plala.or.jp) にて参加申し込みをして下さい。招待メールを送ります。
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「基礎づけ主義」の説明と質疑応答
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「認識論のパラダイム」の説明と質疑応答
第 5 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「客観性と主観性」の説明と質疑応答
第 6 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 7 回	manaba を通じて、草稿レポートの提出・添削、
第 8 回	manaba を通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 9 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「事例研究」「実験」の説明と質疑応答
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「横断的・縦断的研究」「インタビュー」の説明と質疑応答
第 11 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「インタビュー」「エスノグラフィー」の説明と質疑応答
第 12 回	manaba を通じて、テキスト『社会科学の考え方』の「調査票調査」「言説分析」の説明と質疑応答
第 13 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認、及び草稿レポートの提出・添削、
第 14 回	manaba を通じての修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じてレポートの最終稿の提出

基本教材 2

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 4 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 5 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 6 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 5 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 6 回	manaba を通じて、草稿レポートの提出・添削、
第 7 回	manaba を通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 8 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 7 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 9 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 8 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 9 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 11 回	manaba を通じて、世界の学力テストと日本の学力テスト問題の比較検証
第 12 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 13 回	manaba を通じての草稿レポートの提出・添削
第 14 回	manaba を通じて、修正レポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じて、レポートの最終稿の提出

科目名	健康科学特殊研究	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その基本的な考え方と、個々の事例に適用する際の課題について学修することを目的とする。 2. 「健康」の基礎となる「生命活動」について、生態系と生命体個体の両方の観点から考察することを目的とする。 1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。		
到達目標	【一般目標（GIO）】 1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その原典となる考え方にに基づき、個々の事例に適用することを修得する。 2. 「生命活動」の基本的な原理について、自分自身の考え方を創造する。 【行動目標（SB0s）（知識・技能）】 医療分野における「エビデンス」が作成されるプロセスとその適用方法を説明できる。 『生命とは何か』という問いに対し、科学的な知見と根拠に基づいた、自分自身の考えを説明できる。		
学修方略 (方法)	【学修方略（LS）と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】（自主研究・レポート作成） - manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 - manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 - 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。 後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和6年1月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正（目次案など）について、メールなどで連絡相談して下さい（izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp）。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 日本医療機能評価機構 教材名： 『医療情報サービス Minds（マインズ）』 http://minds.jcqhc.or.jp/s/about_us_overview
	厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。
参考図書	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル編集委員会 『Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver.3』 公益財団法人日本医療機能評価機構 https://minds.jcqhc.or.jp/s/manual_2020_3_0
履修上のポイント	医療分野において言われる『エビデンス』がどのようにして検証されるのか、またそのエビデンスに基づいたガイドラインを、個々の事例に適用する際の考え方について学修する。
レポート課題 1	特定の診療ガイドラインを取り上げ、そのガイドラインが作成された目的と経緯、作成時のポイント等をまとめること（注：ガイドライン自体の解説ではない）。 ガイドラインとしては、例えば厚生労働省の『健康づくりのための身体活動基準 2013』や、日本看護協会の『夜勤・交代制勤務に関するガイドライン』のようなものでも良い。
レポート課題 2	上記のガイドラインを、個々の事例に当てはめた際の課題を論ずること。異なるガイドライン間での方針の相違を取り上げて良い。 該当する事例を思い当たらない場合は、連絡して下さい。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名： 『現代生命科学 第3版』（羊土社、2020年3月） ISBN 9784758121033 2,800円+税
	生命科学の基礎的な知識に関し、最新の情報を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は、『理系総合のための生命科学(第5版、2020年3月)』でも可。
参考図書	福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書、2007年） ISBN 978-4-06-149891-4 880円+税
履修上のポイント	「生命とは何か」という問いに対し、生態系という観点と、生命体個体に関する視点から、その答えにアプローチする方法論を学修する。
レポート課題 1	ヒトも生態系の一部という観点から、共生する微生物（腸内、皮膚、あるいは環境）、または生物の中から一つを取り上げ、健康や疾患との関連性について論じること。
レポート課題 2	ヒトを含めた生命体、あるいは細胞の機能を理解する上で、生命体を、それを構成する臓器・組織、細胞内小器官や生体高分子等の部分・物質レベルに分割して理解しようとする、いわゆる「機械論的な還元主義」に関し、その有用性と限界、及び健康と不健康状態（疾病を含む）との関連性について論じること。合成生物学や人工生命の観点を取り入れても良い。 正解の無い哲学的な課題でもあるが、観念論に終始せず、生命科学の知見を踏まえ、なるべく具体的な事象を取り上げた上で、自分自身の考えを論じて下さい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修；全般的な「ガイドライン」作成の目的と手順について
第 3 回	課題として取り上げる題材（ガイドライン）に関する学修
第 4 回	取り上げた題材の全般的な背景に関する学修
第 5 回	取り上げたガイドラインが作成された背景と経緯に関する学修
第 6 回	取り上げたガイドラインの、実際の適用状況に関する学修
第 7 回	取り上げたガイドラインの、今後の課題に関する学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の個体レベルでの学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の集団レベルでの学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；生命体が相互作用する、生態系レベルでの生命活動の学修
第 7 回	生命活動に対する、還元主義の適用や、階層性等に関する学修と考察
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	リポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	リポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	リポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	リポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	リポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	リポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	リポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証